

小学校編

新学習指導要領に基づく
指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料

令和2（2020）年7月
栃木県教育委員会

はじめに

平成 29 年 3 月に告示された新学習指導要領が、令和 2 年度から全面実施となりました。各学校におかれましては、教育課程の編成や各種教育計画の作成など、様々な準備を行うとともに、その趣旨の実現に向けて、日々の実践に取り組まれていることと思います。

新学習指導要領では、これまでの学校教育の実践や蓄積を生かし、子供たちが未来を切り拓くための資質・能力をより一層確実に育成することを目指すことが示されました。このため、今回の改訂においては、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために、全ての教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理されました。また、このことを踏まえ、各教科における観点別学習評価の観点も、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点到整理されました。

学習評価に関する国の動きとしては、平成 31 年 1 月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」がとりまとめられたことを受け、同 3 月に「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」で、新学習指導要領の下での学習評価の基本的な考え方が示されました。また、令和元年 6 月には、国立教育政策研究所から、「学習評価の在り方ハンドブック」が、令和 2 年 3 月には「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」が、各学校において学習評価を進める際の参考資料として示されました。

県教育委員会では、国の動向や各学校の実態等を踏まえ、学習指導要領に示された内容が児童一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、その後の学習指導の改善に生かすとともに、学校の教育活動全体の改善に結び付けていく指導と評価の一体化の取組が重要であると考えております。そこで、これからの学習評価の基本的な考え方を示すとともに、新学習指導要領に示された目標の実現状況を適切に評価し、指導と評価の一体化を図るための評価規準の設定や、指導及び評価計画作成のための参考に資するよう本資料を作成しました。

各学校におかれましては、本資料の活用を通して、より適切な学習評価を行い、学習指導の改善・充実に生かしていただきますようお願いいたします。

令和 2（2020）年 7 月

栃木県教育委員会事務局義務教育課長


柳 田 伸 二

目次

○ はじめに	
○ 目次	
○ 第1章 評価を知ろう	1
1 学習評価の意義	2
2 学習評価の観点	3
3 各観点の評価に関する考え方	4
4 学習評価の考え方	8
○ 第2章 評価をしよう	9
1 学習評価の方法と対象	10
2 評価の進め方の基本的な考え方	11
[各教科等編]	12
国語	13
社会	21
算数	31
理科	41
生活	49
音楽	57
図画工作	67
家庭	75
体育	85
外国語	97
外国語活動	105
総合的な学習の時間	107
特別活動	117
特別の教科 道徳	125
○ 第3章 評価を生かそう	127
1 学習評価の充実のために	128
2 指導と評価の一体化のために	129
○ 参考資料	

本資料における主な参考資料の表記

- ・「解説 ○○編」…「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」 文部科学省（平成29年7月）
- ・「報告」…「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」
中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会（平成31年1月21日）
- ・「改善等通知」…「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」
文部科学省 初等中等教育局（平成31年3月29日）
- ・「参考資料 ○○」…「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」 小学校
文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和2年3月）



第1章

評価を知ろう

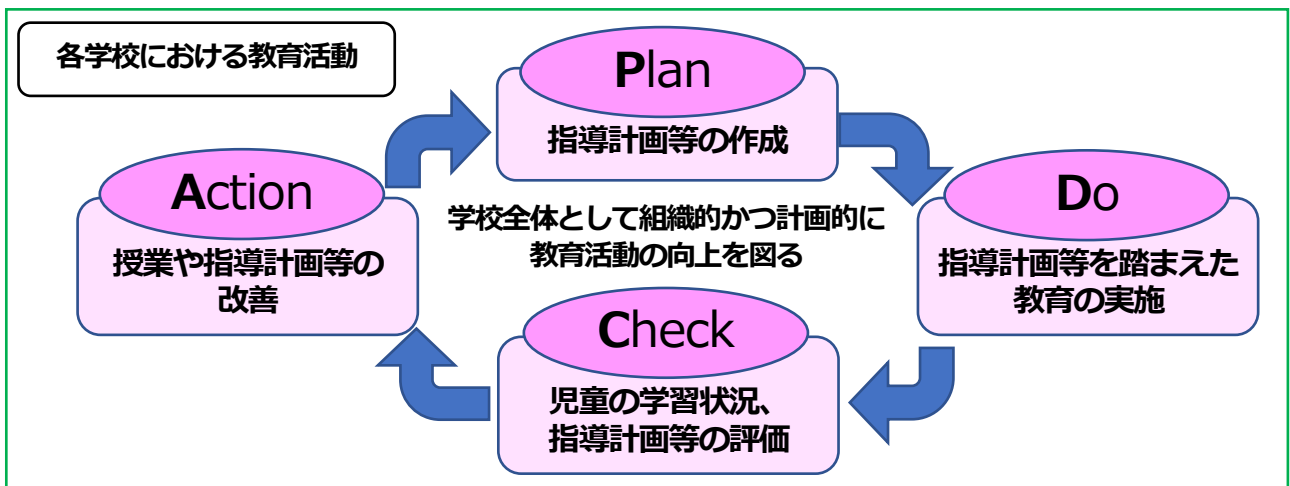
1 学習評価の意義

Q1：学習評価は、なぜ行うのですか。

A：児童の学習の改善と、教師による指導の改善に生かすためです。

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童の学習状況を評価するものです。「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

各学校は、日々の授業の下で児童の学習状況を評価し、その結果を児童の学習や教師による指導の改善、学校全体としての教育課程の改善、校務分掌を含めた組織運営等の改善に生かす中で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っています。このように、「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。



Q2：「指導と評価の一体化」とは、どのようなことですか。

A：評価の結果によって、その後の指導を改善し、更に新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることです。

指導と評価の一体化を進めるためには、評価活動を評価のための評価に終わらせることなく、指導の改善に生かすことによって、指導の質を高めることが重要です。教師が児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、児童が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるようにしていくことが必要となります。また、学習評価を、日常的に、通知表や面談などを通じて、児童や保護者に十分説明し、児童や保護者と共有することなども大切です。

新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。

学習指導要領の趣旨を実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要であり、学習評価を真に意味のあるものとし、指導と評価の一体化を実現することがますます求められています。

このため、今回の改訂では、以下のように学習評価の改善の基本的な方向性が示されました。

- ① 児童の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

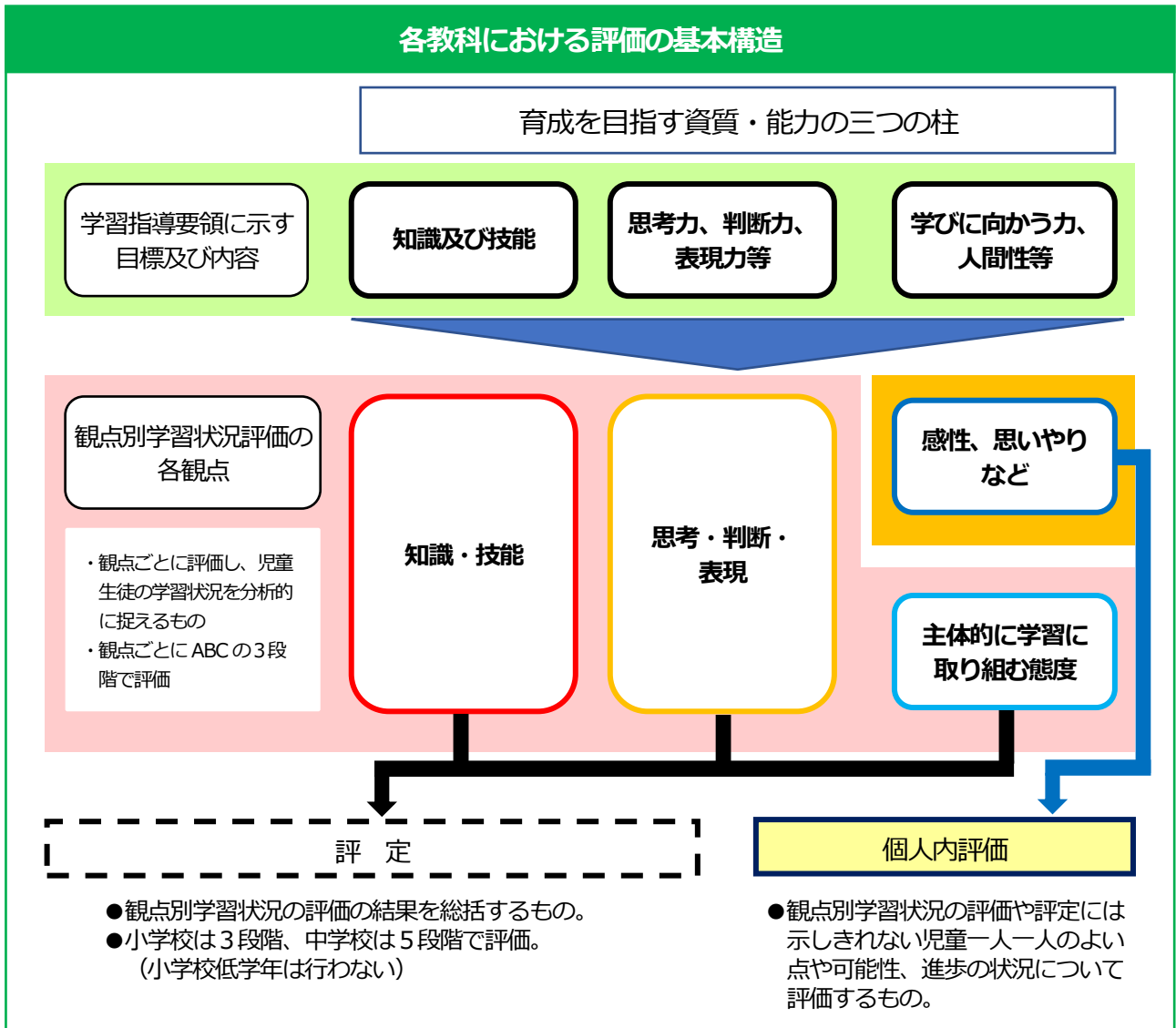
2 学習評価の観点

Q3：今回の改訂で、評価の観点は、どのようになったのですか。

A：評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に再整理されました。

新学習指導要領の目標が、資質・能力の三つの柱で再整理されました。

このことを踏まえ、観点別学習状況の評価については、目標に準拠した評価の実質化や、教科・校種を超えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、小・中・高等学校の各教科を通じて、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されました。



Q4：「観点別学習状況の評価」とは、どのようなものですか。

A：観点別学習状況の評価とは、学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、児童の学習状況を分析的に捉えるものです。

3 各観点の評価に関する考え方

Q5 : 「知識・技能」の評価におけるポイントは何ですか。

A : 「基本的な知識や技能を習得しているか、そしてそれらの知識や技能を、これまでに学んだことと関連付けて他の場面でも活用できるような力を身に付けているか」という点です。

「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価します。

評価を行うに当たって、具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。また、児童が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことも考えられます。

Q6 : 「思考・判断・表現」の評価におけるポイントは何ですか。

A : 「知識及び技能を活用して、課題を設定したり、その解決に向けて自分で考えたり、誰かと意見を交換することで、よりよい解決の方向性を見いだすことができるような、少し進んだ力をもっているか」という点です。

「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。

評価を行うに当たっては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなどの工夫をすることが考えられます。

Q7 : 「学びに向かう力、人間性等」と「主体的に学習に取り組む態度」は、どのような関係になっていますか。

A : 「主体的に学習に取り組む態度」は、「学びに向かう力、人間性等」の要素の一つです。

「学びに向かう力、人間性等」には、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、「感性、思いやり」など、観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があることに留意し、「感性、思いやり」などについては、観点別学習状況の評価の対象外とする必要があります。

Q8 : 感性や思いやりなどの児童一人一人のよいところは、どのように評価するのですか。

A : 評定につながる観点別学習状況の評価として記録に残すことはしませんが、**児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況など**については**個人内評価として見取り**、日々の教育活動や総合所見等を通じて、**積極的に児童に伝える**ことが重要です。

Q9 : 「主体的に学習に取り組む態度」の評価におけるポイントは何ですか。

A : 「やる気があって、自分なりに工夫をして学習改善をする力や、自分で学習のサイクルを回していくような力をもっているか」という点です。

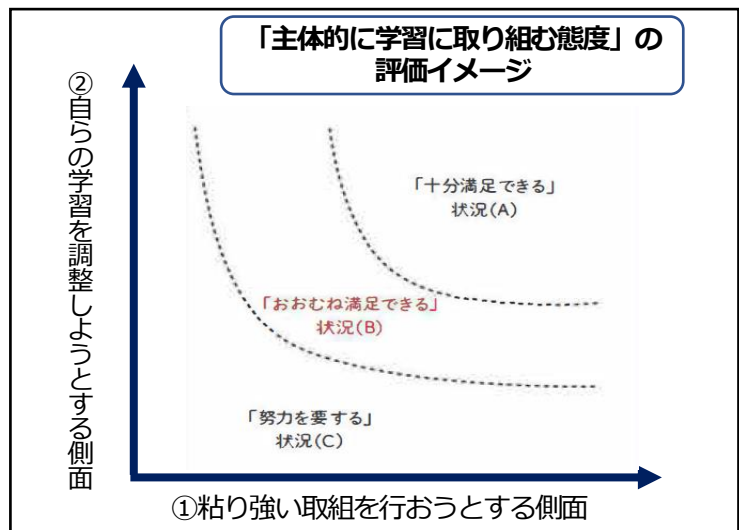
「粘り強い取組」と「自己調整」という二つの側面を評価することがポイントです。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面」と、②「①の粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面」という、二つの側面を評価することが求められます。

Q10 : 「粘り強い取組」と「自己調整」については、具体的に児童のどのような学習状況を評価するのでしょうか。

A : 粘り強く取り組んでいるということだけでなく、自分の学びの方向性が学習の目標の達成に向かっているかどうかを認識し、取り組み方を修正するなどの自己調整を行いながら取り組んでいることも、併せて評価する必要があります。

「粘り強く学習に取り組む態度」と「自らの学習を調整しようとする態度」は、実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられることから、実際の評価の場面においては、**双方の側面を一体的に見取ることも想定**されます。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではありません。このような考え方にに基づき評価を行った場合には、例えば、「粘り強い取組を行おうとする側面」が十分



に認められたとしても、「自らの学習を調整しようとしている側面」が認められない場合には、「主体的に学習に取り組む態度」の評価としては、基本的に「十分満足できる」(A)とは評価されないこととなります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって行うものであり、その評価の結果を、知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力等の育成に関わる教師の指導の改善と児童の学習の改善にも生かすことにより、バランスのとれた資質・能力の育成を図るという視点が重要です。この点を踏まえると、この観点のみを取り出して、例えば拳手の回数など、その形式的態度を評価することは適当ではなく、他の観点に関わる児童の学習状況と照らし合わせながら学習や指導の改善を図ることが重要です。

上記の考え方にに基づけば、単元の導入の段階では観点別の学習状況にばらつきが生じるとしても、指導と評価の取組を重ねながら授業を展開することにより、単元末や学期末、学年末の結果として算出される3段階の観点別学習状況の評価については、観点ごとに大きな差は生じないものと考えられます。仮に、単元末や学期末、学年末の結果として算出された評価の結果が「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、「CCA」や「AAC」といったばらつきのあるものとなった場合には、児童の実態や教師の授業の在り方など、そのばらつきの原因を検討し、必要に応じて、児童への支援を行い、児童の学習や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められます。

「粘り強い取組」と「自己調整」について

今回の改訂で、観点別学習状況の評価の新しい観点として、「主体的に学習に取り組む態度」が示されました。これまで「関心・意欲・態度」の観点に基づいて見取ってきた、児童の「興味・関心」や「学習意欲」、「学習態度」のうち、「学習態度」、つまり「学習への取り組み方」を特に重視して評価していくものと考えられます。

具体的な視点として、「粘り強く学習に取り組む側面」と「自ら学習を調整しようとする側面」が挙げられました。「主体的に学習に取り組む態度」を評価する上で重要なこの二つの側面について、もう少し詳しく紹介します。

「粘り強い取組を行おうとする側面」

粘り強い取組を行おうとする側面は、小学校の頃には既に見られる姿です。小学校低学年の頃は、内発的な学習意欲によって、興味・関心のあることを粘り強く学びます。そして、小学校高学年の頃には、それとともに、学習に対する「自己効力感」、言い換えると『やればできる』という気持ちによって、嫌いな教科でも粘り強く学べるようになります。自己効力感が低いと、「少しは努力するが、うまくできずとすぐにあきらめてしまう」という状態になりやすいことが考えられます。

それぞれの児童に適切な目標、「努力すれば達成できるような目標」を設定させ、それが達成できるように指導することを通して、『やればできる』という気持ち」をできるだけ多く経験させることで、児童が学ぶおもしろさや楽しさ、充実感を味わい、粘り強く学習に取り組む態度を育むことにつながります。

「自ら学習を調整しようとする側面」

自らの学習を調整しようとする側面、それを支える力「自己調整力」とは、児童が自らの学習過程を客観的に捉え、うまくいかなかったところはどこかを振り返り、自らの学びをコントロールする力とすることができます。

これらの「メタ認知」が機能するのは、小学校高学年といわれており、それ以前の段階においては、児童が自身の学びの姿に気付けるような、教師による支援が必要です。

「自己調整力」という新たなキーワードを聞くと、「何か新しいことをしなければならぬのでは」と考えてしまいそうですが、「自己調整力」を育むための取組は、これまでも学校教育活動において行われてきたものです。

具体的には、「学習の計画や見通しを立てる」ことや、「学習の振り返りを行う」といったこととなります。ただ、児童がこれらのことを、自分の力でできるようになるためには、教師が活動のポイントを児童と一緒に確認しながらやり方を示すなど、発達の段階に即した支援を行いながら、児童の活動に対して適宜肯定的なフィードバックをするなどの工夫が必要です。

Q11：意欲が高まっている姿は「主体的に学習に取り組む態度」として評価できますか。

A：学習意欲が高まっている姿のみを評価の対象とすることは適切ではないと言えます。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、単純に題材や内容に対する関心の高まりのみを評価するものではなく、目標の達成に向けて**粘り強く学習に取り組む中で、児童が自分自身の学習状況を把握し、学び方を工夫するなどの自己調整を行いながら学習している状況を評価する**ものです。このことを踏まえると、評価場面は、単元の前半から繰り返し行う学習改善のための指導を踏まえ、単元のゴールとなる言語活動や振り返りの場面などが適切であると考えられます。

「このようなことで評価していませんか。」

挙手の回数

ノートの取り方

宿題の提出状況

忘れ物の有無

これまでの観点別学習状況評価の観点の「関心・意欲・態度」を評価する上で、上記のようなところを評価していませんか。

新学習指導要領の観点別学習状況評価の観点のうち「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが求められます。

これまでの「関心・意欲・態度」についても、本来は同じ趣旨なのですが、挙手の回数やノートの取り方などの性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が長年に渡り指摘されていました。

本来の趣旨に沿った評価が行われるためには、単元や題材を通じたまとまりの中で、児童が見通しをもって学習に取り組み、その学習を振り返る場面を適切に設定することが必要となります。

Q12：教科等横断的に育成を目指すこととされた資質・能力が児童に身に付いているかどうかについては、どのように評価を行うのでしょうか。

A：各教科等における「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点別学習状況評価に反映して見取り、評価します。

「改善等通知」では、「言語能力、情報活用能力や問題発見・解決能力など教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力は、各教科等における「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映することとし、各教科等の学習の文脈の中で、これらの資質・能力が横断的に育成・発揮されることが重要であること。」と指摘しています。

例えば、小学校において「消費者に関する教育」を教科等横断的に推進する際に、家庭科の「物や金銭の使い方と買い物」に関する内容と、社会科の「我が国の産業と情報の関わり」に関する内容など、関係する各教科等の内容間の相互の関連を図ることは重要です。

また、内容間の関連が有機的に図られるためには、消費者に関する教育を指導する際のねらいを明確化した上で、教育の内容を選択し、各教科等の内容相互の関連を図りながら指導計画を作成することが必要であり、各教科の内容を、それぞれの教科の学習の文脈において、しっかりと学習することが重要となります。

4 学習評価の考え方

「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」

「指導に生かす評価」

学習を通して身に付けるべき資質・能力がどのくらい身に付いているかを評価規準に照らして見取り、適切な支援を行うことで児童の学習改善につなげるために行う評価です。

「記録に残す評価」

指導した内容について、児童の達成状況を見取り、記録に残して総括するための評価です。評価の結果を、児童の学習改善のため、適切な支援につなげるという点においては、「指導に生かす評価」と同じです。

いずれも児童の学習、教師の指導の改善に生かすことが重要

※ 指導要録に関して求められるのは、「記録に残す評価」の部分

Q13：「記録に残す評価」は、毎時間行うのですか。

A：「指導に生かす評価」は毎時間行いますが、「記録に残す評価」については、各観点について評価の場面を精選することが重要です。

日々の授業の中では、児童の学習状況を見取って、児童の学習改善と教師の指導改善を図る「指導に生かす評価」に重点を置きます。

単元のまとまりの中で適切に評価を実施するためには、単元の計画を立てる段階から、評価時期や場面、評価方法等を考えておくことが必要になります。

Q14：「記録に残す評価」は、いつ行うのですか。

A：観点別の学習状況について評価するための「記録に残す評価」は、原則として単元や題材など、内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行います。

評価に当たっては、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を明確に区別し、処理することが重要です。「単元当初の指導に生かす評価を基に、教師が支援を行い、児童が目標に向かって努力したことで、目標とする資質・能力を身に付けることができた」というような、指導の結果見られる児童の姿を見取り「記録に残す評価」とすることが大切です。

学習指導のねらいが児童の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を児童に育むためには不可欠です。

その上で、評価規準に照らして、観点別学習状況の評価をするための記録を取ることになりますが、毎時間児童全員について記録をとり、総括の資料とするために蓄積することは現実的ではないことから、児童全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価するための評価の計画が一層重要になります。そのためには、各単元で評価の場面を精選し、学期や学年を見通した指導と評価の計画を作成することが重要です。



第2章

評価をしよう

1 学習評価の方法と対象

Q1：学習評価では、何をどのように評価するのですか。

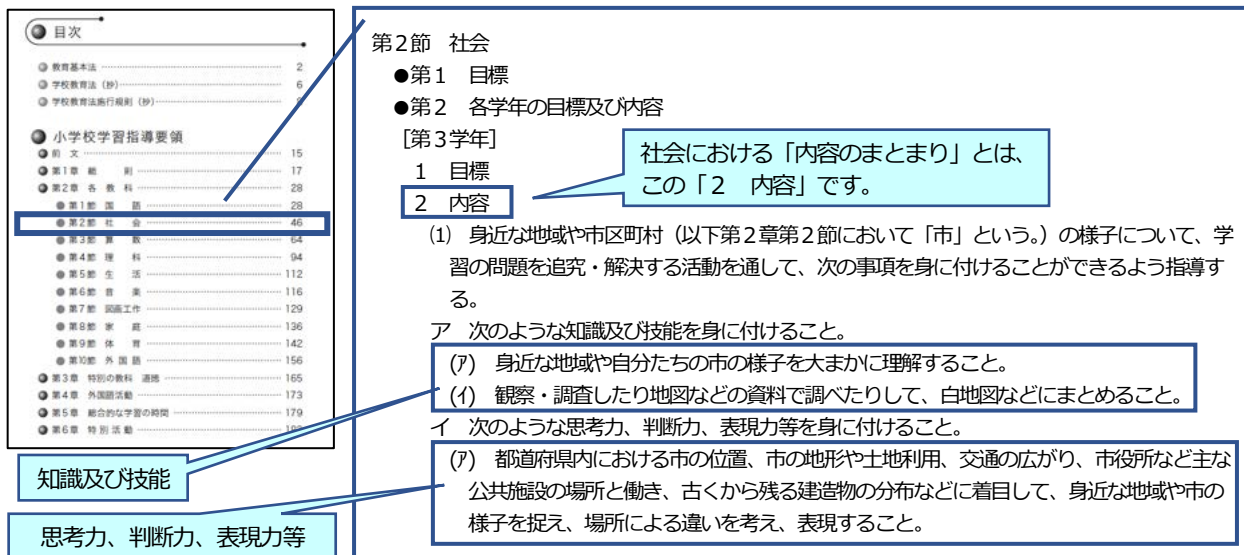
A：「目標」の実現状況としての児童の姿を、「評価規準」に照らして評価します。

各教科における授業を通して、児童に目標とする資質・能力の育成を目指す上で、教師は目標の実現状況を評価し、指導の改善につなげます。評価を行うためには、児童が目標とする資質・能力を身に付けているかどうかを見取るためのよりどころとなる「ものさし」のようなものがが必要です。その「ものさし」に当たるものが「評価規準」といえます。

新学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、資質・能力の三つの柱で整理されていることを踏まえ、学習指導要領の「目標」に記載された文章を基にして評価規準を作成することができます。

ここでは、小学校学習指導要領の社会を例に、「2 内容」に記載された文章を活用した、「内容のまとまりごとの評価規準」の作成について紹介します。

「内容のまとまり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年（又は分野）の目標及び内容 2 内容」の項目等を、そのまとまりごとに細分化したり整理したりしたものです。各教科等においては「2 内容」の「内容のまとまり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されています。このため、「2 内容」の記載は、そのまま各教科等の学習指導の目標となりうるものとなっています。



第2節 社会

- 第1 目標
- 第2 各学年の目標及び内容

[第3学年]

- 1 目標
- 2 内容

社会における「内容のまとまり」とはこの「2 内容」です。

(1) 身近な地域や市区町村（以下第2章第2節において「市」という。）の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。

(イ) 観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

目標となりうる「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」に変えることで、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成することができます。

- ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」については、当該学年（又は分野）の「内容のまとまり」を確認し、その記載を活用して作成します。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、継続的な取組を通して現れる性質を有すること等から、「2 内容」に記載がありません。そのため、各学年（又は分野）の「1 目標」を参考にしつつ、必要に応じて「改善等通知」の観点の趣旨を参考にして作成をする必要があります。

<内容のまとまりごとの評価規準例>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解している。 ・観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域における社会的事象について、地域社会に対する誇りと愛情をもつ地域社会の担い手として、主体的に問題解決しようとしていたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしていたりしている。

※ 単元（題材）の評価規準も、この考え方に沿って、単元（題材）の目標を踏まえて作成していくこととなります。

2 評価の進め方の基本的な考え方

Q2：実際の学習評価は、どのように進めるのですか。

A：内容のまとまりごとの評価規準を踏まえて、単元（題材）の評価規準を作成し、それを基に指導と評価を行っていきます。

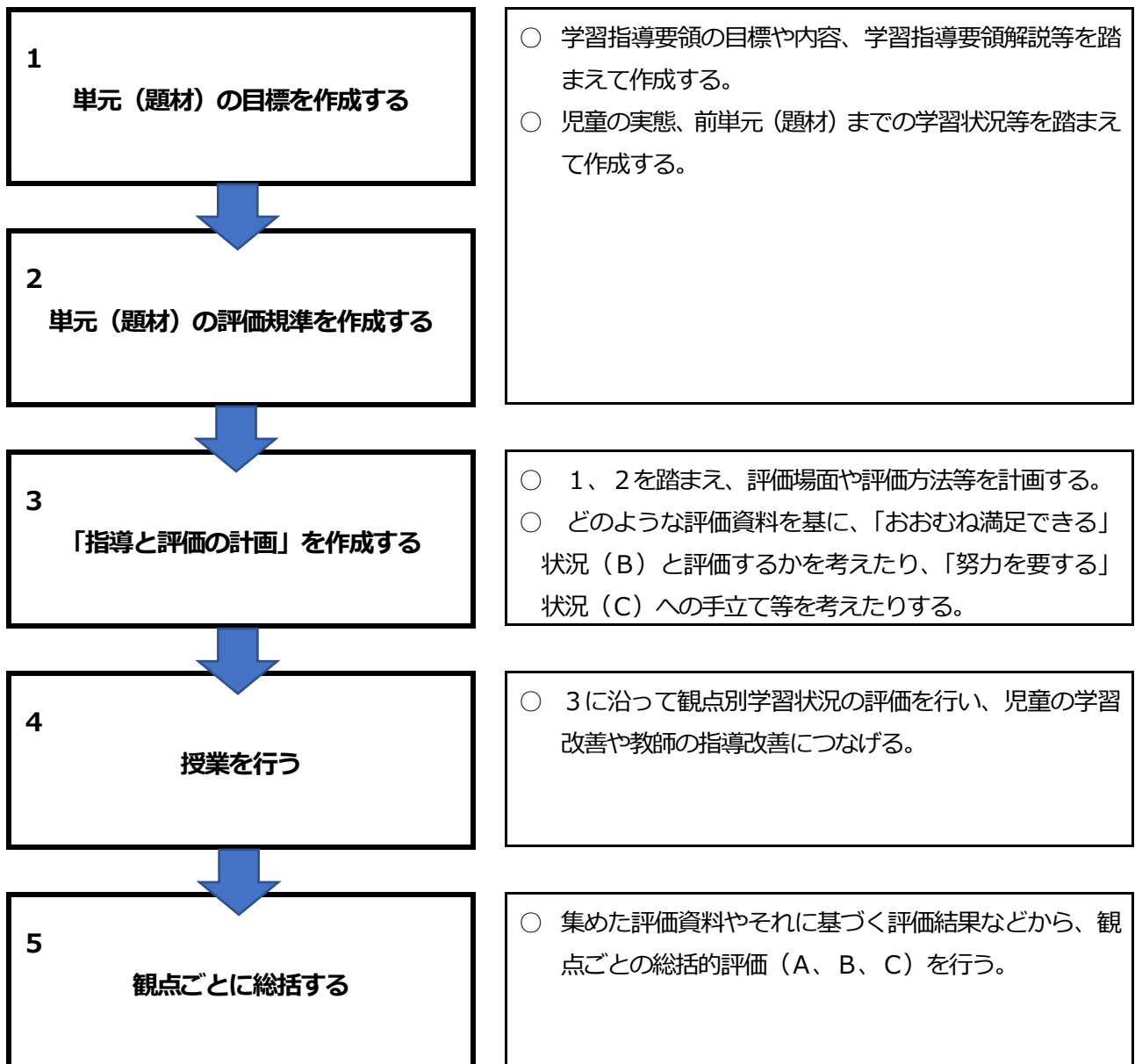
各教科等の単元（題材）における学習評価を行うに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。年間を通じて目指す資質・能力を児童に確実に育むためには、年間における各単元（題材）の位置付けや、その単元において育成する資質・能力を明確にする必要があります。

その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえ、以下のように進めることが考えられます。

なお、複数の単元（題材）にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらないこともあることに留意する必要があります。

評価の進め方

留意点





各教科等編

国 語

1 まずは、ここを確認しよう

Q1：小学校国語科では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A：小学校国語科で育成を目指す資質・能力は、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」であり、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して育成することが求められています。

【小学校国語科の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

Q2：国語科の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：各学年とも、「2 内容」は、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の二つの「内容のまとめり」で示されています。これらのまとめりは、更に以下のように分けられています。

〔知識及び技能〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

A 話すこと・聞くこと

(2) 情報の扱い方に関する事項

B 書くこと

(3) 我が国の言語文化に関する事項

C 読むこと

「内容のまとめり」と「評価の観点」との対応は、以下のように整理されています。

「内容のまとめり」

〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	A 話すこと・聞くこと
(2) 情報の扱い方に関する事項	B 書くこと
(3) 我が国の言語文化に関する事項	C 読むこと

「評価の観点」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

「2 内容」を基に「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

- 学習指導要領の「2 内容」には、育成を目指す資質・能力（指導事項）が示されている。
- その「2 内容」に示されている育成を目指す資質・能力（指導事項）は、そのまま単元の目標になりうる。
- 育成を目指す資質・能力（指導事項）の文末を「～すること」から「～している」（児童が資質・能力を身に付けた状態）と変更することで、「内容のまとめりごとの評価規準」になりうる。

国語科においては、「内容のまとめりごとの評価規準」を「単元の評価規準」とすることができます。

2 単元の目標と評価規準を設定しよう

Q3 : 単元の目標と評価規準は、どのように作成するのですか。

A : 小学校国語科においては、次のような流れで作成していきます。

- | | | |
|--------------------------|---|----|
| (Step 1) 単元で取り上げる指導事項の確認 | } | I |
| (Step 2) 単元の目標と言語活動の設定 | | |
| (Step 3) 単元の評価規準の設定 | } | II |
| (Step 4) 単元の指導と評価の計画の決定 | | |
| (Step 5) 評価の実際と手立ての想定 | | |

I 単元の目標について (Step 1) 及び (Step 2)

- 年間指導計画を基に、**単元で取り上げる指導事項を確認し**、以下の3点について単元の目標を設定します。
 - (1) 「知識及び技能」の目標
 - (2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標
→(1)、(2)については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示します。
 - (3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標
→(3)については、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示します。
- **単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付けます。**

II 単元の評価規準について (Step 3)

- 以下を参考に、単元の評価規準を作成します。
 - 「知識・技能」の評価規準の設定の仕方
 - ・ 当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として作成します。
 - ・ 育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもあります。
 - 「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方
 - ・ 当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記します。
 - (例)
 - 「話すこと・聞くこと」において～
 - 「読むこと」において～
 - 「書くこと」において～
 - ・ 文末を「～している。」として作成します。
 - ・ 育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもあります。
 - 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方
 - ・ 以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられます。
 - ① 粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
 - ② 自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
 - ③ 他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
 - ④ 当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)
 - ・ 文末は「～しようとしている。」とします。
- ※ なお、〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定されます。

事例

(「参考資料 国語」 p.42) 参照

ここでは、事例を基に、単元の目標や評価規準作成の流れを紹介します。

1 単元名と内容のまとめ

単元名 夏休みの思い出を報告しよう (第2学年) A 話すこと・聞くこと	内容のまとめ 第1学年及び第2学年 〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 「A 話すこと・聞くこと」
---	---

国語

年間指導計画を基に、**単元で取り上げる指導事項を確認すること**から始めます。

2 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕 (1)オ
- (2) 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)イ
- (3) 話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)エ

国語科の単元では、原則として、〔知識及び技能〕に関する事項と〔思考力、判断力、表現力等〕に関する事項とが組み合わされて、単元の目標が設定されます。単元の指導内容に合わせて適切な指導事項を選択し、それを引用することによって（一部を用いることによって）目標を設定することができます。

- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

この場合、(4)の目標は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の目標を参照して設定することができます。いずれの単元においても**当該学年の学年の目標**である「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示します。

各学年の目標は、教科の目標に示す(1)、(2)、(3)に対応して、2学年のまとめごとに、示されています。以下は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の目標です。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

(「解説 国語編」 p.14) 参照

3 単元で取り上げる言語活動

単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にすることで位置付けます。

指導事項の重点

前ページ「2 単元の目標」で示されている指導及び評価する内容のうち、本事例では、〔思考力・判断力・表現力等〕A話すこと・聞くこと(1)イの指導事項を重点的に指導し、評価することとしています。

〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと (1) イ

相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。

このような資質・能力を育成することができるような言語活動を設定する上で、**言語活動例**を参照します。

〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと (2) を参照

ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。

これらを踏まえて、例えば、以下に示すような言語活動を設定します。

夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)ア)

国語科は、言語活動を通して指導事項を指導する教科と言えます。そのため、どのような言語活動を設定するかということは、非常に重要なことです。

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにします。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図るようにします。

4 単元の評価規準

単元の目標を踏まえて評価規準を設定します。

指導事項の一部を用いて評価規準を作成した場合の例。

□の部分
各指導事項の文頭に「領域名」を入れる。「～において」と明記する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ 文末を「～している」に。	①「 話すこと・聞くこと 」において、 相手に伝わるように 、行動したことや経験したことに基づいて、 話す事柄の順序 を考えている。(A(1)イ) ②「 話すこと・聞くこと 」において、話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)	①進んで、 相手に伝わるように話す事柄の順序 を考え、学習の見通しをもって報告しようとしている。 言語活動 言語活動そのものを評価することではないことに注意。

3 単元の指導と評価の計画を作成しよう

事例 単元名「夏休みの思い出を報告しよう」(第2学年)(全7時間)

第1学年及び第2学年〔知識及び技能〕の(1)オ、〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」(1)イ・エを、「夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする。」という言語活動を通して指導した実践 (〔参考資料 国語〕pp.43-44) 参照

時	学習活動	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休みの思い出を報告するという学習の見通しをもつ。 ○ 夏休みの思い出を複数想起し、その中から最も友達に報告したいことを選ぶ。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「始め-中-終わり」といった話の構成で話すことを確認し、「始め」と「終わり」については先にノートに記述する。 ○ 「中」の部分については、第1時で選んだ最も報告したい思い出を詳しく想起して、必要な事柄を四つから六つ程度カードにそれぞれ書き出す。 	<p>[知識・技能①] カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉の文意に沿った活用状況の確認
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 〈カードの種類(例)〉 ・ 見たこと ・ したこと ・ かんじたこと 等 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休みの思い出を友達に報告するためにはどのような順序で話したらよく伝わるかを考えながら、ワークシート①の該当箇所にカードを置き、その理由を書く。 ○ 友達と交流した上で、カードの並び順を見直し、その順序で報告しようと決めた理由をワークシート②に書く。 	<p>[思考・判断・表現①] ワークシート①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カードの並び順とその順序にした理由の確認 <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ワークシート②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達との関わりを通して並び順を見直している様子の確認
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 声に出して、夏休みの思い出について報告する練習をする。 ○ グループ内で夏休みの思い出について報告し合い、質問する。報告が終わったら、ワークシート③に感想を書く。 	<p>[思考・判断・表現②] ワークシート③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の報告に対する感想についての記述の確認
6		
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休みの思い出を報告するという学習を通して学んだことを振り返る。 	

※ ここでは、記録に残す評価についてのみ示しています。

Q4：単元の指導と評価の計画を作成する際のポイントは何か。

A：観点別の学習状況を記録に残す場面等を精選し、評価時期や場面、評価方法を考えることです。

学習評価については、**日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かす**ことが重要です。観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その**場面を精選することが求められます**。

4 授業を実施し、評価しよう

事例 単元名「夏休みの思い出を報告しよう」(第2学年)(全7時間)〔参考資料 国語〕pp.44-50) 参照

※ ここでは、単元の指導と評価の計画(前ページ)における第2・3・4時の評価について取り上げます。

【知識・技能①】 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語彙を豊かにしている。(第2・3・4時)

〈さいしょ〉			
◆見たこと 「うみは青かった」	◆見たこと 「ほしの形のようなヒトデを見た」	◆したこと 「すなはまについてうみでおよいだ」	◆したこと 「いわばで、カニをつかまえるとき、あわを出していた」



どうしてこのじゅんじょにしたのか
をせつめいしませう

ぼくは、うみについてから見たことや
したことのじゅんばんにつたえようと
おもいました。
どうしてかというく、じゅんばんにせ
つめいすると、ぼくの見たことやしたこ
とをともだちによくつたえることがで
きるとおもったからです。

図1：児童1がワークシート①に
並び順を書き写したもの

ここでは、夏休みの思い出を伝えるための語彙を豊かにすることを
目指して、事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色
や形を表す言葉を活用して自分の伝えたいことが明確になるように
指導し、本事例では、カードの記述内容から評価しました。

「おおむね満足できる」状況 (B)

- この場面において、文意に沿って不自然にならないように気を付
けながら、見たことやしたことなど、それぞれに合わせて言葉を用
いている児童を (B) としました。

具体的には、図1に示す児童1について

- 事物の内容を表す言葉として「いわば」、「あわ」
- 経験したことを表す言葉として「およいだ」、「つかまえる」
- 色や形を表す言葉として「青かった」、「ほしの形」

の言葉を用いていることから、「おおむね満足できる」状況 (B) と
判断しました。

「努力を要する」状況 (C)

- 夏休みの思い出を表現するために事物の内容を表す言葉、経験し
たことを表す言葉、色や形を表す言葉のいずれかが活用できなかつ
た児童は「努力を要する」状況 (C) と判断し、教師が当該児童の夏
休みの思い出に合わせて、具体的な表現の例をいくつか示すように
しました。

「十分に満足できる」状況 (A)

この事例では、「事物の内容を表す言葉」、「経験したことを表す言葉」、「色や形を表す言葉」などを用い
て文意に沿って不自然にならないように記述している児童を (B) としています。加えて、経験した内容
や感じたことを更に詳しく表現したり、「様子を表す言葉」を用いたりしている児童を「十分に満足できる」
状況 (A) と判断しました。

【確認しよう】

各教科において「十分満足できる」状況 (A) と判断するのは、評価規準に照らして、児童が実現してい
る学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合です。「十分満足できる」状況 (A)
と判断できる児童の姿は多様に想定されるので、学年会や教科部会等で情報を共有することが重要です。

【思考・判断・表現①】 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(第2・3・4時)

ここでは、夏休みの思い出を友達に報告するために、物事や対象についてどのような順序(時間的な順序や事柄の順序)で説明すると伝わりやすくなるか指導し、話す事柄が書かれたカードを操作している様子を観察したり、どのような意図に基づいて操作しているのかを児童に質問したりして評価しました。しかし、一斉に活動している全児童の様子を一人の教師で把握するのは困難であるため、カードの順序を決定した理由をワークシート①に記述させ、その内容を評価の主な対象としました。

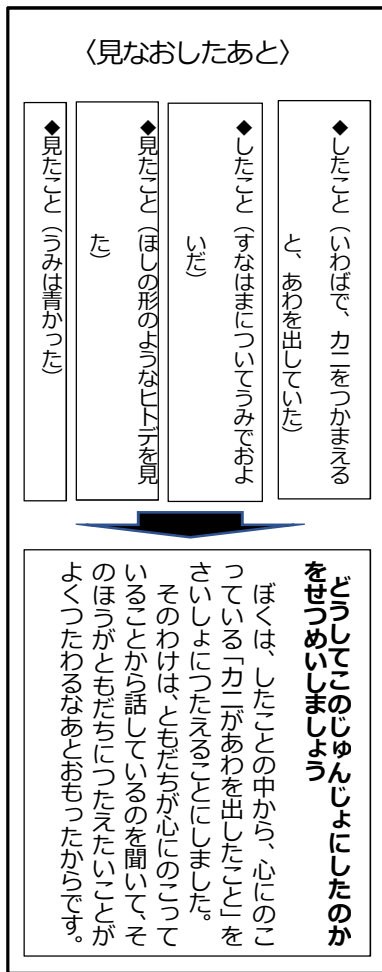
「おおむね満足できる」状況 (B)

- ・ 時間的な順序や事柄の順序に基づいてカードを操作し、それを踏まえてワークシート①に感想を記述している児童を「おおむね満足できる」状況 (B) としました。

「努力を要する」状況 (C)

- ・ 時間的な順序や事柄の順序に沿ってカードを並べることができなかった児童を「努力を要する」状況 (C) としました。当該児童には、カードに書いた事柄から、これを夏休みの思い出にした理由を想起させ、どのような順序だったら相手に伝えたい内容が伝わるのか教師と一緒に検討しました。

【主体的に学習に取り組む態度①】 進んで、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、学習の見通しをもって報告しようとしている。(第2・3・4時)



ここでは、「聞き手に伝えたい」、「これを伝えたい」という思いを実現させるため、一人一人の児童が友達や教師との関わりの中で自身の学びを見つめて、それをよりよくするための試行錯誤を図ることができるように指導し、実際にカードを並べている様子(発言・行動)の観察やワークシート②の記述内容から評価しました。

「おおむね満足できる」状況 (B)

- ・ 話す事柄の順序を考える際に、カードの並び方について友達に相談している様子が確認できた児童や、ワークシート②の記述からカードの並び順を検討しようとしている様子が十分確認できた児童を「おおむね満足できる」状況 (B) としました。

「努力を要する」状況 (C)

- ・ 友達や教師との関わりを通して、カードの並び順を検討しようとしている様子が確認できなかった児童を「努力を要する」状況 (C) としました。教師は、「他の並び順と比べてみたか」、「どのような並び順が分かりやすいのか」、「どのようなことが心に残っているのか」などについて問いかけ、カードの並び順の工夫に留意させるようにしました。

図2：ワークシート②に児童1が書いた順序についての説明

Q5 : 観点別学習状況の評価は、どのようにまとめるとよいですか。

A : 「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の中で記録に残すものについては、単元の評価規準に基づき、「指導と評価の計画」に示した時間や学習のまとめりごとに、観点別学習状況の実現状況を見ていきます。その上で、時間や学習活動のまとめりごとに行った評価結果を総括します。

事例に示した単元では、児童の学習状況を把握する際に、観点ごとの評価規準に照らして適切に評価できるよう、評価メモ(表1参照)を作成しました。評価メモには、評価の観点、単元の評価規準、時間、評価方法、評価等について記載する欄を設け、一人一人の児童の実現状況を確認・記録できるようにしています。(総括の方法としては、表1以外にも様々なものが考えられることに留意する必要があります。)

表1 「評価メモ」の例

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
単元の評価規準 (※◎印は重点)		①	①(◎)	②	単元における評価	①	単元における評価	
時間		2・3・4	2・3・4	5・6・7		2・3・4		
評価方法		カード	ワークシート①	ワークシート③		観察・ワークシート②		
評価	児童1	B	B	B	B	B	B	
	児童2	B	A 聞き手に伝えるための効果的な表現について記述あり。	B	A	B	B	
	児童3	A 見たことやしたことについて思ったことを加えていたり、様子を表す言葉を用いたりしている。	A	A 聞き手に与える印象の記述あり。	A 自分の経験と関連付けた感想あり。	A	A 友だちの並び順について助言あり。	A

・ 「評価」欄には、評価規準に照らし、「おおむね満足できる」状況(B)にあると判断した児童について「B」と記録しています。

・ 「単元における評価」欄には、単元の学習を終えた時点で児童がどのような状況にあるのかを記録しています。

・ 単元の中で重点的に指導及び評価する指導事項については、該当する「単元の評価規準」欄に◎印を記載しています。また、「思考・判断・表現」については、単元における観点別学習状況を総括して評価を行っています。

5 更に深めよう

Q6 : 国語科の(教科の特質を踏まえ) 評価において大切なことは何ですか。

A : 年間を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規準を設定することが大切です。

国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返しながら資質・能力の定着を図ることを基本としていることから、国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多くあります。

そのため、評価の系統化・重点化を図ることが大切です。年間を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規準を設定することや、全体を一覧することができる年間指導計画表の作成が重要になります。

(「参考資料 国語」 pp.48-50) 参照

社 会

1 まずはここを確認しよう

Q1：小学校社会科では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A：小学校社会科では、目標の柱書に示されたとおり、「公民としての資質・能力の基礎」を育成することを目指します。

「公民としての資質・能力の基礎」とは、具体的には、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って整理された小学校社会科の目標(1)から(3)までに示す資質・能力のことです。これらの資質・能力は全てが結び付いて育成されるものであると考えられます。

【社会科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

Q2：小学校社会科の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：学習指導要領第2章第2節社会の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」の項目を、そのまとめりごとに整理したものです。小学校社会科における「内容のまとめり」とは、以下のようになっています。

【小学校社会科の内容のまとめり】

第3学年

- (1) 身近な地域や市区町村の様子
- (2) 地域に見られる生産や販売の仕事
- (3) 地域の安全を守る働き
- (4) 市の様子の移り変わり

第4学年

- (1) 都道府県の様子
- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業
- (3) 自然災害から人々を守る活動
- (4) 県内の伝統や文化、先人の働き
- (5) 県内の特色ある地域の様子

第5学年

- (1) 我が国の国土の様子と国民生活
- (2) 我が国の農業や水産業における食料生産
- (3) 我が国の工業生産
- (4) 我が国の産業と情報との関わり
- (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり

第6学年

- (1) 我が国の政治の働き
- (2) 我が国の歴史上の主な事象
- (3) グローバル化する世界と日本の役割

※ 小学校社会科の内容については、第3学年においては市を中心とする地域社会に関する内容、第4学年においては県を中心とする地域社会に関する内容、第5学年においては我が国の国土と産業に関する内容、第6学年においては我が国の政治と歴史、国際理解に関する内容が、それぞれ取り上げられています。

2 単元ごとの目標と評価規準を設定しよう

ここでは、第4学年(2) 人々の健康や生活環境を支える事業を事例として取り上げ、単元「廃棄物を処理する事業」の評価規準の作成例を紹介します。

【内容のまとめり】(学習指導要領 第4学年 2 内容 (2) 人々の健康や生活環境を支える事業)

- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。
- (イ) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。
- (ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。
- (イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。

【内容のまとめりごとの評価規準 (例)】

Q3を参照 (p.23)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア</p> <p>(ア) 飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。</p> <p>(イ) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</p> <p>(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめている。</p>	<p>イ</p> <p>(ア) 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現している。</p> <p>(イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現している。</p>	<p>人々の健康や生活環境を支える事業について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。</p> <p>※ 上記の「内容」には、「主体的に学習に取り組む態度」は示されていないことから、該当学年の目標(3)や「改善等通知(別紙4)」を用いて設定する。</p>

【内容のまとめりに含まれる二つの内容 (単元)】

単元「飲料水、電気、ガスを供給する事業」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア(ア)、(ウ)	イ(ア)	

単元「廃棄物を処理する事業」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア(イ)、(ウ)	イ(イ)	

【単元「廃棄物を処理する事業」の評価規準 (例)】

Q4(p.23)、p.24 参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。</p> <p>② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、<u>廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</u></p>	<p>① 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、<u>廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。</u></p> <p>② <u>ごみや下水などの廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて廃棄物の処理のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。</u></p>	<p>① 廃棄物を処理する事業について、<u>予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</u></p> <p>② <u>学習したことを基にごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えようとしている。</u></p>

学習指導要領 内容の取扱いの記載事項、解説の記載事項

Q3：内容のまとめりごとの評価規準とは、どのようなものですか。

A：学習指導要領に示された「各学年の目標及び内容」の「2 内容」において、内容のまとめりごとによる育成を目指す資質・能力が示されています。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導要領の目標となり得るものです。学習指導要領の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり、児童の資質・能力を身に付けた状況を表すために、「2 内容」の記載事項の文末を、「～すること」から「～している」と変換したもの等が、「内容のまとめりごとの評価規準」です。これは、単元ごとに具体的な評価規準を作成する際の手掛かりとなるものです。

ただし、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、児童の学習への継続的な取組を通して現れる性質を有することから、「2 内容」に記載がありません。従って、各学年の「1 目標」を参考にしつつ、「改善等通知(別紙4)」の観点の趣旨を用いるなどして評価規準を設定します。

Q4：単元の観点別学習状況の評価規準は、どのように作成するのですか。

A：小学校社会科においては、学習指導要領に示された「内容のまとめり」には、複数の内容が含まれ、その内容ごとに単元を構成するものがほとんどです。従って、内容のまとめりごとの評価規準をそのまま活用するのではなく、単元ごとに学習過程に沿った具体的な評価規準を作成していくことになります。

例えば、事例(p.22)に示した第4学年の内容(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」の内容のまとめりは、「飲料水、電気、ガスを供給する事業」と「廃棄物を処理する事業」の二つの単元で構成できます。そこで、それぞれの単元について、目標と評価規準を作成します。

単元の評価規準を作成する際は、下記のQ5からQ7で説明している「単元の観点別学習状況の評価規準の作成のポイント」を基に、「学習指導要領」の内容及び内容の取扱いに関する記載事項、「改善等通知(別紙4)」の観点の趣旨、「解説社会編」の記載事項を参考にしながら、具体的に示すように作成します。

- ◎ 実際の単元の評価規準の設定の仕方については、学習指導要領の内容の示し方に一定の決まりがあることから、内容の記述形式を踏まえて、単元の評価規準を作成することができます。次ページ(p.24)の【単元の観点別学習状況の評価規準 作成例】を参考に作成できます。

Q5：単元の観点別学習状況の評価規準【知識・技能】の作成のポイントは何かですか。

A： 知識・技能については、「～を調べ、～まとめ、～理解している」などと知識と技能を関連付けて評価規準を作成します。

社会科の学習を通して児童が獲得する知識とは、例えば、用語などはもとより、資料などで調べて分かる社会的事象の様子についての具体的な知識と、調べてまとめたものを基にして考えて分かる汎用性のある概念的な知識のことであり、これらは、地域や我が国の地理的環境、地域や我が国の歴史や伝統と文化、現代社会の仕組みや働きを通して、「社会生活についての総合的な理解を図るためのもの」です。

また、児童が身に付ける技能とは、具体的には、調査活動や諸資料の活用など手段を考えて問題解決に必要な社会的事象に関する情報を集める技能、集めた情報を「社会的事象の見方・考え方」に沿って読み取る技能、読み取った情報を問題解決に沿ってまとめる技能などであると考えられます。

社会科の知識・技能としては、これらの知識と技能を関連付けて「～を調べ、～まとめ、～理解している」などと捉えて評価することが大切です。社会科は、資料から情報を集めて読み取り、社会的事象の様子を具体的に理解すること、また、調べまとめたことを基に考え、社会的事象の特色や意味などを理解することが大切だからです。そこで、ここでは、学習過程に沿って、

- ① 調べて、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解しているか。
- ② 調べたことを文などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを理解しているか。

という学習状況を捉えるよう、評価規準を作成します。その際、評価場面によっては、知識を中心に学習状況を捉える場面や、技能を中心に学習状況を捉える場面があり得ることに留意します。

【単元の観点別学習状況の評価規準 作成例】

学習指導要領の内容の記述形式

- (1) **A**について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 次のような知識や技能を身に付けること
 (ア) **B**を理解すること (イ) **C**などで調べて、**D**などにまとめること
 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること
 (イ) **E**などに着目して、**F**を捉え、**G**を考え、表現すること

単元の評価規準の作成例

Q5、Q6、Q7を参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① E などについて、 C などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、 F を理解している。	① E などに着目して、問いを見だし、 F について考え表現している。	① A (に関する事項)について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを D や文などにまとめ、 B を理解している。	② O と O を(比較・関連付け、総合など)して G を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	② よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

【単元の目標及び評価規準の作成(事例)】

内容のまとめ(学習指導要領 2 内容 第4学年(2) 人々の健康や生活環境を支える事業)

- 第4学年(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」(「廃棄物を処理する事業」に当たる部分) **A**
 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 (イ) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていること **B**を理解すること。
 (イ) 見学・調査したり地図などの資料 **C** で調べたりして、(**D**)まとめること。
 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 (イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力 **E** などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子 **F** を捉え、その事業が果たす役割 **G** を考え、表現すること。

単元の目標(例)

廃棄物を処理する事業**A**について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力**E**などに着目して、見学・調査したり地図などの資料**C**で調べたりして(**D**)まとめ、廃棄物の処理のための事業の様子**F**を捉え、その事業の果たす役割**G**を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていること**B**を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

単元「廃棄物を処理する事業」の評価規準(例)

内容の取扱いの記載事項、解説の記載事項

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力 E などについて見学・調査したり地図などの資料 C などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、 <u>廃棄物の処理のための事業の様子 F を理解している。</u> ② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、 <u>廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていること B を理解している。</u>	① 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力 E などに着目して、問いを見だし、 <u>廃棄物の処理のための事業の様子 F について考え表現している。</u> ② <u>ごみや下水などの廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて、廃棄物の処理のための事業が果たす役割 G を考えたり、学習したことを基に、ごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。</u>	① 廃棄物を処理する事業 A について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② <u>学習したことを基にごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えようとしている。</u>

Q6：単元の観点別学習状況の評価規準【思考・判断・表現】の作成のポイントは何か。

A： 思考・判断・表現については、従来通り一体のものとして評価規準を作成します。

見方・考え方を働かせて資質・能力を育成する観点から、「～着目して、問いを見だし、～考え表現する」という追究場面における評価と、「～比較・関連付け、総合などして、～考えたり、学習したことを基にして、選択・判断したりして表現する」という、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする解決場面における評価について評価規準を作成します。そこで、学習過程に沿って

- ① 社会的事象に着目して、問いを見だし、社会的事象の様子について考え表現しているか。
- ② 比較・関連付け、総合などして社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているか。

という学習状況を捉えるよう、評価規準を作成します。その際、単元によっては「社会への関わり方を選択・判断する場面」が設定されていない場合も考えられるため、②は「～考えたり、～選択・判断したり」を示されていることに留意し、単元の学習活動に応じて適切に文言を選び評価規準を設定します。

Q7：単元の観点別学習状況の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】の作成のポイントは何か。

A： 主体的に学習に取り組む態度については、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面について、評価規準を作成します。

そこで、学習過程に沿って、

- ① 社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか。
- ② よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているか。

という学習状況を捉えるよう評価規準を作成します。

上記①の「**予想や学習計画を立て**」では、学習問題の追究・解決に向けて見直しをもととしている学習状況を捉えるようにします。また、「**学習を振り返ったり見直したりして**」では、問題解決に向けて、自らの学習状況を確認したり、更に調べたいことを考えようとする学習状況を捉えるようにします。単元によっては、「更に調べたいことを考える場面」が設定されない場合も考えられるため、単元の学習活動に応じて、適切に文言を選びながら評価規準を設定することが大切です。

上記②の「**学習したことを社会生活に生かそうとする**」では、それまでの学習成果を基に、生活の在り方やこれからの社会の発展について考えようとする学習状況を捉えるようにします。これは、「社会的な態度」と捉えることができ、社会に見られる課題を把握して社会への関わり方を選択・判断したり、多角的に考えて社会の発展について自分の考えをまとめたりする学習場面で表出されることが多いことが考えられるため、思考・判断・表現との関連性を踏まえて評価規準を設定することが大切です。

その際、単元によっては「**選択・判断する場面**」や「**発展について考える場面**」が設定されない場合もあることに留意し、単元の学習活動に応じて評価規準設定の有無を含めて工夫することが大切です。

【主体的に学びに向かう態度②】を積極的に評価し指導に生かす内容

学年	内容	内容の取扱い
3年	(3)「地域の安全を守る働き」	選択・判断
	(4)「市の様子の移り変わり」	発展
4年	(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」	選択・判断
	(3)「自然災害から人々を守る活動」	選択・判断
	(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」	選択・判断
5年	(2)「我が国の農業や水産業における食料生産」	多角的
	(3)「我が国の工業生産」	多角的
	(4)「我が国の産業と情報の関わり」	多角的
	(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」	選択・判断
6年	(1)「我が国の政治の働き」	多角的
	(3)「グローバル化する世界と日本の役割」	多角的、選択・判断

【態度②】の評価は、全ての単元において位置付けるのではなく、左記の表のとおり学習指導要領の「内容の取扱い」に、「**選択・判断する**」、「**多角的に考える**」ことが示されている内容に関連する単元で設定することが考えられます。その際にも、児童に拙速な社会参画を促すこと、学習したことを根拠にしない独りよがりな考えをもつことを求めるものではないことに留意します。
 なお、6年(2)「我が国の歴史上の主な事象」については、それらは示されていないため、基本的には【態度①】の評価となりますが、文化を扱った内容及び歴史学習全体を通して考える最後の内容については、自分の生活や社会との関連という点から【態度②】を設定することも考えられます。(【参考資料】pp.40-41 参照)

3 単元の指導と評価の計画を作成しよう

事例：第4学年 単元「廃棄物を処理する事業」（全10時間）

※ 網掛けは評価したことを記録に残す場面

時間	ねらい	○主な学習活動・内容	□資料	評価方法と【評価規準】
1	たくさんのごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくることができるようにする。	○ 家や学校等から出るたくさんのごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくる。 ・ ゴミの量 ・ 種類や出し方	□グラフ「ごみの量や種類」 □表「ごみの分別表」 □写真	発言内容やノートの記述内容から、「処理の仕組みや再利用などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。【思-①】
ごみの処理にたずさわる人々は、たくさんのごみをどのようにして処理しているのでしょうか。				
2	学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てることができるようにする。	○ 学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。 ・ 学習問題解決に向けた予想 ・ 学習計画の立案	□学習計画表	発言内容、ノートの記述内容や学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態-①】
3 4	見学・調査したり資料で調べたりして、清掃工場が燃えるごみを処理する様子を調べることができるようにする。	○ 清掃工場が燃えるごみを処理の様子を見学・調査したり各種資料を活用したりして調べる。 ・ 燃えるごみを処理する仕組み ・ 清掃工場の仕事の工夫や苦労	□パンフレット「清掃工場」 □清掃工場の方の話	ノートや見学カードへの記述内容から「必要な情報を集め、読み取り、燃えるごみを処理する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。【知-①】
5	資料を活用し、リサイクルセンターが燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する様子を調べることができるようにする。	○ リサイクルセンターが燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用の様子を各種資料で調べる。 ・ 燃えないごみ、資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組み ・ リサイクルセンターの仕事の工夫や苦労	□パンフレット「リサイクルセンター」 □図「リサイクルの仕組み図」 □資料「センターの方の話(文)」	ワークシートの記述内容や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。【知-①】
6	見学・調査したり資料で調べたりしたことをまとめ、話し合い、学習を見直すことができるようにする。	○ これまで調べてきたことをまとめ、更に調べるべきことについて話し合う。 【まとめること】 ・ ごみ処理の仕組みや経路 ・ ごみ処理に関わる人々の働き 【更に調べるべきこと】 ・ 灰の処理に関する問題	□これまでに活用してきた資料 □ノート □実物(灰)	ノートの記述内容や学習計画表から「これまでの学習を振り返り、更に調べるべきことを見いだし、見直しをもって追究しようとしているか」を評価する。【態-①】
7	市が行っているごみ処理問題の解決策を調べ、計画的な取組について考えることができるようにする。	○ 市がごみ処理問題を計画的に解決している様子を調査したり各種資料を活用したりして調べる。 ・ 市が現在のごみ処理問題を解決している様子 ・ 市がこれまでのごみ処理問題を解決してきた様子	□資料「市役所の方の話」 □写真「昔と今のごみ処理の様子」 □写真「最終処分場」	ノートの記述内容から「現在に至るまでに衛生的に処理する仕組みが作られ、計画的に改善されてきたことについて考え表現しているか」を評価する。【思-①】
8	調べたことを基に、学習問題について話し合い、ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考え、表現することができるようにする。	○ 学習問題について話し合い、ごみを処理する事業の果たす役割について考える。 ・ ごみ処理事業の役割についての自分の考え	□資料「学習で活用してきた資料」 □ノート	ノートの記述内容や発言内容などから「学習したことを基にごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考え表現しているか」を評価する。【思-②】
9	調べたことを基に、学習問題について図や文にまとめることができるようにする。	○ 学習問題について調べたことや話し合ったことに基づいて、ごみ処理の仕組みや経路、人々の協力関係などについて図や文にまとめる。 ・ 学習問題に対するまとめ	□資料「学習で活用してきた資料」 □ノート	ノートの記述内容などから「廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、それらは生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。【知-②】
10	様々な立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて考え、ごみを減らすために自分たちに協力できることは何か考えようとする態度を養う。	○ 様々な立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて話し合い、ごみを減らすために自分たちにできることは何か考え、発表し合う。 ○ ごみを減らすために自分たちにできることについてノートに自分なりの考えをまとめる。 ・ ごみを減らす呼びかけ及びその理由 ・ リサイクル法 ・ 世界のごみ処理の様子 ・ ごみを減らすために協力できること	□資料「ごみ減量に関する様々な取組」、「ごみの輸出」 □グラフ「一人あたりのゴミの焼却量」、「世界の焼却炉の数」	ノートの記述内容や発言内容から「学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。【思-②】 ノートの記述内容から「単元の学習を振り返り、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。【態-②】

※ 学習過程【学習問題をつかむ】1・2時、【学習問題を追究する】3・4・5・6時、【まとめる】8・9・10時

第2章
評価を
しよう

Q8：観点別学習状況の評価計画を作成する際は、どのようなことに留意すればよいですか。

A：「単元の指導と評価の計画」を作成するに当たっては、学習のねらい・学習活動と関連付けて、どの時間にどの観点で、どのような方法で、学習状況を見取るのかを設定します。その際、学習評価場面の精選の考え方を基に評価の観点を重点化し、基本的には1時間に1観点の学習状況を見取るよう位置付けるなど、細かすぎる評価にならないよう作成し、児童の学習状況を把握して次の指導に生かすことが大切です。

また、評価を総括するには、評価結果を記録に残しておく必要がありますが、評価を行う場面や頻度を精選し、単元を通してそれぞれの観点の実現状況が把握できる段階で、評価した結果を記録に残すことが大切であり、効果的・効率的な評価となるよう工夫します。

事例では、指導した結果としての評価資料を全ての児童から収集する場面を、「評価したことを記録に残す場面」(網掛け部分)として明示しており、指導した結果が表れてくる単元後半に多く位置付けられています。また、児童一人一人の学習状況を把握して指導に生かすために、評価方法を明確にし、「～(評価資料)から、『～しているか』を評価する」という記述でまとめています。

Q9：【知識・技能】については、どのように評価をするのですか。

A：【知-①】では、【学習問題を追究する】段階の「調査・見学したり資料を活用したりして調べる場面」において、ノートの記述内容や発言内容を通して評価します。具体的には、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて、清掃工場やリサイクルセンターで見学・調査したり各種資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を具体的に理解しているかを評価します。

【知-②】では、【まとめる】段階の「調べたことを基に学習問題について図や文にまとめる場面」において、ノートの記述内容などを通して評価します。具体的には、学習問題の解決のために調べたことをノートにまとめた内容などから、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや、それらは生活環境の維持と向上に役立っていることをまとめ、具体的に理解しているかを評価します。

Q10：【思考・判断・表現】については、どのように評価をするのですか。

A：【思-①】では、【学習問題をつかむ】段階の「問いを見いだす場面」と【学習問題を追究する】段階の「学習問題の解決のために考え表現する場面」のそれぞれにおいて、「社会的事象に着目して、問いを見だし、社会的事象の様子について考え表現しているか」という学習状況を発言内容やノートの記述内容から捉えて、評価します。具体的には、「各種資料や写真から処理の仕組みや再利用などに着目して問いを見だし、考え、表現しているか」、「見学・調査や聞き取り調査などを行ったり各種資料を活用したりして調べた際のノートの記述内容などを通して、現在に至るまでに衛生的に処理する仕組みが作られ計画的に改善されてきたことについて、考えまとめているか」を評価します。

【思-②】では、【まとめる】段階の「学習問題について話し合う場面」と「新たな課題を把握し、社会への関わり方を選択・判断する場面」それぞれにおいて、「(比較・関連付け、総合)して社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているか」という学習状況をノートの記述内容や発言内容から捉えて、評価します。具体的には、「学習したことを基に、ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考え説明するなどして表現しているか」、「学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価します。

Q11：【主体的に学習に取り組む態度】については、どのように評価をするのですか。

A：【態-①】では、【学習問題をつかむ】段階の「予想や学習計画を立てる場面」において、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面を発言内容、ノートの記述内容や学習計画表を通して評価します。また、【学習問題を追究する】段階の「学習を見直す場面」において、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を発言内容、ノートの記述内容から評価します。具体的には、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」、「これまでの学習を振り返り、学習を見直し、まだ解決しきれていない灰の処理の仕方について解決の見通しをもとうとしているか」を評価します。

【態-②】では、【まとめる】段階の「新たな課題を把握し、社会への関わり方を選択・判断する場面」において、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする側面をノートの記述内容や発言内容から評価します。具体的には、「学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価します。

4. 授業を実施し、評価しよう

事例：第4学年 単元「廃棄物処理する事業」（全10時間）

※ ここでは、「知識・技能」の評価の実際について、「必要な情報を集め、読み取り、～を理解している」、「調べたことを～にまとめ、～を理解している」という「知識」と「技能」を関連付けて評価することを具体的な事例を通して紹介します。

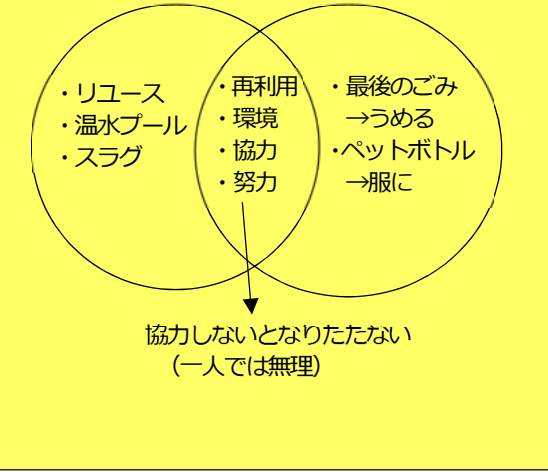
第3時、第4時：【学習問題を追究する】

【評価規準】 評価方法	<p>【知識・技能①】</p> <p>ノートや見学カードへの記述内容から「必要な情報を集め、読み取り、燃えるごみを処理する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。</p>
児童の記述や 発言内容など	<p>◆ U 児の記述から（見学カードに記入されていた主な事項）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1ごころ 2ごころ 3ごころ 4ごころ 200トン 200トン 200トン 200トン</p> <p>① ごみ計量器について ② プラットフォームについて ③ ごみピットとごみクレーンについて ④ 焼却炉について ⑤ ボイラーについて ⑥ 灰溶解炉について</p> </div> <p>◆ M 児の記述から（見学カードに記入されていた主な事項）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラットフォーム ごみを処理する場所 ・ ごみピット ごみをためておく所 ・ 働く人の思い 安全にごみを処理する ・ ボイラー 焼却炉 ・ 灰は 1600 度～1800 度で燃やす ・ クレーンがかっこよかった </div>
評価の実際	<p>◆ U 児について</p> <p>U 児の見学カードには、燃えるごみが処理される仕組みや順番について、見学に行き見て聞いたりした内容が、事項ごとに具体的に記述されていました。加えて、熱、灰、煙の流れについても、燃えるごみを処理する仕組みについて説明が記述されていました。以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。</p> <p>◆ M 児について</p> <p>M 児の見学カードには、見学場所の様子は記述されているものの、燃えるごみを処理する仕組みや順番等については、断片的な記述にとどまることから、「努力を要する」状況（C）と判断しました。そこで、5時間目に入る前に、燃えるごみを処理する仕組みについて、M 児に質問して整理を促したり、パンフレットや他の児童のまとめた作品等を活用したりして学習を補い、評価したことを指導に生かすようにしました。</p>

第5時：【学習問題を追究する】

【評価規準】 評価方法	<p>【知識・技能①】</p> <p>ワークシートの記述内容や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。</p>
児童の記述や 発言内容など	<p>◆ U 児の記述から（ワークシートの一部）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 48%;"> <p>資源ごみ・缶類</p> <p>（※ イラスト省略）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クレーンで分別所へ運びます。 ・ 種類ごとに分別します。 ・ 機械でおしかためたかんを運びます。 ・ 再利用するために、積んでおきます。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 48%;"> <p>不燃性ごみ・不燃性粗大ごみ</p> <p>（※ イラスト省略）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トラックで運んでいきます。 ・ クレーンで運びます。 ・ 機械でくわいてバラバラにすると、金ぞくの種類ごとに分けやすくなるよ。 ・ 分別しきれないごみはざんさとなります。 </div> </div>
評価の実際	<p>◆ U 児について</p> <p>U 児のワークシートには、資料から燃えないゴミや資源ごみ、粗大ごみを再利用している仕組みについて、資料などを読み取って、「クレーンで運ぶ」、「種類ごとに分別」など具体的に記述されていました。以上のことから「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。</p>

第9時：【まとめる】

<p>【評価規準】 評価方法</p>	<p>【知識・技能②】 ノートの記述内容などから「廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、それらは生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。（※評価したことを記録に残す場面）</p>
<p>児童の記述や 発言内容など</p>	<p>◆ Y児の記述から（ノートの一部）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #ffffcc;">  <p>燃えるごみの処理の工夫 燃えないごみの処理の工夫</p> <p>わたしは、ごみの学習をして、市役所や清掃工場、リサイクルプラザなどの努力のおかげで、きれいな環境で生活できることがわかりました。 特に燃やすごみは安全に気を付けていました。（中略）また、ごみを出す種類が曜日ごとに違う理由はごみが市にあふれないようにするためや、周りの市や町と協力してごみを処理していることを知り、わたしたちも「協力すること」が大切だと思いました。最終処分場にうめる量を減らすためにも環境のためにも、ごみを減らすことやリサイクルが大切だと思いました。（一部抜粋）</p> </div> <p>◆ M児の記述から（ノートの一部）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #ffffcc;"> <p>ぼくは、ごみの学習をして、清掃工場やリサイクルプラザがなかったら、人の住める環境がなくなってしまうと思いました。 ごみを出す日を決めたり、清掃工場を増やしたりして、市役所の人も色々きまりをつくっているから今の生活があるんだなと思いました。（中略）近くの市とも協力をしているとは思いませんでした。自分も協力をしないといけないと思いました。（一部抜粋）</p> </div>
<p>評価の実際</p>	<p>◆ Y児について Y児のノートには、清掃工場（左の円）とリサイクルセンター（右の円）の取組とその共通点（中央）についてベン図に整理した記述と、まとめの記述が見られました。まとめには、「市役所や清掃工場、リサイクルプラザなどの努力のおかげで、きれいな環境で生活できること」、「ごみを出す種類が曜日ごとに違う理由はごみが市にあふれないようにするため」、「周りの市や町と協力してごみを処理していること」に加え、「特に燃やすごみは安全に気を付けていること」、「最終処分場にうめる量を減らすためにも環境のためにも、ごみを減らすことやリサイクルが大切」といった記述が見られました。以上のことから「十分満足できる」状況（A）と判断しました。</p> <p>◆ M児について M児のノートには、「清掃工場やリサイクルプラザがなかったら、人の住める環境がなくなってしまう」、「ごみを出す日を決めたり、清掃工場を増やしたり」、「近くの市とも協力をしている」と記述されていました。以上のことから「おおむね満足できる状況」（B）としました。</p> <p>◆ 全ての児童について ※ 単元のまとめを通して、目標の実現状況が顕著に見られる場面であることから、全ての児童から評価資料となるノートなどを収集し、評価したものを記録に残すとともに、次時の指導の改善に生かしました。</p>

社会

5 観点別評価の総括をしよう

Q12：観点別評価における観点ごとの総括は、どのような考え方で行いますか。

A：本事例を通して、以下のような考え方で、単元の観点別評価における観点ごとの総括を行っています。

- ① 評価を行う場面や頻度の精選を踏まえ、単元を通してそれぞれの観点の実現状況が把握できる段階で、評価したことを記録に残し、総括的な評価を行います。
- ② 評価したことを記録に残す場面では、「十分満足できる」状況(A)、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)の3段階で評価し、それ以外の評価場面では、評価規準に照らして「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導や支援を行うことを重視します。
- ③ 観点ごとの総括の方法は、次のように考えます。

【知識・技能】、【思考・判断・表現】について

単元後半において行った評価結果を重視しています。それは、最後の評価場面における評価結果は、継続的に指導を積み重ねた結果の学習状況であると捉えているからです。

【主体的に学習に取り組む態度】について

予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしている「主体的に問題解決しようとする態度」【態-①】と、「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている」【態-②】という二つの態度について評価します。それぞれの趣旨を踏まえて評価をすることから、最後の評価場面だけを重視するのではなく、二つの態度を一体的に見取りつつも、それぞれの態度を積極的に評価します。評価結果が二つ以上の場合、AAをA評価、CCをC評価とします。

【単元の観点別学習状況評価の例】〔 〕内数字は時数を表す

	知① 〔3・4〕	知① 〔5〕	知② 〔9〕	総括的な評価	思① 〔1〕	思① 〔7〕	思② 〔8〕	思② 〔10〕	総括的な評価	態① 〔2〕	態① 〔6〕	態② 〔10〕	総括的な評価
Y 児			A	A			A		A		A	A	A
U 児			B	B			B		B		B	A	B
M 児			B	B			B		B		C	B	B

Q13：上記の表の空欄部分は、どのように考えたらよいのですか。

A：上記の表の空欄部分は、評価したことを記録に残すことを重視せず、児童の学習状況を見取って指導に生かし、学習改善や指導改善につないだ時間を意味しています。評価が記入されている部分は、評価したことを指導に生かしつつ、記録に残す時間を意味しています。

- 評価の基本は、児童の学習状況を捉えることとともに、その結果を指導に生かすことです。これを「評価したことを指導に生かす」とし毎時間行います。その中で特に、指導した結果としての評価資料を全ての児童から収集する場面（「指導と評価の計画」の網掛け部分 p.26）を重点的に設定し、「評価したことを記録に残す」場面として示しています。
- ここでは、単元における観点ごとの評価規準を①と②に分けて二つずつ設ける形を基本としているため、自ずと評価規準②で評価資料を集めることが多くなっています。ただし、単元によっては「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価規準②が設定されない場合もあり、その場合は評価規準①で評価資料を集めることも考えられます。他の観点においても、「評価資料は必ず評価規準②で集め、評価規準①では集めない」などと固定的には考えず、柔軟に計画することが大切です。
- 単元の学習全体を見据えて、三つの資質・能力を意図的・計画的に育成することができるよう指導し、指導した結果を評価資料とすることを基本とします。もし、単元の前半において評価資料を集める場合には、目標に沿って丁寧に指導した上で、その結果を評価資料とする必要があります。

Q14：「自覚」や「愛情」については、どのように評価するのですか。

A：小学校社会科における「学びに向かう力、人間性等」に関する目標は、目標3)に示されているとおり「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」と「多角的な思考や理解を通して涵養される自覚や愛情」などを養うことです。この後半部分の「自覚」や「愛情」に関する評価については、観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取ることが大切です。児童が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で、よい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、児童に伝えることが重要となります。（本資料 p.2 参照）

算 数

1 まずは、ここを確認しよう

Q1：算数科では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A：算数科で育成を目指す資質・能力は、「数学的に考える資質・能力」です。目標ではこの資質・能力が、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理されています。

【算数科の目標】

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

算数

Q2：算数科の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示された各教科等の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」の項目をそのまとめりごとに整理したものです。また、解説には、内容のまとめりごとに、「ア. 知識及び技能」、「イ. 思考力、判断力、表現力等」が示されていて、これを基に単元の評価規準を作成します。

算数科における「内容のまとめり」は、以下のとおりです。

【第1学年】

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 「A 数と計算」(1)数の構成と表し方 | 「A 数と計算」(2)加法、減法 |
| 「B 図形」(1)図形についての理解の基礎 | 「C 測定」(1)量と測定についての理解の基礎 |
| 「C 測定」(2)時刻の読み方 | 「D データの活用」(1)絵や図を用いた数量の表現 |

【第2学年】

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 「A 数と計算」(1)数の構成と表し方 | 「A 数と計算」(2)加法、減法 |
| 「A 数と計算」(3)乗法 | 「B 図形」(1)三角形や四角形などの図形 |
| 「C 測定」(1)長さやかさの単位と測定 | 「C 測定」(2)時間の単位 |
| 「D データの活用」(1)簡単な表やグラフ | |

【第3学年】

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 「A 数と計算」(1)数の表し方 | 「A 数と計算」(2)加法、減法 |
| 「A 数と計算」(3)乗法 | 「A 数と計算」(4)除法 |
| 「A 数と計算」(5)小数の意味と表し方 | 「A 数と計算」(6)分数の意味と表し方 |
| 「A 数と計算」(7)数量の関係を表す式 | 「A 数と計算」(8)そろばん |
| 「B 図形」(1)二等辺三角形、正三角形などの図形 | 「C 測定」(1)長さ、重さの単位と測定 |
| 「C 測定」(2)時刻と時間 | 「D データの活用」(1)表と棒グラフ |

【第4学年】

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 「A 数と計算」(1)整数の表し方 | 「A 数と計算」(2)概数と四捨五入 |
| 「A 数と計算」(3)整数の除法 | 「A 数と計算」(4)小数の仕組みとその計算 |
| 「A 数と計算」(5)同分母の分数の加法、減法 | 「A 数と計算」(6)数量の関係を表す式 |
| 「A 数と計算」(7)四則に関して成り立つ性質 | 「A 数と計算」(8)そろばん |
| 「B 図形」(1)平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形 | |
| 「B 図形」(2)立方体、直方体などの立体図形 | 「B 図形」(3)ものの位置の表し方 |
| 「B 図形」(4)平面図形の面積 | 「B 図形」(5)角の大きさ |
| 「C 変化と関係」(1)伴って変わる二つの数量 | 「C 変化と関係」(2)簡単な場合についての割合 |
| 「D データの活用」(1)データの分類整理 | |

【第5学年】

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 「A 数と計算」(1)整数の性質 | 「A 数と計算」(2)整数、小数の記数法 |
| 「A 数と計算」(3)小数の乗法、除法 | 「A 数と計算」(4)分数の意味と表し方 |
| 「A 数と計算」(5)分数の加法、減法 | 「A 数と計算」(6)数量の関係を表す式 |
| 「B 図形」(1)平面図形の性質 | 「B 図形」(2)立体図形の性質 |
| 「B 図形」(3)平面図形の面積 | 「B 図形」(4)立体図形の体積 |
| 「C 変化と関係」(1)伴って変わる二つの数量の関係 | |
| 「C 変化と関係」(2)異種の二つの量の割合 | 「C 変化と関係」(3)割合 |
| 「D データの活用」(1)円グラフや帯グラフ | 「D データの活用」(2)測定値の平均 |

【第6学年】

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 「A 数と計算」(1)分数の乗法、除法 | 「A 数と計算」(2)文字を用いた式 |
| 「B 図形」(1)縮図や拡大図、対称な図形 | 「B 図形」(2)概形とおよその面積 |
| 「B 図形」(3)円の面積 | 「B 図形」(4)角柱及び円柱の体積 |
| 「C 変化と関係」(1)比例 | 「C 変化と関係」(2)比 |
| 「D データの活用」(1)データの考察 | 「D データの活用」(2)起こり得る場合 |

Q3 : 算数科では、「内容のまとめり」をそのまま単元としてよいのですか。

A : 必ずしもそうとは限りません。

「内容のまとめり」で示された内容の数が、学年や領域ごとに違いがあるため、実際に指導する際の授業時数も「内容のまとめり」ごとに異なります。

そのため、各学校において単元を作成する際には、「内容のまとめり」をそのまま単元とする場合だけでなく、以下のように、いくつかに分割して単元とする場合や、いくつかの「内容のまとめり」を組み合わせて単元とする場合があります。

【「内容のまとめり」と単元の関係】

「内容のまとめり」	単元 (例)
第2学年「C 測定」(1)「長さやかさの単位と測定」	単元「長さ」 単元「かさ」
第2学年「C 測定」(2)「時間の単位」	単元「時刻と時間」
第3学年「A 数と計算」(4)「除法」	単元「わり算」 単元「余りのあるわり算」 単元「大きな数のわり算」
第4学年「A 数と計算」(6)「数量の関係を表す式」 第4学年「A 数と計算」(7)「四則に関して成り立つ性質」	単元「式と計算」
第6学年「B 図形」(1)「縮図や拡大図、対称な図形」	単元「縮図や拡大図」 単元「対称な図形」

2 単元の目標と単元の評価規準を設定しよう

Q4：単元の目標は、どのように作成するのですか。

A：(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等については、主に当該学年の「内容」を基に作成します。(3) 学びに向かう力、人間性等については、主に当該学年の「学年の目標」を基に作成します。

以下に、例として、【第3学年 余りのあるわり算】の単元の目標の作成方法を紹介します。

【第3学年「A 数と計算」(4)除法 内容】

(4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。
- (イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。
- (エ) 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。
- (オ) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。

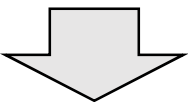
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

算数

【第3学年の目標(3)】

(3) 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。



【第3学年「A 数と計算」(4)除法の内容】を基に、以下の単元の目標(1)と(2)を作成し、【第3学年の目標(3)】を基に、単元の目標(3)を作成します。

【第3学年 単元「余りのあるわり算」の目標(例)】

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。【知識及び技能】
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き、生活や学習に活用しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

Q5：単元の評価規準は、どのように作成するのですか。

A：まず、内容や目標を基に「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。次に、「内容のまとまりごとの評価規準」を基に「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。そして、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を基に「単元の評価規準」を作成します。

例として【第3学年 A 数と計算（4）除法】を挙げて、単元の評価規準の作成の仕方を紹介します。

【第3学年「A 数と計算」(4)除法 内容】

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について<u>知ること</u>。また、余りについて<u>知ること</u>。</p> <p>(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったり<u>すること</u>。</p> <p>(ウ) 除法と乗法や減法との関係について<u>理解すること</u>。</p> <p>(エ) 除数と商が共に1位数である除法の計算が<u>確実に</u>できること。</p> <p>(オ) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の<u>仕方を知ること</u>。</p>	<p>(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の<u>仕方</u>を考えたり、計算に関して<u>成り立つ性質</u>を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、<u>計算を工夫したり計算の確かめを</u>したりすること。</p> <p>(イ) 数量の関係に着目し、<u>計算を日常生活に生かす</u>こと。</p>	<p>※ 内容には示されていないことから、<u>第3学年の目標(3)</u>を参考に<u>する</u>。</p> <p>↓</p> <p>(3) 数量や図形に進んで関わり、<u>数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き、生活や学習に活用しようとする態度を養う</u>。</p>

内容や目標を基に「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

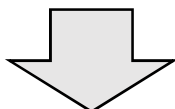
【第3学年「A 数と計算」(4)除法 内容のまとまりごとの評価規準 (例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について<u>知っている</u>。また、余りについて<u>知っている</u>。 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったり<u>することができる</u>。 除法と乗法や減法との関係について<u>理解している</u>。 除数と商が共に1位数である除法の計算が<u>確実に</u>できる。 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の<u>仕方を知っている</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の<u>仕方</u>を考えたり、計算に関して<u>成り立つ性質</u>を見いだしたりして<u>いる</u>とともに、その性質を活用して、<u>計算を工夫したり計算の確かめを</u>したりしている。 数量の関係に着目し、<u>計算を日常生活に生かしている</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 除法に進んで関わり、<u>数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている</u>。

「内容のまとまりごとの評価規準」を基に「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。作成する時に、例えば、除法の意味については、「包含除や等分除など」と示したり、割り切れない場合についても、「余りのある除法」として具体的に示したりします。

【第3学年「A 数と計算」(4)除法 具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 → 単元「余りのあるわり算」の評価規準① ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 → 単元「余りのあるわり算」の評価規準② ・ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。 → 単元「余りのあるわり算」の評価規準③ ・ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 → 単元「余りのあるわり算」の評価規準① ・ 除法は乗法の逆算と捉え、除法の計算の仕方を考えている。 ・ 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 → 単元「余りのあるわり算」の評価規準② ・ 「日常生活の問題」(単なる文章問題ではない。情報過多の問題、算数以外の教科の問題)を、除法を活用して解決している。 ・ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 → 単元「余りのあるわり算」の評価規準① ・ 除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。「わり算探し」など → 単元「余りのあるわり算」の評価規準② ・ 自分が考えた除法の計算の仕方について、具体物や図と式とを関連付けて考えようとしている。



「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」を基に「単元の評価規準」を作成します。

【第3学年 単元「余りのあるわり算」の評価規準 (例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ② 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ③ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ② 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 ② 除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。「わり算探し」など

3 単元の指導と評価の計画を作成しよう

【第3学年 単元「余りのあるわり算」の「指導と評価の計画」(例)】

時間	◇ねらい ◆主な学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 . 2	◇余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見付け方を具体物や図などを用いて考えることができる。	知①とは、前ページ「単元の評価規準」の「知識・技能」の観点①を示しています。	・思① □余りがある場合の除法について、具体物や図、式などを用いて自分の言葉で発表したり、友達に説明したりしている。(行動観察、ノート分析)	・態① □除法を活用して、被除数と除数の関係を考え、ブロックを操作したり図に表したりしながら、答えの見付け方を考えようとしている。(行動観察、ノート分析)
3	◇余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなどの用語の意味を知ることができる。 ◇余りと除数の関係を理解することができる。 ◆余りと除数の関係を調べる。	・知① □既習の計算方法を用いて、わり切れない場合の除法についても同様に計算することができる。(ノート分析) ・知③ □余りが除数より小さくなることを理解し、計算することができる。(ノート分析) ■既習の計算方法を想起させたり、図を用いて場面を表したりするよう支援する。	■既習事項(12÷3のような割り切れる除法の場合のブロック操作)の方法を想起させる。○などの図を用いて場面を表すよう支援する。	■ブロックを操作した場面や、ノートに記入した図を基に振り返らせ、助言しながら、児童の考えと児童が表現したことを関連付けていく。
4	◇等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考えることができる。 ◆等分除の場で、答えの見付け方を考える。		○思① □等分除の場面でも余りがある場合の除法が適用できることを具体物や図などを用いて説明している。(行動観察、ノート分析) ■既習の除法の方法を想起させ、ブロックを操作しながら自分の考えを表現するよう支援する。	
5	◇余りがある場合の除法の計算について、答えの確かめ方を知ることができる。	・知② □わり切れない場合の除法の計算において商や余りを求めたり、確かめたりすることができる。(ノート分析) ■簡単な除法の場面を想起させたり、図を用いて場面を表したりするよう支援する。		
6 . 7	◇日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考えることができる。 ◆商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。		・思② □商や余りの意味に着目して、日常生活の場面に応じた商の処理の仕方を考え、説明している。(行動観察、ノート分析) ■○などの図を用いて場面を表すように助言しながら、児童の考えと児童が表現したことを関連付けていく。	○態① □除法を活用して、被除数と除数の関係を考え、ブロックを操作したり図に表したりしながら、商の処理の仕方を考えようとしている。(ノート分析) ■ブロックを操作した場面や、ノートに記入した図や式を振り返り、助言しながら、児童の考えと児童が表現したことを関連付けていく。
8	◇学習内容の定着を確認し、理解を確実にすることができる。(章末問題)	・知①②③ □基本的な問題を解決することができる。(ノート分析) ■既習事項を確認するよう支援する。		
9	◇学習内容の定着を確認することができる。(評価テスト)	○知①②③ □基本的な問題を解決することができる。(ペーパーテスト) ■既習事項を確認するよう支援する。	○思② □日常の問題場面に応じて、余りの捉え方を整理しながら、問題を解決している。(ペーパーテスト) ■既習事項を確認するよう支援する。	
10	◇学習内容を適用して、除法の問題を考えたり、解決し合ったりすることができる。			○態② □日常生活の場面に応じて、除法を活用して考えようとしている。(ノート分析) ■既習事項を確認させたり、ブロックを操作させたりしながら、問題解決ができるよう支援する。

「指導と評価の計画」においては、指導に生かす評価を行う機会には「○」を、記録に残す評価を行う機会には「□」を付けて、各々の観点の評価を行う機会を示しています。

第2章 評価をしよう

Q6：単元の「指導と評価の計画」(p.36)は、どのような手順で作成するのですか。

A：まず、単元の目標を分析して、各時間のねらいにふさわしい1つから2つの観点に**評価項目を精選**します。その上で、単元のどの時間に**評価を行う機会を位置付け**、その時間のどの場面において評価を行うのかという**評価場面の精選**と、その評価資料をどのような方法で収集するかという適切な**評価方法の選択**について考える必要があります。

なお、日々の授業の中で、児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要であるため、児童の学習状況を記録に残す場面以外においても教師が児童の学習状況を確認することが大切です。

Q7：「指導に生かす評価」は、単元の「指導と評価の計画」にどのように位置付ければよいのですか。

A：指導に生かす評価は毎時間行いますが、単元の「指導と評価の計画」を作成する際には、児童が学習内容を確実に習得できるようにするために、指導に生かす評価の場면을適宜、位置付けることが大切です。

単元を通して、指導に生かす評価を適切に行い、教師の指導改善、児童の学習改善につなげていくことで、記録に残す評価の妥当性が高まります。

見取りによる評価を行う場合、事前に児童が何ができていればよいのか（「おおむね満足できる」状況と考えられる児童の姿）を具体的に想定しておく必要があります。その場合、「努力を要する」状況と考えられる児童に対する指導の手立てを計画しておき、「おおむね満足できる」状況となるよう適切な支援を行うことが大切です。また、必要に応じて、「十分満足できる」状況にあると判断できる児童に対しても適切な支援を行うことが大切です。

Q8：「記録に残す評価」は、単元の「指導と評価の計画」にどのように位置付ければよいのですか。

A：記録に残す評価は、単元などのまとまりの中で、観点別学習状況について適切に評価を実施できるよう、記録に残す評価の場면을精選して位置付けることが大切です。

- 「知識・技能」の知識については、単元を通して繰り返し使う中で、定着し理解が深まります。また、技能も繰り返し使うことで習熟し、生きて働く確かなものとなっていくことから、「記録に残す評価」の機会を単元末に位置付けることが考えられます。しかし、単元末のみで評価するのではなく、毎時間の机間指導などにおいて、ノートの記事内容や適用問題等から児童の学習状況を把握（メモ）し、適切な支援を行っていくことも大切です。
- 「思考・判断・表現」については、授業の中で、新たな問いに気付いたり、発展的・統合的に見て数学的なよさに気付いたりすることは児童の発言といった形で表出されることが多いことから、問題発見や解決の過程において、評価の機会を位置付けることが考えられます。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、授業中の問題発見や解決の過程において、粘り強く取り組む中で、既習事項を活用したり、話し合いの中で他者の意見を参考にしたりする姿に表れます。また、解決の過程を振り返って、自らの学習を調整し、よりよい表現や方法を考えたり、新たな問題場面を見いだしたり、日常生活の場面において活用しようとしたりする姿に表れます。そこで、活動の様子やノート等の記事内容等から児童の学習状況を把握します。
- 「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、単元を通して働かせた数学的な見方・考え方が豊かになるという算数科の特性から、単元前半から後半にかけて高まることが考えられます。そのため、単元の後半に評価を行う機会を位置付けることが考えられます。

4 授業を実施し、評価しよう

以下に、単元の「指導と評価の計画」(p.36)に位置付けた【指導に生かす評価】を行う時間と、【記録に残す評価】を行う時間の事例を示します。

事例【第3学年 単元「余りのあるわり算」】

(1) 第1時～第3時

評価規準(思考・判断・表現①)【指導に生かす評価】

除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。

- ・ 「おおむね満足できる」状況と考えられる児童の姿(例)
余りがある場合の除法について、具体物や図、式などを用いて自分の言葉で発表したり、友達に説明したりしている。
- ・ 「努力を要する」状況と考えられる児童に対する指導の手立て(例)
既習事項(12÷3のような割り切れる除法の場合のブロック操作)の方法を想起させる。
○などの図を用いて場面を表すように支援する。

(2) 第4時

評価規準(思考・判断・表現①)【記録に残す評価】

除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。

- ・ 「おおむね満足できる」状況と考えられる児童の姿(例)
等分除の場面でも余りがある場合の除法が適用できることをブロックや図を用いて説明している。
- ・ 「十分満足できる」状況と考えられる児童の姿(例)
包含除との違いを明らかにしながら、余りがある場合の除法が適用できることを説明している。
相手の説明が妥当かどうかを考えながら発言している様子が見られる。
- ・ 「努力を要する」状況と考えられる児童に対する指導の手立て(例)
既習の除法の方法を想起させ、ブロックを操作しながら自分の考えを表現するよう支援する。

(3) 第6・7時

評価規準(主体的に学習に取り組む態度①)【記録に残す評価】

除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。

- ・ 「おおむね満足できる」状況と考えられる児童の姿(例)
除法を活用して、被除数と除数の関係を考え、ブロックを操作したり図に表したりしながら、商の処理の仕方を考えようとしている。
- ・ 「十分満足できる」状況と考えられる児童の姿(例)
よりよい考えや表現に書き換えようとしている。
他者と比較して自分や他者の見方・考え方のよさに気付いたり、相手に応じて分かりやすく説明しようとしていたりしている。
- ・ 「努力を要する」状況と考えられる児童に対する指導の手立て(例)
ブロックを操作した場面や、ノートに記入した図や式を振り返り、「どうしてそのようにブロックを動かしたのですか。」「この図はどのように考えたのですか。」と助言しながら、児童の考えと児童が表現したことを関連付けていく。

5 観点別学習状況の評価の総括をしよう

Q9：評価の総括には、どのような方法がありますか。

A：観点別学習状況の評価の総括は、単元ごとに総括したのち学期ごとに総括したり、いくつかの単元をもとめて学期ごとに総括したりします。

以下に、観点別評価を単元末に総括して評価する例を示します。

【第3学年 単元「余りのあるわり算」の各時間の評価と単元末の評価（例）】

	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	児童の様子に関する特記事項	単元の評価の総括
D 児	知									B		・余りのある除法の計算が確実にできる。(第9時)	B
	思			*	€	→	B			B		・図を使って説明する際に、等分除と包含除を混同しており、指導が必要だった。(第3・4時) ・だが、改善された。(第6時)	B
	態	*					B				C	・ブロックや図を使って進んで考えようとしていた。(第1時) ・日常生活に結び付けることは難しい。(第10時)	B
E 児	知									A		・余りのある除法の計算が確実にできる。(第9時)	A
	思				B			*		A		・余りの処理について自力解決の段階では誤答だったものの、対話的な学びの中で気付くことができた。(第7時)	A
	態							B			A	・日常生活に結び付け、紹介することができた。(第10時)	B

- ① 基本的には、各観点について単元全体を通して、「A」が全体の半分以上を超えていれば「十分満足できる」状況(A)と総括し、「C」が全体の半分以上を超えていれば「努力を要する」状況(C)と総括します。どちらにも該当しない場合は、「おおむね満足できる状況」(B)と総括します。
- ② 単元後半に高まりを示すことが予想される観点を総括する場合は、観点別評価の「A」と「B」が同数であっても、単元前半から単元後半の高まりを考慮して総括することが考えられます。
- ③ 「*」は、単元の「指導と評価の計画」(p.36)に、「指導に生かす評価」を位置付けた時間において、児童の学習活動の状況を簡潔にメモした時間です(「児童の様子に関する特記事項」の網掛け部分参照)。このように児童の様子をメモしておくことで、単元末の評価に活用することができます。

Q10：上の表のD児の「€ → B」は何を表していますか。

A：記録に残した評価を基にして、指導に改善を加えたことで児童の学習状況に改善が見られたため、その見取りを加えて、評価の補完をしたことを表しています。

例えば、D児の第4時では、「思考・判断・表現」の観点を「C」と記録していましたが、第6時で、D児の自力解決の様子をノートの記事内容を基に確認したところ、題意を捉えて、包含除の図を表すことができいたため、「B」と修正し、さらに、第9時のペーパーテストで最終的な学習状況を確認しました。

○ D 児と E 児における観点別学習状況の評価の総括の仕方

D 児について

【「知識・技能」の観点について】

ペーパーテストによる評価で判断して、「おおむね満足できる状況」(B) と総括しました。

【「思考・判断・表現」の観点について】

第4時の評価「C」が、第6時で「B」に修正され、「B」が二つとなり、「おおむね満足できる状況」(B) と総括しました。評価の総括は、あくまでも記録に残す評価を基に行います。しかし、実際に指導を進める上で行ってきた評価を参考にすることもあります。

【「主体的に学習に取り組む態度」の観点について】

「B」が一つ、「C」が一つなので、「おおむね満足できる」状況 (B) と総括しました。

E 児について

【「知識・技能」の観点について】

ペーパーテストによる評価で判断して、「十分満足できる」状況 (A) と総括しました。

【「思考・判断・表現」の観点について】

第7時(*)の自力解決の段階では、正答にたどり着くことができなかったものの、その後の対話的な学びの中から解決方法に気付き、第9時では、日常生活の場面に応じて商の処理の仕方を分かりやすく説明することができていたため、「十分満足できる」状況 (A) と総括しました。

【「主体的に学習に取り組む態度」の観点について】

「A」が一つ、「B」が一つなので、「おおむね満足できる」状況 (B) と総括しました。

単元における観点別学習状況の評価の総括については、様々な考え方や方法があり、児童の実態に応じながら各学校において工夫することが大切です。

6 更に深めよう

Q11 : 発達の段階を考慮した評価をするために、どのような工夫が考えられますか。

A : 発達の段階において、児童自ら学習を調整する姿を見取ることが困難な場合があります。このため、算数科の「主体的に学習に取り組む態度」について、評価の観点の趣旨の作成等に当たって、児童の発達の段階や算数科の特質を踏まえて柔軟な対応が可能となるよう工夫します。

特に、小学校低学年・中学年段階では、例えば、学習の目標を教師が「めあて」などの形で適切に提示し、その「めあて」に向かって自分なりに様々な工夫を行おうとしているかを評価することや、他の児童との対話を通して自らの考えを修正したり、立場を明確にして話をしていたりする点を評価するなど、児童の学習状況を適切に把握するための学習評価の工夫をすることが求められます。

理 科

1 まずは、ここを確認しよう

Q1：小学校理科では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A：下記の【小学校理科の目標】に付記した下線部で示すとおり、小学校理科で育成を目指す資質・能力は、「自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力」です。具体的には、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で資質・能力が整理されています。

また、目標では、初めに、どのような学習の過程を通して資質・能力を育成するのかが示されています。具体的には、「～を通して」の前で示されている、「自然に親しむこと」や「理科の見方・考え方を働かせること」、「見通しをもって観察、実験を行うこと」などがそれに当たります。

【小学校理科の目標】

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

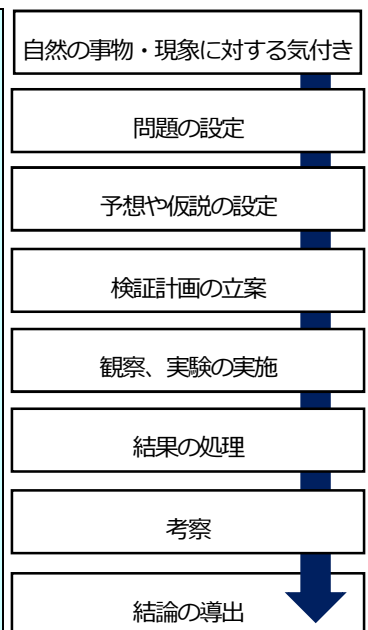
- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

Q2：目標の(2)で示されている「問題解決の力」とはどのような力でしょうか。

A：小学校理科では、右図で示す問題解決の過程の中で、問題解決の力が育成されるとしており、各学年で主に育てたい問題解決の力を、次のように示しています。

- 第3学年：差異点や共通点を基に、問題を見いだす力
- 第4学年：既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力
- 第5学年：予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力
- 第6学年：より妥当な考えをつくりだす力

これらの問題解決の力は、その学年で中心的に育成するものですが、実際の指導に当たっては、どの学年の児童も問題解決を行うことから、他の学年で掲げている問題解決の力の育成についても十分に配慮することが重要です。それぞれの学年において、示されている力だけを育成し、その力だけを評価するというではないことに留意することが大切です。



Q3：「主体的に問題解決しようとする態度」とは、どのような態度ですか。

A：例えば、以下のような態度が考えられます。

- 意欲的に自然の事物・現象に関わろうとする態度
- 粘り強く問題解決しようとする態度
- 他者と関わりながら問題解決しようとする態度
- 学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする態度 など

2 単元ごとの目標等を踏まえ、評価規準を設定しよう

ここでは、第3学年B(2)「太陽と地面の様子」を例に、単元の評価規準作成の流れを紹介します。

単元の目標

日なたと日陰の様子に着目して、それらを比較しながら、太陽の位置と地面の様子を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や主体的に問題を解決しようとする態度を育成する。

表1 学習指導要領の「2 内容」(「解説理科編」p.42 参照)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わる<u>こと</u>。</p> <p>(イ) 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に<u>違い</u>がある<u>こと</u>。</p>	<p>イ 日なたと日陰の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子との関係についての<u>問題</u>を見だし、<u>表現</u>すること。</p>	<p>※ 「2 内容」には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当学年の目標3)を参考に<u>する</u>。</p>

「2 内容」を基に「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。
 ※ 「内容のまとめり」ごとに、**育成を目指す資質・能力**が示されていることから、「2 内容」の記載は、そのまま**学習指導の目標になり得る**といえます。そのため、「内容のまとめりごとの評価規準」については、**資質・能力**の記載事項の文末を「～を理解している」、「～表現している」等に変換することで、作成することができます。

表2 内容のまとめりごとの評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって<u>変わることを理解している</u>。 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に<u>違いがあることを理解している</u>。 観察、実験などに関する技能を<u>身に付けている</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 日なたと日陰の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子との関係についての<u>問題</u>を見だし、<u>表現している</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽と地面の様子についての<u>事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている</u>とともに、<u>学んだことを学習や生活に生かそうとしている</u>。

「内容のまとめりごとの評価規準」と「評価の観点及びその趣旨(右ページ(p.43) Q5 参照)」を踏まえ、より具体的な「単元の評価規準」を作成します。

表3 単元の評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって<u>変わることを理解している</u>。</p> <p>②地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に<u>違いがあることを理解している</u>。</p> <p>③太陽と地面の様子との関係について、器具や機器などを<u>正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している</u>。</p>	<p>①太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、<u>問題</u>を見だし、<u>表現</u>するなどして問題解決している。</p> <p>②太陽と地面の様子との関係について、<u>観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現</u>するなどして問題解決している。</p>	<p>①太陽と地面の様子との関係についての<u>事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている</u>。</p> <p>②太陽と地面の様子との関係について<u>学んだことを学習や生活に生かそうとしている</u>。</p>

Q4 : 小学校理科の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A : 右図は、「解説理科編」(pp.22-25) に示されている「内容の構成」の一部であり、小学校理科では、この図で示す枠囲み一つ一つを「内容のまとめり」としてしています。ここでは、「粒子」領域を例に第3学年～第6学年までで六つの「内容のまとめり」があることを示していますが、他の「エネルギー」、「生命」、「地球」も含め、四つの領域を合わせると31個の「内容のまとめり」があります。



Q5 : 「評価の観点及びその趣旨」では、各学年でどのような違いがありますか。

A : 下表で示すように、「評価の観点及びその趣旨」については、「第3、4学年」と「第5、6学年」では、要素が一部異なります。「単元の評価規準」を作成する際の参考になるので確認しましょう。

【参考】「改善等通知(別紙4)」(1)評価の観点及びその趣旨(小学校理科)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3年	●●について理解しているとともに、器具や機器などを 正しく扱いながら 調べ、それらの過程や得られた結果を 分かりやすく 記録している。	●●について、観察、実験などを行い、主に差異点や共通点を基に、 問題を見だし 、表現するなどして問題解決している。	●●についての事物・現象に 進んで 関わり、 他者と関わりながら 問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
4年	同上	●●について、観察、実験などを行い、主に既習の内容や生活経験を基に、 根拠のある予想や仮説を 発想し、表現するなどして問題解決している。	同上
5年	●●について理解しているとともに、観察、実験などの 目的に応じて 、器具や機器などを 選択 して、 正しく扱いながら 調べ、それらの過程や得られた結果を 適切 に記録している。	●●について、観察、実験などを行い、主に予想や仮説を基に、 解決の方法を 発想し、表現するなどして問題解決している。	●●についての事物・現象に 進んで 関わり、 粘り強く 、 他者と関わりながら 問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
6年	同上	●●について、観察、実験などを行い、主にそれらの仕組みや性質、規則性、働き、関わり、変化及び関係について、 より妥当な考えをつくりだし 、表現するなどして問題解決している。	同上

※ ●●は、各学年の学習内容(「身の回りの生物」、「太陽と地面の様子」など)を示している。

Q6 : 「単元の評価規準」は、どのように作成するのですか。

A : 「単元の評価規準」は、「内容のまとめりごとの評価規準」や「評価の観点及びその趣旨」を踏まえ、以下のような六つの枠組みを基本として作成します。左ページ(p.42)表3と合わせて確認しましょう。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ <u>知識面</u> について	○ <u>観察、実験前の</u> 思考・判断・表現について	○ <u>粘り強い</u> 取組を行おうとする側面及び自らの学習を調整しようとする側面について
○ <u>技能面</u> について	○ <u>観察、実験後の</u> 思考・判断・表現について	○ 理科を学ぶことの意義や有用性の認識という側面について

理科

3 単元の指導と評価の計画を作成しよう

【事例】 単元名「かげと太陽」〈第3学年 B(2)太陽と地面の様子〉 (11 時間)

	ねらい・学習活動	重点	記録	評価の観点
1	○影ふみをするために、影について知っていることを出し合う。 ○影についてもっと詳しく知るために、屋外に出て、影の写真を撮る。 ○グループごとに撮影した写真を比較し、各自が問題を見いだす。	思		【思考・判断・表現①】
2	○各自が見いだした問題を基に、学級共通の問題を設定する。 【問題】 かげは、どのようなところに行けるのだろうか。 ○複数の物で、影の形や長さ、向きなどを調べ、記録する。 【結論】 かげは、日光をさえぎる物があると、太陽の反対側に行ける。	知		【知識・技能③】
3	○影ふみを午前と午後の2回行い、体験したことを基に、自分なりの問題を見いだす。	思	○	【思考・判断・表現①】
4	【問題】 時間がたつとかげの向きはどのように変わるのだろうか。 ○方位磁針や遮光板を使い、太陽の位置や影の動きを観察し、記録する。	知	○	【知識・技能③】
5	○調べたことを基に考察し、学級で結論を導きだす。 【結論】 時間がたつと、かげの向きは西から東へ変わる。それは、太陽のいちが、東から南を通過して、西へと変わっているから。	知		【知識・技能①】
6	○影ふみの振り返りを行う。 ○安全地帯（建物によってできる日陰）に入ったときのことについて感じたことを発表する。 ○屋外に出て、日なたと日陰の違いを調べる。	態	○	【主体的に学習に取り組む態度①】
7	○調べた明るさ、暖かさ、涼しさ、湿り具合などについて話し合う。 ○日なたと日陰の違いを基に、各自が問題を見いだす。	思	○	【思考・判断・表現①】
8	【問題】 日なたと日かげの地面のあたたかさには、どのようなちがいがあるのだろうか。 ○午前10時と正午の2回に分けて地面の温度を計測し、結果を記録する。	知	○	【知識・技能③】
9	○観察の結果から、日なたと日陰の地面の暖かさについて考察し、日なたと日陰の違いについての結論を導きだす。 【結論】 日なたの地面は、太陽によってあたためられるから、日なたの地面の温度は日かげの地面の温度よりも高い。	思		【思考・判断・表現②】
10	○時間とともに、影はどのように動くのか、日なたと日陰には、どのような違いがあるのかなど学習したことをまとめ、影ふみのコツを考える。 ○これまでに学習したことを基に、「かげふみブック」を作成する。	知	○	【知識・技能①②】
11	○作成した「かげふみブック」を参考に、再度影ふみをする。 ○「かげふみブック」を見直す。	態	○	【主体的に学習に取り組む態度②】

※ 「備考」にある観点の①～③は、「単元の評価規準 (p.42 表3)」で示す各観点の番号を示しています。

Q7：単元の指導と評価の計画に示されている「重点」や「記録」とは何を意味していますか。

A：「重点」は、それぞれの時間において、重点的に児童の学習状況を評価する観点であり、「記録」の欄にある○印は、評価規準に照らして、児童一人一人の学習状況をA、B、Cなど記録に残す時間であることを示しています。

Q8：記録に残す評価の場面を精選するということから、一単位時間では、一つの観点について評価することが望ましいのですか。

A：事例では、基本的に一単位時間に一つの観点を設定していますが、その時間の目標によっては、一単位時間で、二つの観点について評価を行うことも考えられます。その際、学習評価が、児童の学習改善や教員の指導改善につながるものとなるよう、各学校の実態に応じて、評価方法や評価場面等を工夫することが大切です。

Q9：なぜ、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間を、単元の後半に位置付けているのでしょうか。

A：「主体的に学習に取り組む態度」は、粘り強い取組を行おうとする側面や自らの学習を調整しようとする側面などから評価することとしています。これらは、単元の学習がある程度、進んでから見取ることができる態度であると考え、事例では、第6時や第11時など単元の後半に位置付けています。

Q10：【思考・判断・表現②】を設定しているのは、第9時のみですが、児童全員の学習状況を記録に残す時間ではなくてよいのでしょうか。

A：第3学年で主に育成を目指す問題解決の力は、第1時、第3時、第7時において「思考・判断・表現①」で評価をするよう計画しています。「思考・判断・表現②」について、事例では、第9時において児童の学習状況を確認し、適宜助言を行うこととし、今後実施する別の単元で、記録に残す評価を行うよう計画しています。

Q11：単元の評価規準では、それぞれの観点で六つの側面（p.43 Q6 参照）が示されていますが、例えば、総時数を6時間で計画した単元の場合、どのように記録に残す評価の場面を精選するのですか。

A：記録に残す評価の場面の精選とはいえ、毎時間、記録に残す評価が必要になる場合もありますし、以下の例のように、記録に残す場面を精選することも考えられます。

例1. 「主体的に学習に取り組む態度」については「涵養すること」とされていることから、この単元では、継続的に児童の変容を見取るなど、児童の学習状況を確認することとし、次の単元で記録に残す評価をすることも考えられます。

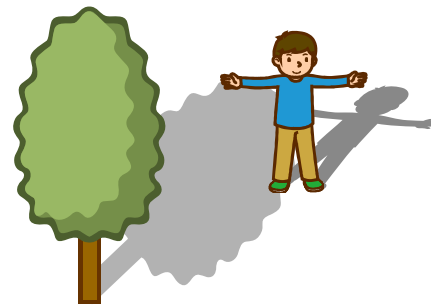
例2. 「思考・判断・表現②」など、主にその学年で育成を目指す問題解決の力ではない場合は、次の単元で記録に残す評価をすることも考えられます。

4 授業を実施し、評価しよう

事例 単元名「かげと太陽」〈第3学年B(2) 太陽と地面の様子〉※ 思考・判断・表現①の評価事例(第3時)

(1) 評価規準(思考・判断・表現①)

太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。



(2) 評価方法

発言分析、記述分析等

(3) 指導と評価の実際

第3時は、児童の「思考・判断・表現①」の学習状況を記録に残す場面として設定している。この観点については、第1時でも設定しているが、第1時は、児童の学習状況を記録に残す場面ではなく、特徴的な児童の学習状況を確認し、児童の学習改善や教師の指導改善に生かす場面として位置付けている。

第1時【思考・判断・表現①】

① 主な学習活動

第1時では、児童が撮影した影の写真を比較して、影のでき方について、各自が問題を見出すこととしている。また、第1時で各自が見出した問題を基に、第2時では、学級で追究する共通の問題を設定することとしている。

② 児童の姿

・ A児の学習状況： 「なぜ、かげは黒いのか」という問題をノートに記述した。

→ A児に対する教師の助言： 対象に働きかけた上で、複数の写真を比較し、見出した問題であることを認めつつ、自分でその問題を解決することができるのかについて考えるよう助言した。

第3時【思考・判断・表現①】

① 主な学習活動

第3時では、時間を変えて影ふみを行い、それぞれの時間の写真を比較することで、共通点や差異点を基に、各自が問題を見出すこととしている。児童は、午前と午後に行った影ふみを比較することで、「影があるのは同じだった。」「逃げ込むとつかまらない安全地帯が小さくなっていた。」など様々な気づきを基に、共通点や差異点をまとめることができた。

② 児童の姿

・ A児の学習状況： 第1時に「なぜ、かげは黒いのか」という問題を記述していたA児は、第3時において、朝は大きな木の影に逃げ込むことができたけれど、昼には逃げ込むことが難しかったという事実と、影ふみの2枚の写真を比較しながら、影はできているけれど位置や大きさが違うという気付いたこと結び付け、「かげの位置は、時間によって変わっているのだろうか」という問題をノートに記述していたため、「おおむね満足できる」状況と評価した。

・ B児の学習状況： 「木がゆれたら、かげもゆれるのか」という問題をノートに記述した。時間を変えて行った2度の影ふみの体験や写真を比較し、共通点や差異点を基にした問題になっていないことや第1時に撮影した影の写真について感じたことだけが基になった記述であることなどの理由から、「努力を要する」状況と評価した。B児には、もう一度、写真を比較できるようにして、2枚の写真から差異点や共通点を基に、問題を見出すよう支援を行った。

○観点別学習状況の評価の総括について

ここでは、単元の評価計画に基づき、それぞれの評価の観点における評価規準に従って評価を実施し、観点別に評価を総括した事例を紹介します。

【事例】C児

次	時	学習活動	知	思	態	児童の様子
第1次	1	影の写真を比較する。				写真を比較して、差異点から問題を見いだした。
	2	影の向きを調べる。				影と太陽の位置を合わせて記録した。
	3	影の動きについて問題を見いだす。		A		午前と午後の影ふみの共通点や差異点から影の動きについて、検証可能な問題を見いだした。
	4	太陽の位置や影の動きを記録する。	A			方位磁針や遮光板を正しく使い、太陽の位置や影の動きを分かりやすく記録した。
	5	結果から結論を導きだす。				日陰と太陽の位置変化とを結び付けて記述した
第2次	6	日なたと日陰の違いを調べる。			A	友達と役割分担して、地面の体感の違いを何度も調べた。
	7	日なたと日陰について問題を見いだす。		B		日なたと日陰の地面の様子についての差異点から問題を見いだした。
	8	地面の温度を記録する。	B			放射温度計を使って温度を記録した。
	9	記録を基に考察する。				地面の温度の記録を基に考察した。
	10	学習したことを「かげふみブック」にまとめる。	A			既習の内容と関係付けて理解した。
	11	「かげふみブック」にまとめたことを影ふみに生かす。			A	学習したことを影ふみだけでなく、植物を置く場所にも結び付けて考え、記述を更新した。
単元の総括			A	B	A	

(1) 知識・技能について

「技能」については、第4時と第8時の2回、観察記録を基に評価した。また、「知識」については、第10時に総括的に1回で評価をした。評価の場面としては、「知識」が1回、「技能」が2回であるが、単元の評価規準の数としては、「知識」が①と②の二つ、「技能」が③の一つであることから、「知識①：A」、「知識②：A」、「技能①：B」と判断し、「知識・技能」の総括的評価をAとした。

(2) 思考・判断・表現について

第3時では、検証可能な問題を見いだすことができていたが、第7時においては、日なたと日陰の地面の様子について差異点から問題を見いだしているものの、検証可能な問題ではなかったため、「思考・判断・表現」の総括的評価をBとした。

(3) 主体的に学習に取り組む態度について

第6時では、友達と日なたと日陰の温度や湿り気を体感し、見通しをもって調べようとしていた。また、第11時には、学習したことを影ふみだけでなく、植物の置き場所に結び付けるなど日常生活につなげようとする記述がみられたため、「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価をAとした。

5 更に深めよう

Q12:「学習評価の在り方ハンドブック(文部科学省 国立教育政策研究所 令和元年6月)」のQ&Aでは、「各教科において『十分満足できる』状況(A)と判断するのは、評価規準に照らし、児童生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合です。(以下、略)」と示されています。

小学校理科では、この「質的な高まりや深まり」をどのように捉えることができますか。

A:教科の目標で示すとおり、小学校理科は、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力の育成を目指していることから、「学習状況の質的な高まりや深まり」については、「**科学**的かどうか」が一つのキーワードになり得ると考えることができます。つまり、実証性、再現性、客観性などといった条件を重視しながら問題を解決しているかどうかで判断することも考えられます。

例えば、観察、実験の結果を基に、妥当な考えをつくり出す考察の場面において、自分の実験結果だけでなく、できるだけ多くの結果(事実)を基に考察している場合には、再現性、客観性といった観点から、「十分満足できる」状況(A)と判断することも考えられます。

【参考】

- 実証性:考えられた仮説が観察、実験などによって検討することができるという条件
- 再現性:仮説を観察、実験などを通して実証するとき、人や時間や場所を変えて複数回行っても同一の実験条件下では同一の結果が得られるという条件
- 客観性:実証性や再現性という条件を満足することにより、多くの人々によって承認され、公認されるという条件

Q13:資質・能力で示されている「自然を愛する心情」は、どのように評価するのですか。

A:「自然を愛する心情」は、観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから、**個人内評価を通じて見取る**ことが大切です。

観点別学習状況の評価や評定には含まれませんが、植物の栽培や昆虫の飼育などの体験活動を通して、自然を愛する心情を涵養することは、小学校の理科教育で大切にしたいことといえます。

生活

1 まずは、ここを確認しよう

Q1：生活科では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A：具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指します。

【生活科の目標】

①具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。 ※ 「解説生活編」(p.8)参照

下線①：生活科の前提となる特質、生活科固有の見方・考え方、生活科における究極的な児童の姿を示しています。

(1)、(2)、(3)：生活科を通して育成することを目指す資質・能力です。

- (1)・・・「知識及び技能の基礎（生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったりするか）」を示しています。
- (2)・・・「思考力、判断力、表現力等の基礎（生活の中で、気付いたこと、できるようになったことを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）」を示しています。
- (3)・・・「学びに向かう力、人間性等（どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか）」を示しています。

Q2：生活科の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：学習指導要領に示されている九つの内容です。

学校、家庭及び地域の生活に関する内容	内容(1) 学校と生活 内容(2) 家庭と生活 内容(3) 地域と生活
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	内容(4) 公共物や公共施設の利用 内容(5) 季節の変化と生活 内容(6) 自然や物を使った遊び 内容(7) 動植物の飼育・栽培 内容(8) 生活や出来事の伝え合い
自分自身の生活や成長に関する内容	内容(9) 自分の成長

Q3：単元計画や単元の目標は、どのように作成するのですか。

A：次の三つの点を大切に作成します。

- ① 単元計画の作成に当たっては、「内容のまとめり」を踏まえて、生活科の単元の特徴_{※1}を大切にする。
- ② 単元計画の作成に当たっては、2年間にわたって各内容をどの学年で、どのように扱うかを構想し、妥当性・信頼性のある評価を行えるよう創意工夫する。
- ③ 単元の目標の作成に当たっては、育成する資質・能力を総括的に示す_{※2}などの工夫をする。

※1 「参考資料」(p.34) 参照

※2 「Q4 2 単元の目標の構成」(p.3)参照

2 単元ごとの目標と評価規準を作成しよう

【事例1】 単元名「いきもの 大すき」(第2学年) ※1単元を1内容(内容(7))で構成した場合

単元の目標

モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気づき、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。



単元の目標を踏まえて評価規準を作成します。

単元の評価規準の作成例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気づいている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。

【事例2】 単元名「あきとあそぼう」(第1学年) ※1単元を2内容(内容(5)、内容(6))で構成した場合

単元の目標

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、
内容(5) 内容(6) 内容(5)
 遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊
内容(6) 内容(5) 内容(6)
 びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみなが
内容(5) 内容(6)
 ら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。



単元の目標を踏まえて評価規準を設定します。

単元の評価規準の作成例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気づいている。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。

Q4：単元の目標と評価規準はどうやって作成するのですか。

A：学習指導要領に示された記載事項を確認し、具体的な学習対象や活動に即して単元の目標を作成します。また、単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成します。

ここでは、【事例1】を用いて説明します。

1. 単元の目標について

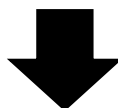
具体的な学習対象や活動に即して単元目標を作成します。

①学習指導要領に示された記載事項

「解説」(p.43)

内容(7) 「動植物の飼育・栽培」

①動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、②それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、③それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、④生き物への親しみをもち、大切にしようとする。



下線部を具体的な学習対象や活動に置き換えます。

下線部① 動物を飼ったり植物を育てたりする活動	⇒	モルモットを飼育する活動
下線部② それらの育つ場所、変化や成長の様子	⇒	モルモットの変化や成長の様子
下線部③ それらは	⇒	モルモットに合った世話の仕方
下線部④ 生き物	⇒	モルモット

生活

2. 単元の目標の構成について

①モルモットを飼育する活動を通して、②モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、③モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気づき、④モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

①具体的な活動や体験 ②思考力、判断力、表現力の基礎 ③知識及び技能の基礎 ④学びに向かう力、人間性等

※ 幼児期までの学びの特性を踏まえ、育成を目指す三つの資質・能力を^{せつぜん}截然_{※3}と分けることができないことから、生活科においては教科目標に示した資質・能力の末尾が「の基礎」となっています。

このことを踏まえ、単元の目標の作成に当たっては、**育成する資質・能力を総括的に示す**などの工夫が必要です。

※3 截然・・・物事の区別がはっきりしていること

3 単元の指導と評価の計画を作成しよう

【事例1】 単元名 「いきもの 大すき」(第2学年)

○ 単元の評価規準

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付いている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。
小單元における評価規準	1 ①モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。	第1小單元から第2小單元にかけて継続的に見取る	①元気に育てたい、仲良くなりたいたいという思いや願いをもって、モルモットに関わろうとしている。
	2 ②モルモットも自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、モルモットに合った世話の仕方があることに気付いている。 ③モルモットを適切な仕方 で世話をしている。		①モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。
	3 ④モルモットへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。	②モルモットとの関わりを振り返りながら、世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を表現している。	③モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

○ 指導と評価の計画 (16時間)

小單元名(時間)	学習活動	評価規準	評価方法
1 見てさわってなかよし大さくせん(4)	<ul style="list-style-type: none"> 3年生からモルモット飼育を依頼され、話し合う。 獣医師から、モルモットについての話を聞き、モルモットと関わる上で、気を付けなければならないことを知る。 モルモットに触れたり、えさを与えたり、一緒に遊んだりしながら、モルモットを観察する。 	態① 知①	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察や発言分析、観察カードの分析 観察カードの分析、発言分析
2 お世話でなかよし大さくせん(7)	<ul style="list-style-type: none"> モルモットの飼育環境やえさ、世話の仕方などを調べる。 モルモットの様子に合わせて、世話の仕方を工夫する。 モルモットを飼育して、気付いたことや感じたことを絵や文で表現したり、友達に伝えたりする。 	知② 思① 知③ 知① 態②	<ul style="list-style-type: none"> 発言分析、調べ活動のメモの分析 行動観察、発言分析、モルモット日誌の分析 行動観察やモルモットの世話の記録の分析、発言分析 観察カード及び短冊カードの分析、発言分析 行動観察や観察カードの分析、発言分析
3 ぼく・わたしとモルモット(5)	<ul style="list-style-type: none"> これまでのモルモットの飼育活動を振り返る。 世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を、モルモットの本に表現する。 	知④ 態③ 思②	<ul style="list-style-type: none"> 作品(モルモットの本)や発言分析 作品(モルモットの本)や発言分析、行動観察 作品(モルモットの本)や発言分析

知識・技能・・・知

思考・判断・表現・・・思

主体的に学習に取り組む態度・・・態

第2章
評価を
しよう

Q5：小單元における評価規準はどうやって作成するのですか。

A：学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力に関する記述を確認するとともに、具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）※4を参考に作成します。

※4「参考資料」(pp.74-82)参照

【事例1】小單元における評価規準作成の例（知識・技能）

内容(7)に関する資質・能力	小單元における評価規準	1	①モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。
知識及び技能の基礎			2
それらは <u>生命をもっていることや成長していることに気付くとは、動植物の飼育・栽培を行う中で、動植物が変化し成長していることに気付くこと、生命をもっていることやその大切さに気付くこと</u> である。 「解説 生活編」(p.43)、「参考資料」(p.37)参照		③モルモットを適切な仕方で世話をしている。	
具体的な内容のまとまりごとの評価基準(例)			
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>動植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。</u> ・<u>育てている動植物に合った世話の仕方があることに気付いている。</u> ・<u>生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。</u> <p style="text-align: right;">「参考資料」(p.80)参照</p>			

※ 小單元の評価規準の作成については、「参考資料」(pp.74-82)にある「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に作成することができます。

※ 観点ごとの「評価規準」を作成する際には、育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準の作成のポイント「参考資料(pp.40-41)」を踏まえる必要があります。

Q6：「評価規準」にある【事例1】の「知①」のように、数字に重複があるのはなぜですか。

A：いくつかの小單元にわたって見取る必要があるためです。

本事例では、モルモットの特徴に気付いていることに重点をおいているため、第1小單元から第2小單元にかけて継続的に見取るものとして計画されています。

Q7：小單元において評価する観点は、一単位時間の中で毎回評価するものですか。

A：一単位時間で全ての観点を必ず評価することは求められていません。

児童生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の学習評価の流れを念頭におき、観点別の学習状況について評価する時期や場면을精選することが大切です。

学習評価の場面の精選

日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握し、指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要です。

観点別の学習状況の評価の場面の精選

毎回の授業ではなく、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要です。

4 授業を実施し、評価しよう

【事例1】 単元名 「いきもの 大すき」(第2学年)

小単元名 (時間)	学習活動	評価 規準	評価方法
2 お世話で なかよし 大きくせ ん(7)	・モルモットの飼育環境やえさ、世話の仕方などを調べる。 具体的事例②	知②	・発言分析、調べ活動のメモの分析
	・モルモットの様子に合わせて、世話の仕方を工夫する。	思①	・行動観察、発言分析、モルモット日誌の分析
	具体的事例①	知③	・行動観察やモルモットの世話の記録の分析、発言分析
	・モルモットを飼育して、気付いたことや感じたことを絵や文で表現したり、友達に伝えたりする。	知①	・観察カード及び短冊カードの分析、発言分析
		態②	・行動観察や観察カードの分析、発言分析

具体的事例① 【知識・技能】

① 主な学習活動

第1小単元で、児童はモルモットと仲良くなりたいという思いや願いをもち、実際にモルモットに触れたり、えさを与えたり一緒に遊んだりしながら、観察する活動を行う。繰り返し触れ合う活動を行いながら、モルモットについての気付きを観察カードに記録していく。モルモットの身体的特徴、行動面の特徴、個々の性格や嗜好など、様々な気付きの自覚と蓄積ができると考えた。また、モルモットについての気付きを全体で話し合いながら短冊カードに書き出し、比べたり分類したりして、モルモット掲示板に貼っていく活動も行う。これにより、気付きの共有や関連付けを促すことができると考え、学習活動を展開した。

② 評価規準

モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。

③ 評価方法

観察カードや短冊カードの分析、発言分析

④ 児童の姿

・A児の姿

学級のみんで育てることになったモルモットに触れることに興味があり、なでたりえさを与えたりすることに意欲的に取り組んでいた。しかし、観察カードにはモルモットと触れ合った感想のみを記述していた。友達とモルモットについて発見したことを紹介し合う場を設定したが、次の観察カードの記述にもあまり変化は見られなかった。

→ 教師は、A児のモルモットへの気付きを言葉で引き出したり、価値付けたりするようにした。A児は、教師の問いかけに答えながら、モルモットの身体的特徴に気付き始めた。A児は次第に、行動面の気付きも観察カードに書くようになった。

A児は当初よりも様々な視点からモルモットの特徴に気付くことができるようになり、「**努力を要する**」状況から「**おおむね満足できる**」状況へと変容した。

・B児の姿

B児は、モルモットを観察し、観察カードに絵と文で気付いたことを記録していった。繰り返しモルモットに触ったり、えさを与えたりしながら、モルモットの感触、身体的特徴、行動面の特徴、性格や嗜好など、観察カードに様々な視点からの気付きを書くことができた。また、B児がビニール袋を開けてえさを与えようとしたところ、モルモットがケージの柵を飛び越えたことがあった。B児は、ケージを飛び越えたのは、自分がえさを与えようとした際のビニールの音に反応したためと考えた。

→ 教師は、そのように考えた理由をB児にたずねたところ、「前に〇〇さんが『ビニール袋の音がすると、モルモットは野菜がもらえると分かるんだ。』と言っていたから。」と答えた。

B児はモルモットについて様々な視点から気付くことができおり、加えて自分と他者の気付きが関連付けられ新たな気付きが生まれていることから、「**十分満足できる**」状況と評価した。

具体的事例②【思考・判断・表現】

① 主な学習活動

モルモットの変化や成長の様子から、世話の方法を考えながら飼育活動を行う。4人程度のグループを編成し、当番を決めて、日常的な飼育活動をしていく。飼育活動を始めたばかりの児童は手順通りに世話をすることだけで精一杯で、モルモットの様子に気を配ったり、モルモットの立場に立って世話をしたりするところまで思いが至らない。しかし、継続的な飼育活動を通して、次第にモルモットにとって適切な飼育環境を知ったり、自分の世話とモルモットの変化や成長の様子を関連付けたりして世話をすることができるようになることを考え、学習活動を展開した。

② 評価規準

モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら世話をしている。

③ 評価方法

行動観察、発言分析、モルモット日誌の分析

④ 児童の姿

・C児の姿

あるモルモットの「足の裏が少し赤い」というこれまでとは違う変化に気付いた。また、他のモルモットよりも重いことから、「体重が重くて、足が痛い」と考えた。グループで話し合い、ストレスにならないくらいに運動させることになった。始めは上手くいかなかったが、C児が「動き回れる場所を広くするために、段ボールで柵を作り、毎日一定時間をその柵の中で過ごせるようにしてはどうか」と提案した。グループでの話し合いや、獣医からのアドバイスも基にして考えた結果、C児の提案した方法も含めダイエットを試みることになった。C児は、柵づくりで率先して声を掛け、友達と協力して柵を作り上げた。毎日午前中に、段ボール柵の中で過ごさせることで、体重が減り、足の裏の赤みが改善した。

C児はモルモットの足の裏や体重の変化に気付き、さらにその改善のために飼育環境を工夫していることから、「十分満足できる」状況と評価した。

観点別学習状況の評価の総括

(例1) 日々の評価一覧

小単元3 (5)	知識・技能④		思考・判断・表現②			主体的に学習に取り組む態度③	
	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目
A児	C	B	—	B	B	B	B
B児	—	A	B	A	A	—	A
C児	A	—	A	—	B	B	—
D児	B	A	—	B	A	—	A

(例2) 小単元ごとの評価一覧

小単元の 評価規準	知識・技能				思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	知①	知②	知③	知④	思①	思②	態①	態②	態③
A児	B	C	B	B	B	B	B	B	B
B児	A	B	A	A	A	A	A	B	A
C児	B	A	A	A	A	B	A	A	B
D児	A	B	B	A	B	A	B	B	A

評価の観点ごとの総括の仕方(例)

① 全体の傾向を概観する。

・ 三つの小単元があった場合、A・B・Aなら「A」としたり、A=3、B=2、C=1として、合計点や平均値で判断したりする。

② 単元における学習の位置付け、学習活動の長短及び実施段階などを勘案して重み付けをする。

・ 小単元①での評価期間が4時間、小単元②での評価期間が7時間、小単元③での評価期間が5時間ならば、小単元②での評価に重み付けをする。

・ 「知識・技能」では小単元①の知①、「思考・判断・表現」では小単元②の思①、「主体的に学習に取り組む態度」では小単元③の態③に重み付けをする。

③ 一人一人の変容した姿を考慮する。

・ 小単元①がB、小単元②がB、小単元③がAの場合、変容した姿や成果を加味して判断する。

Q8：生活科ではどのように評価を総括すればよいですか。

A：「小単元における評価規準」の評価結果を集計するとともに、単元全体を通しての児童の変容や成長の様子を捉えるなど、長期にわたる評価が重要であり、それらを合わせて総括します。

生活科の評価では、次のような学習の過程の評価が重要です。

- ・ 行動観察及び学習カードや作品の分析をする。
- ・ 結果や出来栄よりも活動や体験そのものを評価する。
- ・ 児童の学習状況の全体像（個人内の成長や多様性）を捉え直してみる。
- ・ 授業時間外の児童の姿の変容にも目を向け、評価の対象に加える。

Q9：評価に偏りが生じないように総括するためには、どのようにするとよいですか。

A：「単元の評価規準」に照らし合わせたり、単元における学習の位置付け、学習活動の長短及び実施段階などを勘案したりして、「小単元における評価規準」による評価結果に軽重をかけることが必要です。

※「参考資料」(p.52)参照

5. 更に深めよう

Q10：学習内容に伝え合う活動が含まれる場合、内容(8)を加えて2内容で構成することになりますか。

A：伝え合う活動が入ったからといって、内容(8)の「生活や出来事の伝え合い」を含める必要ありません。

内容(8)では、双方向のやり取りを繰り返す中で、互いの気持ちがつながり、心が豊かになることが大切です。そのためにも、単元計画の中に継続的に関わることのできる対象を設定することが大切となってきます。

内容(8)の趣旨を踏まえ、他の内容との関連を図った単元を構成することにより、それぞれの内容が補い合い支え合うことで成果を上げることが重要です。

Q11：1単元を2内容で構成すると目標が長くなりますが、どのようにすべきですか。

A：単元全体を俯瞰し、目標を見直しすることができます。

「参考資料」(p.36)参照

1単元を2内容で構成するため、単元の目標が長くなってしまいます。小単元における評価規準を作成し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行う必要があり、見直しをした単元計画や評価規準に合わせて、目標を見直しすることができます。

音 楽

1 まずは、ここを確認しよう

Q1：小学校音楽科では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A：音楽科では、「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」を育成します。音楽科の目標には、この資質・能力が、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されています。また、このような資質・能力を育成するためには、音楽的な見方・考え方を働かせることが必要です。

【小学校音楽科の目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、**生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

Q2：音楽科の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：音楽科における「内容のまとめり」は、以下のようになっています。

〔第1学年及び第2学年〕	〔第3学年及び第4学年〕	〔第5学年及び第6学年〕
〔A 表現〕(1)歌唱及び〔共通事項〕(1)	〔A 表現〕(1)歌唱及び〔共通事項〕(1)	〔A 表現〕(1)歌唱及び〔共通事項〕(1)
〔A 表現〕(2)器楽及び〔共通事項〕(1)	〔A 表現〕(2)器楽及び〔共通事項〕(1)	〔A 表現〕(2)器楽及び〔共通事項〕(1)
〔A 表現〕(3)音楽づくり及び〔共通事項〕(1)	〔A 表現〕(3)音楽づくり及び〔共通事項〕(1)	〔A 表現〕(3)音楽づくり及び〔共通事項〕(1)
〔B 鑑賞〕(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1)	〔B 鑑賞〕(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1)	〔B 鑑賞〕(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1)

Q3：音楽科における事項は、どのように示されていますか。

A：音楽科における事項は、以下のよう示されています。

〔A 表現〕(1) 歌唱、(2) 器楽、(3) 音楽づくり

ア…思考力、判断力、表現力等に関する内容、イ…知識に関する内容、ウ…技能に関する内容

〔B 鑑賞〕(1) 鑑賞

〔共通事項〕(1)

ア…思考力、判断力、表現力等に関する内容、イ…知識に関する内容

Q4：〔共通事項〕(1)は、どのように評価の観点の趣旨に位置付けられていますか。

A：〔共通事項〕(1)事項アは、「思考・判断・表現」の観点の趣旨の中に位置付けられています。一方、〔共通事項〕(1)事項イは、知識に関する内容を示していますが、「知識」の観点の趣旨には直接位置付けられていません。

【参考】〔共通事項〕について

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を示しています。

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考えること。(思考力、判断力、表現力等に関する内容)

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。(知識に関する内容)

2 題材ごとの目標と評価規準を設定しよう

Q5：題材の評価規準は、どのようにして作成するのですか。

A：題材のねらい、教材の特徴、学習活動等を考慮して、その題材で扱う学習指導要領の内容（指導事項）を明確にし、内容のまとまりごとの評価規準を基に作成します。

【参考事例】 題材名 「曲のとくちょうをとらえて表現しよう」 第4学年

「A表現」(1) 歌唱 及び〔共通事項〕(1) / (2) 器楽 及び〔共通事項〕(1)

題材の目標

「とんび」、「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりし、日本のうたやリコーダーに親しむ。

表1 本題材で扱う学習指導要領の内容（指導事項）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。(歌唱) イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり(器楽) (イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり(器楽) ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。 (イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能(歌唱) ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。 (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能(器楽)	ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。(歌唱) ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。(器楽) 〔共通事項〕 ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。 (本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「フレーズ」、「反復」、「変化」)	※ 内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当学年の目標(3)を参考にします。 内容のまとまりごとの評価規準は、「題材で扱う学習指導要領の内容(指導事項)」を基に、 文末を「～している」 に変更して作成します。

表2 内容のまとまりごとの評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて 気付いている 。(歌唱) イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わりについて 気付いている 。(器楽) (イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて 気付いている 。(器楽) ウ(イ) 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を 身に付けている 。(歌唱) ウ(イ) 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を 身に付けている 。(器楽)	ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて 考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている 。(歌唱) ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて 考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている 。(器楽)	音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に 歌唱や器楽 の学習に取り組もうとしている。 「 主体的に学習に取り組む態度 」 必要に応じて、学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用い、「 表現及び鑑賞 」の部分は扱う領域や分野に応じて置き換え作成します。 「 思考力、判断力、表現力 」 〔共通事項〕アの文末を「～考え、」と変更し、その後には扱う領域や分野の事項アを組み合わせます。その際、事項アの前半部分、「～表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら」は設定しません。



表3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて 歌っている 。(歌唱) ②[知] 曲想と音楽の構造などとの関わりについて 気付いている 。(歌唱・器楽) ③[知技] リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて 演奏している 。(器楽)	① 旋律、フレーズ、反復、変化 を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて 考え 、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱) ② 旋律、フレーズ、反復、変化 を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて 考え 、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)	① 曲の特徴を捉えて表現する学習 に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・器楽)

【題材ごとの評価規準を作成する際のポイント】

(1) 知識・技能

<知識>文末を「～**している**」として作成します。
 ※ 文頭部分に曲名等を挿入することも考えられます。

<技能> 技能を身に付けて表現している状態を評価するため、文末を「**歌っている**」、「**演奏している**」、「**音楽をつくっている**」より選択して置き換えて作成します。

※ 事例のように題材の目標や学習内容に応じて事項の内容を設定しますが、評価場面や評価方法が同じである場合、題材の評価規準を一文で表記することも考えられます。(p61 Q8を参照)

	表2	表3
ウ(イ) 歌唱	→	①[技]
イ 歌唱、イ(イ) 器楽	→	②[知]
イ(イ) 器楽、ウ(イ) 器楽	→	③[知・技]

音楽

(2) 思考・判断・表現

【共通事項】アに関することについては、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2(8)に示した「ア 音楽を特徴付けている要素」や「イ 音楽の仕組み」からその題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して置き換えます。「解説 音楽編」(p.135)を参照

(3) 主体的に学習に取り組む態度

文頭部分には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、児童に興味・関心をもたせたい事柄を記載しますが、興味・関心をもっているかということのみを評価するものではないことに留意が必要です。

【参考】題材の評価規準の基本構造 (第1学年及び第2学年「A 表現・歌唱」の例)

※ 「○○」、「△△」及び波線部は、事項や「評価の観点の趣旨」の文言を題材で扱う内容に合わせて適切に選択するなどして置き換えたり挿入したりする部分です。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて 気付いている 。【知識】 ・思いに合った表現をするために必要な、【事項ウの(ア)、(イ)、(ウ)】(いずれかを選択)を身に付けて 歌っている 。【技能】	・○○、○○を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて 考え 、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて 思い をもっている。	・△△に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、興味・関心をもたせたい事柄を挿入します。

(音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など)から選択して置き換えます。

3 題材の指導と評価の計画を作成しよう

【参考事例】「題材名 曲のとくちょうをとらえて表現しよう」第4学年

指導と評価の計画（5時間）

※ 評価の観点の丸数字は全員の学習状況を記録に残す場面です。

次	時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価の観点		
			知・技	思	態
第一次	第1時	◎「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。 ○「とんび」の歌詞の表す表現や旋律の反復など曲の特徴を捉える。 ・範唱を聴いて感じたことを発表する。 ・歌詞を読んだり、とんびが空を舞う写真を見たりしながら、歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取る。 ・曲の特徴的なところをワークシートに書いて発表する。 ・歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌う。 ○「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。 ・第3フレーズ（9～12小節）の「ピンヨロー」の部分について、とんびが鳴きながら飛ぶ様子や、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。 ・第1時で学習した表現を生かして、全員で「とんび」を歌う。			
	第2時	○旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ・前時を振り返り、第3フレーズの「ピンヨロー」の部分について表現を工夫して歌う。 ・歌いながら、旋律の動きに合わせて手を動かす。 ・歌いながら第1、2、4フレーズの旋律の反復や、第3フレーズでの変化について気付いたことをワークシートに書く。 ○「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・第1、2、4フレーズと第3フレーズの動きの違いに着目して考えたり歌ったりする。 ○第1～2時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	②知 記述発言	①記述 発言聴取	
第二次	第3時	◎「エーデルワイス」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。 ○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。 ・旋律の特徴を捉えながら、リコーダーの範奏を聴く。 ・3拍子の拍のまとまりを捉えて体を動かしたり、楽譜を見ながら階名唱をしたりする。 ・範奏を聴いたり楽譜を見たりしながら、リコーダーで旋律を演奏する。 ○運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。 ・運指に気を付けて曲全体を演奏する。 ・音色や響きに気を付けて、適切な息の強さやタンギングで演奏する。			
	第4時	○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。 ・「とんび」での学習を振り返りながら、「エーデルワイス」の曲の特徴への気付きを深める。 ・第3フレーズ（17～24小節）について、曲想の変化を捉えて表現を工夫する。	②知 記述発言		
	第5時	○前時までの学習を基に、グループごとに、「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。 ・第2フレーズ（9～16小節）が再び現れるという反復など、音楽の仕組みを捉えて表現を工夫する。 ・旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて演奏する。 ○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。 ・工夫した点を紹介しながら発表する。 ・各グループの発表を聴き、工夫が表れていたところについて話し合ったり、その工夫を取り入れて全体で演奏したりする。	③知 技聴取 発言記述	②記述 発言聴取	①観察・ 記述 聴取

第2章
評価を
しよう

Q6：【参考】事例 指導と評価計画の「評価の観点」にある点線の矢印は、何を示していますか。

A：点線の矢印は、丸数字で評価を記録に残す場面が設定されていない授業においても、教師の指導改善や児童の学習改善に生かすために、児童の学習状況を適宜把握していくことが重要であることを示しています。

例えば、「思考・判断・表現」の評価を記録に残す場面は、第2時に丸数字で設定されていますが、第1時から、点線の矢印が示されています。このことから、第1時の授業においても、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている児童の学習状況を把握し、指導に生かす評価と関わらせながら評価規準に基づき、評価の結果を記録に残します。

Q7：題材の評価計画作成のポイントは何ですか。

A：評価項目の配置について各観点の関連を図るとともに、配当時間内におけるバランスを考慮し、1単位時間に対し平均して1～2の評価規準を設定し、効果的・効率的に評価できるようにします。

評価項目の配置について各観点の関連を図るとは、評価項目の配置について、前後の関連付けを工夫することです。例えば、【参考事例】では、①技は思①の後に、③知技は思②の後に置いています。これは、技能に関する事項ウ「思いや意図に合った表現をするために必要な技能」という位置付けに基づき、「思考力、判断力、表現力等」と関連付けられた技能を見取るためです。

Q8：評価規準を統合する（一体的に評価する）ことができる場合を教えてください。

A：題材で扱う指導事項の内容で、関連性があり評価場面や評価方法が同じ場合は、一体のものとして評価規準を設定することが考えられます。

例えば、「知識」の評価を統合する場合や、「知識」と「技能」、「技能」同士の評価を統合することが考えられます。

（補足1）「知識」の評価を統合する場合

「知識」の評価を統合する場合としては、対応する事項の内容が共通するもの同士が考えられます。（歌唱、器楽、鑑賞における「曲想と音楽の構造との関わり」など）。

例えば、【参考事例】のように、歌唱と器楽の学習において習得を目指す知識について、その題材の中で共通する内容として位置付けた場合、評価においても②知のように、一体のものとして評価規準を設定することが考えられます。

（補足2）「知識」と「技能」を統合する場合

「知識」と「技能」を統合する場合、A表現(2)器楽イ(1)とウ(1)のように関連性が高いもの同士に限られます。

【参考事例】では器楽の事項イ(1)及び事項ウ(1)について統合した評価規準として③知技を設定しています。

（補足3）「技能」同士の評価を統合する場合

「技能」同士の評価を統合する場合は、評価場面や評価方法を慎重に検討することが重要になります。なお、統合した形で一体的に評価を行った場合、どの内容について課題があったかを把握し、次の題材や学期の指導に生かすことができるようにすることが大切です。

※ すでに習得している技能を生かして活動する場合には、評価の対象としません。既習の技能をどのように生かすかや、その題材で新たに習得する必要がある技能は何かなどを明確にして題材計画に位置付ける必要があります。

4 授業を実施し、評価しよう

その1 それぞれの観点についての評価の進め方の例

【参考事例】「題材名 曲のとくちょうをとらえて表現しよう」第4学年

観点	評価規準	【評価場面】〈評価方法〉【見取りのポイントと改善のための働きかけ】
知識・技能	① 技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付け歌っている。(歌唱)	<p>【第2時】〈演奏（歌唱）の聴取〉</p> <p>【見取りのポイント】</p> <p>フレーズごとの呼吸に気を付け、「とんび」の歌詞の表しているとんびがゆったりと飛ぶ様子にふさわしい第1、2、4フレーズにおける旋律の抑揚や、とんびが鳴きながら飛んでいる様子を表している第3フレーズでの変化を捉えた表現などが、実際の演奏で表現されているかについて、グループごとに歌う場面をつくり、演奏の聴取から評価した。</p> <p>【改善のための働きかけ】</p> <p>必要に応じて、息の流れをイメージして手を動かして歌ったり、互いに歌声を聴き合って歌い方についてアドバイスし合ったりするなどの活動を取り入れた。</p>
	② 知 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(歌唱・器楽)	<p>「とんび」と「エーデルワイス」に関する知識の学習状況について一体的に評価した。(楽譜を記したワークシートに記述した内容、発言の内容)</p> <p>【見取りのポイント】</p> <p>第1、2、4フレーズの旋律の共通点や第3フレーズが他の部分と違っていることに気付き、それを感じ取ったことや想像したことと結び付けてワークシートに書いたり発言したりすることができているかについて評価した。</p> <p>【第2時】歌唱の活動において、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いているかについて、その学習状況の評価した。</p> <p>【改善のための働きかけ】</p> <p>必要に応じて、旋律の動きに合わせて手を動かしたり、階名で歌うなどしたりするよう働きかけた。また、第1時の学習を思い出して考えるよう促した。</p> <p>【第4時】器楽の活動において、「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造との関わりについて気付いているかについて、その学習状況の評価した。</p> <p>【改善のための働きかけ】</p> <p>必要に応じて適宜、第一次、第3時の学習を想起して考えるよう促した。</p> <p>「とんび」の歌唱と「エーデルワイス」の器楽における知識の習得状況について継続的に把握するようにし、第4時で記録に残すようにした。</p>
	③ 知技 リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)	<p>【第5時】「エーデルワイス」のリコーダー演奏に係る知識と技能として、リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏しているかについて、その学習状況の評価した。演奏の聴取を中心に行いながら、補助的に発言の内容や行動の観察、そしてワークシートに記述した内容を判断の参考として総合的に評価した。また、個人やペア、グループでの活動の際に、部分的にフレーズを取り出して聴取するなど、学習形態を工夫し、発言の内容や行動の観察を組み合わせながら、実態に合った方法で評価した。</p> <p>〈演奏の聴取、発言の内容、楽譜を記したワークシートに記述した内容〉</p> <p>リコーダーの演奏に関する知識と技能の習得状況について継続的に把握するようにし、第5時で記録に残すようにした。</p> <p>【改善のための働きかけ】</p> <p>学習状況に課題があった場合、知識と技能のどちらに要因があるかを、発言の内容や行動の観察、そしてワークシートに記述した内容等を補助的に用いて把握するようにし、学習状況を記録に残すだけでなく、適宜、学習の改善に生かすことができるよう指導の中で働きかけを行った。</p>

<p>思考・判断・表現</p>	<p>思① 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p>	<p>【第1時の後半から第2時】継続的に学習過程を見取るようにし、第2時で学習状況を記録に残すようにした。 〈楽譜を記したワークシートに記述した内容、発言の内容、演奏の聴取〉 【見取りのポイント】 「とんび」の第1、2、4フレーズの上下する旋律の動きが、とんびがゆったりと飛ぶ様子をイメージさせるなど、音楽のよさや面白さを生み出している音楽を形づくっている要素の働きに着目して考えたり、第3フレーズの「ピンヨロー」の部分では、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫し、とんびが鳴きながら近付いてきたり去っていったりする様子を表そうとするなど、表現したい思いや意図をもったりしているかを評価した。 【改善のための働きかけ】 必要に応じて適宜、第1時の前半で学習した歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を踏まえて、どのように歌うか、実際に歌い試しながら工夫するように助言するなどした。</p>
	<p>思② 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p>	<p>【第4時から第5時の前半】継続的に学習過程を見取るようにし、第5時で学習状況を記録に残すようにした。 〈楽譜を記したワークシートに記述した内容、発言の内容、演奏の聴取〉 【見取りのポイント】 「エーデルワイス」の第1、2、4フレーズの上下する旋律の動きが、山々や自然を前にした気分を感じさせるなど、音楽のよさや面白さを生み出している音楽を形づくっている要素の働きに着目して考えたり、第3フレーズでの旋律の変化などの特徴を捉えて表現を工夫し、他の部分よりはっきりしたタンギングで演奏しようとするなど、表現したい思いや意図をもったりしているかを評価した。 【改善のための働きかけ】 必要に応じて、「とんび」での学習で学んだことなどを思い出して、どのようなことに注意して工夫したらよいかを考えるよう働きかけた。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>態① 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・器楽)</p>	<p>【第1時から第5時】曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫したり、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けたりする学習に、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりしているかどうかについて、継続的に見取るようにし、第5時で記録に残すようにした。 〈行動観察、学習の振り返りの記述の内容、演奏の聴取〉 【見取りのポイント】 「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点における達成状況を踏まえながら、発言の内容に見られる学習内容への興味、友達の発言に対する反応、歌っているときの表情や体の動きの観察、歌声の聴取、グループにおいて表現の工夫に取り組んでいるときの様子や、リコーダーを演奏しているときの行動の観察から児童の学習状況を捉えるようにした。 【改善のための働きかけ】 必要に応じて適宜、粘り強く取り組むよう励ましたり、授業のねらいを確認し自分なりに考えたり、友達の表現の工夫の特徴やよさに気付かせ、様々な工夫を試させたりするなど指導改善につなげた。このように行動観察を中心に、継続的に学習状況を把握し学習改善や指導改善に生かすようにする一方で、学習状況を記録に残す場面については題材の最後にのみ設定し、学習の振り返りの記述の内容を加味して評価した。</p>

その2 観点別学習状況の評価の総括の考え方の例

【参考事例】では、「知識・技能」について、「知識」に関する②知、また「技能」に関する①技、「知識」と「技能」を組み合わせた③知技の合計三つの評価規準を設定し、「思考・判断・表現」については、思①と思②の二つの評価規準を設定しています。それらを総括する場合、次のような考え方があります。

- ア 同等に扱って総括する
- イ 重点を置いて総括する

総括の流れ		総括の考え方の例
評価規準	題材の観点別の評価	
ア 同等に扱って総括する	<p>「思考・判断・表現」</p>	<p>A と判断する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A が 1 個以上の場合 (ただし、もう 1 個が C でない) <p>C と判断する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両方とも C の場合 <p>B と判断する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記以外全て
<p>「思考・判断・表現」については、指導内容に即して、どちらの評価規準も同等に重要であると判断できるため、重点を置く評価規準をつくっていません。</p>		
イ 重点を置いて総括する	<p>「知識・技能」</p>	<p>A と判断する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A が 2 個以上の場合 (ただし、②知★又は③知技★のいずれかが C ではない) <p>C と判断する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ C が 2 個以上の場合 (ただし、②知★又は③知技★のいずれかが A ではない) <p>B と判断する場合・ 上記以外全て</p>
<p>①技は歌唱分野のみの評価ですが、②知★は歌唱及び器楽の両分野にわたって評価をしています。また、③知技★は知識と技能の両方の内容を対象としています。このことから②知★と③知技★は、重点を置いて（重み付けして）総括することも考えられます。</p>		

第2章
評価を
しよう

5 更に深めよう

Q9：音楽づくりの学習における指導計画を作成する際のポイントは何ですか。

A：音楽づくりの学習では、事項ア、イ、ウのそれぞれにおいて、(7)「音遊び」や「即興的に表現する」活動と(1)「音を音楽に構成する」活動の内容のまとまりを意識して指導を計画します。

実際の授業では、音遊びや即興的に表現する活動の中に、音楽の仕組みを用いて音を音楽に構成する活動が含まれていたり、音を音楽に構成する学習の中に、音遊びや即興的に表現しながら音楽づくりの発想を得る活動が含まれたりすることが考えられます。このような場合、取り扱う事項として、事項(7)と(1)の両方について設定することも考えられますが、育成を目指す資質・能力として、どちらの内容のまとまりにねらいを置くかを考え、いずれかに絞って指導と評価の計画をすることが必要になることもあります。

例えば、(7)の音楽づくりの発想を得ることを主な学習内容として構想し、音楽の仕組みを用いて音楽づくりをすることを条件として設定した場合、各事項の(1)の内容のまとまりについては、習得を目指す資質・能力としては位置付けず、評価規準も設定しないということが考えられます。

【参考】：第5学年及び第6学年「A表現」(3) 音楽づくりの内容

(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(7)及び(1)をできるようにすること。

(7) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。

(1) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(7)及び(1)について、それらが生み出すよさや面白さなど関わらせて理解すること。

(7) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴

(1) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴

ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(7)及び(1)の技能を身に付けること。

(7) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能

(1) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

(7) 「即興的に表現する」活動

(1) 「音を音楽に構成する」活動

Q10：音楽づくりの評価規準は、どのように作成しますか。

A：各観点の評価規準の作成の仕方は、基本的に pp.58-59 と同様です。その題材で扱う指導事項を明確にし、評価規準を作成します。その上で「知識・技能」、「思考・判断・表現」については、以下の留意事項を参考に作成してください。

(1) 知識・技能

<技能> 事項ウの前半部分「発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現」のうち、「発想を生かした表現」をするために必要な技能として、後半部分の(7)を、「思いや意図に合った表現」をするために必要な技能として後半部分の(1)を位置付けます。

(2) 思考・判断・表現

〔共通事項〕アの文末を「～を考え、」と変更し、その後に事項アの(7)、(1)のうち、いずれか適切なものを選択して挿入し、文末を「～している」に置き換えて作成します。

【参考】第5学年及び第6学年「A表現」(3) 音楽づくり 題材の評価規準例

例1(7) 即興的に表現する活動 事項ア(7)、イ(7)、ウ(7)、共通事項(1)で題材を構成している場合

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴(※1)について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解している。</p> <p>技 <u>発想を生かした表現</u>をするために必要な、<u>設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</u>を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>思 <u>音色、音の重なり、音楽の縦と横との関係</u>を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な構想を得ている。</p>	<p>態 <u>楽器の音の響きや組合せの面白さ</u>に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>
<p>技 (7)を選んだ場合の前半は、「<u>発想を生かした表現</u>」とします。</p>		

例2(1) 音を音楽に構成する活動 事項ア(1)、イ(1)、ウ(1)、共通事項(1)で題材を構成している場合

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴(※1)について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解している。</p> <p>技 <u>思いや意図に合った表現</u>をするために必要な、<u>音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能</u>を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>思 <u>リズム、反復、音楽の縦と横との関係</u>を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 <u>リズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さ</u>に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>
<p>技 (1)を選んだ場合の前半は「<u>思いや意図に合った表現</u>」とします。</p>		

※ 1 : 例1 **知** 「いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴」、例2 **知** 「音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴」は、「思考・判断・表現」の評価規準において位置付けた音楽を形づくっている要素との間わりについて十分考慮して指導と評価を行う必要があります。

例えば、この二つの例では、「思考・判断・表現」の評価規準で、音楽を形づくっている要素として「音色」、「リズム」、「音の重なり」、「反復」、「音楽の縦と横との関係」を選択して位置付けていますが、これらの音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考えることを、知識に関する学習における「特徴」を捉えることと関連付けて指導することが大切になってきます。

図画工作

1 まずは、ここを確認しよう

Q1：小学校図画工作科では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A：小学校図画工作科では、「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」の育成を目指しています。目標では、これらの資質・能力が、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されており、表現及び鑑賞の活動を通して、育成していくことが示されています。

【図画工作科の目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

- ・ 「造形的な見方・考え方」とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値を作り出すこと」であると考えられます。
- ・ (1)は、「知識及び技能」に関する目標であり、前半の「～理解するとともに、」までが「**知識**」、それ以降が「**技能**」に関することを示しています。
- ・ (2)は、「**思考力、判断力、表現力等**」に関する目標であり、主に「A表現」を通して育成する、「思考力、判断力、表現力等」と、「B鑑賞」を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」とで構成されています。
- ・ (3)は、「**学びに向かう力、人間性等**」に関する目標であり、興味や関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする資質・能力を示しています。

Q2：図画工作科の「内容のまとまり」とは、どのようなものですか。

A：「内容のまとまり」は、「造形遊びをする活動」、「絵や立体、工作に表す活動」、「鑑賞する活動」の三つで構成されています。また、「内容」は、以下のとおりとなっています。

	内容のまとまり	内容
全学年	造形遊びをする活動	「A表現」(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ
	絵や立体、工作に表す活動	「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ
	鑑賞する活動	「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

※ 「A表現」(1)は発想や構想に関する事項、「A表現」(2)は技能に関する事項を表します。

2 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成しよう

学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえ、「造形遊びに表す活動」、「絵や立体、工作に表す活動」、「鑑賞する活動」の三つの内容のまとめりについて、評価規準を作成します。

(「参考資料」pp.28-40 参照)

Q3 : 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際に大切なこと何ですか。

A : 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認することが大切です。

Q2 の「内容のまとめり」で示した「内容」と併せて確認すると、「A 表現」(1)は、「思考力、判断力、表現力等」に関する内容、「A 表現」(2)は、「技能」に関する内容、「共通事項」(1)アは「知識」に関する内容、(1)イは、「思考力、判断力、表現力等」に関する内容となります。

「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認した上で、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成していきます。

ここでは、事例を基に、【観点ごとのポイント】を踏まえ、作成の仕方を説明していきます。

事例 第3学年及び第4学年の「絵や立体、工作」

① 「知識・技能」のポイント

「知識」について

- ・ 「知識」は、「共通事項」(1)アから作成します。
- ・ 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」となります。

「技能」について

- ・ 「技能」は、「A表現」(2)イから作成します。
- ・ 文頭の「絵や立体、工作に表す活動を通して、」は、「内容のまとめり」を示すものなので削除します。
- ・ 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」となります。

【内容】

「知識」に関する内容

【共通事項】 (1)ア	自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。
----------------	------------------------------

「技能」に関する内容

A 表現 (2)イ	絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
--------------	---

【内容のまとめりごとの評価規準】

「知識・技能」

自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じ方などが分かっている。

材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。

② 「思考・判断・表現」のポイント

- ・ 「思考・判断・表現」の評価規準は、「A表現」(1)イ、〔共通事項〕(1)イから作成します。
- ・ 〔共通事項〕(1)イに続けて「A表現」(1)イを示し、「自分のイメージをもつ。」を「自分のイメージをもちながら、」とします。
- ・ 「A表現」(1)イの文頭の「絵や立体、工作に表す活動を通して、」は、「内容のまとめり」を示すものなので削除します。
- ・ A表現(1)イの「表したいことを見付けることや、」を「表したいことを見付け、」とします。
- ・ 文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している」とします。

「思考・判断・表現」に関する内容

A表現 (1)イ	絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。
〔共通事項〕 (1)イ	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

「思考・判断・表現」

形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したこと、見たことから。表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、当該学年の「評価の観点及び趣旨」を踏まえて作成します。
- ・ 表現の活動なので、「表現したり鑑賞したりする学習活動」を「表現する学習活動」とします。

主体的に学習に取り組む態度
・ <u>つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする学習活動</u> に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」

つくりだす喜びを味わい進んで表現する学習活動に取り組もうとしている。

参考（第3学年及び第4学年の評価の観点及びその趣旨）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かっている。 ・ 材料や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方など工夫して、創造的につくったり表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする学習活動</u>に取り組もうとしている。

（「改善等通知」別紙4 p17）

3 題材の目標と評価規準を作成しよう

「内容のまとめりごとの評価規準」を踏まえ、題材の目標と評価規準を作成します。

(1) 題材の目標作成のポイント

題材の目標は、まず、その題材で指導する事項を学習指導要領で確認します。学習指導要領の「学年の目標」「内容」や「解説 図画工作編」等を基に、指導することを確認します。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」は「内容」を参考にし、「学びに向かう力、人間性等」は学年の目標(3)を参考にします。なお、題材の目標の示し方は、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」などに分けて示す方法や、全体を一文にする方法が考えられます。

ここでは、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成しようで示した、第3学年及び第4学年の「絵や立体、工作」を例にして目標の設定について説明します。（「参考資料」pp.44-51 参照）

① 「知識及び技能」について

ア 「知識」について

「知識」は、〔共通事項〕のアの内容と関連します。目標を設定する際は、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)、「〔共通事項〕のアの指導」を参考にして、題材に即した具体的な目標を示すことが考えられます。

- ・ 内容の取扱い2(3)の中で当該学年に関連する項目〔共通事項〕（「解説」p.114 参照）
イ 第3学年及び第4学年においては、形の感じ、色の感じ、それらの組合わせによる感じ、色の明るさなどを捉えること。
- ・ 〔共通事項〕アにある、「自分の感覚や行為を通して」については、題材に即した具体的な目標を設定することも考えられます。

（目標例） 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じ方が分かる。

イ 「技能」について

「技能」は、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」を参考にして、題材に即した具体的な目標を示すことが考えられます。

- ・ 内容の取扱い2(6)より（「解説」pp. 117-118 参照）
材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりすること。
- イ 第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いること。

（目標例） 木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

② 「思考力、判断力、表現力等」について

「技能」と同様に、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」を参考にして、題材に即して具体的に示すことが考えられます。

- ・ 内容の取扱い2(6)より
イ 第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いること。

（目標例） 木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。

題材の終末で鑑賞の活動を設定しているので、鑑賞の活動における「思考、判断力、表現力等」の目標も「B 鑑賞」(1)アを参考にして、題材に即して示し(2)に加えます。

・「B 鑑賞」(1)アより

身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

（目標例） 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

「知識」と同様、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)〔共通事項〕のアの指導を参考にして、「何を基に、自分のイメージをもつのか」を確認し、題材に即した具体的な目標を示すことが考えられます。

- ・ 形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、明るさの感じなどを捉えること。
(目標例) 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。

③ 「学びに向かう力、人間性等」について

第3学年及び第4学年の目標(3)を参考に、題材に即して「表現する活動」、「鑑賞する活動」を具体的に示します。

- ・ 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

(目標例) 進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

【①～③のポイントに基づいて作成した題材の目標】

(例)【第3学年及び第4学年】題材名「のこぎりザクザク生まれる形」 題材の目標

- (1) 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組み合わせによる感じ方が分かる。
 - ・ 木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。**(知識及び技能)**
- (2) 木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見つけ、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - ・ 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
 - ・ 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。**(思考力、判断力、表現力等)**
- (3) 進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。**(学びに向かう力、人間性等)**

図画
工作

(2) 題材の評価規準作成のポイント

題材の評価規準の作成は、「内容のまとまりごとの評価規準」から作成する方法、「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえ、題材の目標から設定する方法、この二通りが考えられます。ここでは、上記の第3学年及び第4学年の「絵や立体、工作」の題材の目標を基に、「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえ、題材の目標から設定する方法を例として示します。

(1) 知識・技能

文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とします。

(2) 思考・判断・表現

- ・ 「思考・判断・表現」は、〔共通事項〕(1)イに続けて「A表現」(1)アまたは〔共通事項〕(1)イに続けて「鑑賞B」(1)アを示し「自分のイメージをもつ。」を「自分のイメージをもちながら、」とします。ただし、「～しながら、～しながら」と続く文章になる場合、自分のイメージをもちながら発想や構想をしたり、鑑賞したりするということを踏まえつつ、「自分のイメージをもち、」とすることも考えられます。
- ・ 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とします。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」は、「学びに向かう力、人間性等」から、観点別学習状況の評価をするものだけを示しましょう。具体的には、中学年、高学年の「形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う」は、個人内評価とするため削除します。「活動」を「学習活動」とします。

※ 文末は、学習の状況の評価することや児童の意志的な側面も評価することから「～しようとしている」とします。

【題材の評価規準作成のポイントを踏まえた評価規準】

(例) 【第3学年及び第4学年】 題材名 「のこぎりザクザク生まれる形」を題材とした場合の評価規準

- (1) 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かっている。
 - ・ 木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。(知識・技能)
- (2) 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。
 - ・ 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。(思考・判断・表現)
- (3) つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

4 学習状況の評価をしよう

指導と評価の実際について

事例 題材名 「のこぎりザクザク生まれる形」 内容のまとめり 第3学年及び 第4学年 絵や立体 工作「鑑賞」

○・・・題材の評価規準に照らして、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎・・・題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等				備考
		知 知識	技 技能	思 発想 構想	鑑賞 鑑賞	
1	・のこぎりの扱い方を 知り、木をいろいろな 長さや形に切る。 ・のこぎりを適切に扱 う。		○			・1、2時間目は記録に残す評価はしないが、「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。それを踏まえて5時間目に「技能」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。
2						
3	・切った木(木片)を 並べたり組み合わせたり しながら、表したい ことを見付け、どのよ うに表すかについて考 える。			○		・3時間目は記録に残す評価はしないが、「思考・判断・表現(発想や構想)」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。それを踏まえて4時間目に「思考・判断・表現(発想や構想)」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。
4				◎ 観察 対話 作品		
5	・さらに木を切って組 み合わせるなどしなが ら、表したいことに合 わせて表し方を工夫し て表す。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品			・5時間目は、「知識」、「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。 評価の場面の具体例として 次ページに取り上げます。
6	・自分たちの作品を見 て、感じ取ったり考え たりしたことを友人と話 し合いながら、自分の見 方や感じ方を広げる。			◎ 観察 対話 作品 カード	◎ 観察 対話 作品 カード	・6時間目は「思考・判断・表現(鑑賞)」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。

Q4：三観点を題材の中でバランスよく適切に評価するために大切なことは何ですか。

A：題材のまとまりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、具体的に評価を行う時間や評価方法等を考えておくことが大切です。

Q5：実際の授業では、どのように評価を進めていくことが求められますか。

A：実際の授業では、以下の手順で進めていくことが求められます。

- ① 授業を進めながら、観点別学習状況の評価を行い、それぞれの観点において、児童のつまづいている点を、把握します。
- ② ①で確認した児童を中心に、指導助言をします。
- ③ 児童の学習状況に応じて、学習改善や教師の指導改善につなげます。

指導に生かす評価

Q6：計画の後半に、記録に残す場面(◎)が多いのはなぜですか。

A：活動の後半部分で、児童が技能を働かせ工夫して表す姿につながることもあるためです。

例えば、1、2時間目に「技能」を働かせる活動場面がありますが、その段階では、のこぎりがうまく扱えず、なかなか思い通りに木を切ることができない児童がいます。そこで、材料や用具を適切に扱っているかを評価し、必要に応じて指導を行います。そのことによって、活動の後半部分では、児童が自分の思いで活動を進め、技能を働かせ工夫して表す姿につながることもあるため、「技能」については、5時間目に記録に残す評価を行う場面が計画されています。

Q7：図画工作科における評価をする際のポイント何ですか。

A：図画工作科では、特に、児童が製作途中で「つくり、つくりかえ、つくる」活動を行うという特性を踏まえ、途中の学習状況を的確に把握し、個に応じた指導を行うことが求められます。

例えば、児童が木を切ったり木片を組み合わせたりの一つの行為を通して、形や色などの感じに着目している様子を捉えることで、造形的な視点について、分かっているかを把握します。また、観察と加えて児童と対話することで、より一人一人の児童の学習状況を把握することができます。

このように、一人一人の表現が目の前で展開される図画工作科では、観察は重要な評価方法の一つとなります。また、活動は時間の経過とともに変化し、結果として残らないこともあります。だからこそ、一人一人の児童が何を感じ、考え、活動しているのか、多様な評価方法を用い、適切な場面を捉えて評価していく必要があります。このことは、造形遊びに限らず、他の造形活動や鑑賞活動においても同様に重要なことです。（「参考資料」pp.52-62 参照）

図画
工作

Q8：事例の5時間目における、実際の評価はどのように行いますか。

A：学習活動における児童の姿のうち、「知識・技能」について評価する場合の例です。

①評価規準

- ・ 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かっている。（知識）
- ・ 木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。（技能）

②児童Aの姿

- ・ 表したい感じになるように長細い木片の付け方や木片の組合せ方を工夫して表している。

③評価の実際

「知識」と「技能」の視点で、形や色などの感じに着目し、工夫して表している様子を、観察する、問いかける、作品を見るなどして児童の学習状況を把握し、記録に残します。例えば、1、2時間目に材料や用具の扱いに課題のあった児童が、この段階で技能を働かせて表したいものを工夫して表していたら技能面で「おおむね満足できる」状況として捉えることができます。

5 観点ごとに総括しよう

題材が終了したら、それまでの記録を基に、評価の総括します。以下の表はその例になります。

氏名	観点		記録に残す評価	総括	メモ
〇〇 〇〇	知 技	知識	B	A	
		技能	A		
	思	発想や構想	B	B	
		鑑賞	B		
	態		B	B	
△△ △△	知 技	知識	A	A	
		技能	A		
	思	発想や構想	A	A	
		鑑賞	B		
	態		A	A	
□□ □□	知 技	知識	B	B	
		技能	B		のこぎりに不安を感じていた→クランプで木を固定するように指導
	思	発想や構想	C	B	
		鑑賞	A		
	態		B	B	

□□ □□さんの場合
「思考・判断・表現(発想や構想)」C、
「思考・判断・表現(鑑賞)」Aであり、
総括としては「思考・判断・表現」はB
としています。 ※1参照

題材が終了したら、「知識・技能」は「知識」と「技能」を、「思考・判断・表現」は「思考・判断・表現(発想や構想)」と「思考・判断・表現(鑑賞)」を考え合わせて総括することになります。その際に、年間指導計画上の題材の位置付けを考慮する必要があります。

例えば、本題材の場合、「技能」は重点的に指導する題材であること、「思考・判断・表現」については、「思考・判断・表現(発想や構想)」を中心に評価したことから、総括においても、基本的にはこの視点を基に行っていきます。

また、〇〇さんは「知識」はB、「技能」はAであり、総括としては「知識・技能」はAとしています。△△さんは「思考・判断・表現(発想や構想)」A、「思考・判断・表現(鑑賞)」Bであり、総括としては「思考・判断・表現」はAとしています。しかし、総括においては、基本的な総括の方針を重視しながらも実際の児童の活動の内容に即して評価を行うことも大切になります。

※1 例 □□ □□ さんの場合

「思考・判断・表現(発想や構想)」はC、「思考・判断・表現(鑑賞)」はA となっていますが、鑑賞の際に友人の表現の発想や構想したことについて感じ取ったり、考えたことを基に自分の作品を見直したりしていました。また、どのように表すか自分なりに考えていたり、更に次はこんなことを表したいなど話したりする姿や作品カードへの記述が見られたので「思考・判断・表現」をBと総括しています。

本事例のように、評価する資質・能力の重点化をせずに、評価を行う場合もあります。その際には、記録に残す評価の回数に応じて評価するなど、あらかじめ明確な基準を決めておくことが大切です。

また、本事例の場合、今後実施する題材において、表したいことを見付ける場面で、友人の活動に目を向けるよう指導したり、鑑賞の場面で友人のよさや面白さを感じ取ることができたことなどを価値付けたり、発想や構想する学習に主体的に取り組もうとするように指導していくようにするといったように、評価したことをその後の指導に生かせるようにすることが大切です。

家庭

1 まずは、ここを確認しよう

Q1：小学校家庭科では、どのような資質・能力を育成しますか。

A：小学校家庭科で育成を目指す資質・能力は、「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」です。生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎として必要なものについて示されています。

今回の改訂では、小・中・高等学校を通じて育成を目指す資質・能力を三つの柱に沿って整理しているとともに、内容の系統性を明確にし、各内容の接続が見えるようにしています。小・中学校においては、「A 家族・家庭生活」、「B 衣食住の生活」、「C 消費生活・環境」の三つの内容としており、小・中学校5学年間で系統的に資質・能力を育成することが求められています。

【小学校家庭科の目標】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

Q2：家庭科の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：家庭科における「内容のまとめり」は、次のとおりです。

- 「A 家族・家庭生活」(1) 自分の成長と家族・家庭生活
- 「A 家族・家庭生活」(2) 家庭生活と仕事
- 「A 家族・家庭生活」(3) 家族や地域の人々との関わり
- 「A 家族・家庭生活」(4) 家族・家庭生活についての課題と実践
- 「B 衣食住の生活」(1) 食事の役割
- 「B 衣食住の生活」(2) 調理の基礎
- 「B 衣食住の生活」(3) 栄養を考えた食事
- 「B 衣食住の生活」(4) 衣服の着用と手入れ
- 「B 衣食住の生活」(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- 「B 衣食住の生活」(6) 快適な住まい方
- 「C 消費生活・環境」(1) 物や金銭の使い方と買物
- 「C 消費生活・環境」(2) 環境に配慮した生活

※ 家庭科においては、「内容のまとめりごとの評価規準」の作成手順が他教科と異なる部分があり、注意が必要なため、以下に示します。

○ 「内容のまとめりごとの評価規準」の作成手順

【学習指導要領 1内容】B衣食住の生活 (1) 食事の役割

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ア 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解すること。	イ 楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること。	※ 内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、教科の目標3を参考にする。



【「内容のまとめりごとの評価規準」の例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解している。	・楽しく食べるために日常の食事の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

家庭

【「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の、観点ごとのポイント】

- ① 「知識・技能」
 基本的には、指導事項アの文末を、「～を（～について）理解している」、「～を（～について）理解していると、適切にできる」として、評価規準を作成します。
 ※ 「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成します。
- ② 「思考・判断・表現」
 教科の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価します。基本的には、指導事項イの文末を教科の評価の観点及びその趣旨に基づき、「～について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成します。
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」
 基本的には、指導事項ア及びイと教科の目標、「改善等通知」の評価の観点及びその趣旨を踏まえて作成します。その際、対象とする指導内容は指導項目の名称を用いて示すこととします。具体的には、①粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面）、②自らの学習の調整（①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面）に加え、③実践しようとする態度を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり（①）、振り返って改善したり（②）して、生活を工夫し、実践しようとしている（③）」として、評価規準を作成します。

※ 「A 家族・家庭生活」の(1)、(4)は指導事項アのみで構成されており、(1)の評価の観点は「知識・技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」、(4)の評価の観点は、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」であることに留意します。

2 題材ごとの目標と評価規準を設定しよう

家庭科では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織して題材を構成し、教科目標の実現を目指しています。実際の指導に当たっては、履修学年を踏まえて、「題材の目標」及び「題材の評価規準」を作成した上で、「解説 家庭編」の記述を参考にすることで、「題材の評価規準」を学習活動に即して具体化することが必要となります。

題材は、内容AからCまでの各内容項目や指導事項の相互の関連を図り、学校・地域の実態、児童の興味・関心や学習経験を踏まえ、より身近な題材になるよう検討します。（Q3参照）

事例 題材名：おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁（第5学年）

題材の目標は、学習指導要領に示された教科の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定します。（Q3参照）

【1 題材の目標の例】

- (1) 食事の役割と食事の大切さ、我が国の伝統的な酒粕、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- (2) おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理手画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

題材の評価規準は、「内容のまとめりごとの評価規準（例）」から題材において指導する項目及び指導事項に係る部分を抜き出し、評価の観点ごとに整理・統合、具体化するなどして設定します。（Q4参照）

＜「内容のまとめりごとの評価規準（例）」から、関係する部分を抜き出したもの＞

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B(1)ア 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解している。		家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

<p>B(2)ア(ア) 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。</p> <p>B(2)ア(ウ) 材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解しているとともに、適切にできる。</p> <p>B(2)ア(オ) 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。</p>	<p>B(2)イ おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。</p>
--	--	---



整理・統合、具体化

【Ⅱ 題材の評価規準の例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。 ・調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ・我が国の伝統的な酒膳の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 	<p>おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。</p>

題材の評価規準を学習活動に即して具体化した評価規準は、「題材の評価規準」の基となっている「内容のまとめりごとの評価規準（例）」をQ5の手順に沿って学習活動に即して具体化し、授業で評価できるようにします。



<内容のまとめりごとの評価規準（例）を具体化した例> B衣食住の生活の(2)「調理の基礎」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ・調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に適したゆで方、いため方を理解しているとともに、適切にできる。 ・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに適切にできる。 ・だしのとり方 ・実の切り方 ・実の入れ方 ・みその扱い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。 ・おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について考え、工夫している。 ・おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。 ・おいしく食べるために調理計画や調理の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ・家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について工夫し、実践しようとしている。

「解説 家庭編」における記述等を参考に、学習活動に即して、具体的な評価規準を設定



家庭

【Ⅲ 題材の評価規準を学習活動に即して具体化した評価規準の例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B(1)	・食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。		・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
B(2)	・米飯の調理に必要な米や水の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ・みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ・我が国の伝統的な配膳の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ・米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解している。	・おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。 ・おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画について考え、工夫している。 ・おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。 ・おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。	・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について工夫し、実践しようとしている。

Q3 : 「I 題材の目標」は、どのように設定するのですか。

A : 題材の目標は、学習指導要領に示された教科の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定します。

【学習指導要領 各教科等の「第2各学年の目標及び内容」の学年ごとの「1 目標」】

	(1)	(2)	(3)
教科の目標	知識及び技能に関する目標	思考力、判断力、表現力等に関する目標	学びに向かう力、人間性等に関する目標

【学習指導要領 題材で指導する項目及び指導事項】

指導項目	(1)	(2)	(3)
B(1)	アの指導事項		
B(2)	ア (ア) (イ) (ロ) の指導事項	イの指導事項	

題材：おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁 (第5学年)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の目標	食事の役割と食事の大切さ、我が国の伝統的な配膳、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。	おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

○ 題材の設定について

家庭科は、学習指導要領の各項目に示される指導内容を、指導単位にまとめて組織して題材を構成することにより、教科目標の実現を目指しています。各項目及び各項目に示す指導事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、系統的及び総合的に学習が展開されるよう配慮する必要があります。各項目に配当する授業時数と履修学年については、児童や学校、地域の実態等に応じて、各学校において適切に定めましょう。

Q4：「Ⅱ 題材の評価規準」は、どのように設定するのですか。

A：題材の評価規準は、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」から題材において指導する項目及び指導事項に関係する部分を抜き出し、評価の観点ごとに整理・統合、具体化するなどして設定します。

pp.76-77の波線部は、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」と「題材の評価規準」の記載が異なる部分を示しています。「内容のまとまりごとの評価規準（例）」に記載されているが、「題材の評価規準」に記載されていない部分については、「参考資料」（p.44）事例1「B衣食住の生活」の「食生活」における（2）「調理の基礎」の2学年間を見通した題材配列と指導内容を参照しており、本題材で重点を置くものに留意して評価規準を設定しています。

Q5：「Ⅲ 題材の評価規準を学習活動に即して具体化した評価規準」とは、何ですか。

A：単位時間等における評価規準です。家庭科の授業において評価を行う際には、学習指導要領における各内容の各項目及び指導事項が2学年をまとめて示されていることから、「題材の評価規準」を学習活動に即して具体化する必要があります。これらを設定することにより、授業の目標に照らして児童の学習状況を把握することができます。

「題材の評価規準」の基となっている「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を、次のポイントに留意して具体化し、解説における記述等を参考に学習活動に即して、具体的な評価規準を設定しましょう。

【『内容のまとまりごとの評価規準（例）』を具体化した例』を作成する際の、観点ごとのポイント】

- 「知識・技能」
 - ・文末を、「～を（～について）理解している」、「～を（～について）理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成します。
 - ※ 「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成します。
- 「思考・判断・表現」
 - ・教科の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、各題材において、次に示す四つの評価規準を設定し、評価することが考えられます。ただし、これらの評価規準は、各題材の構成に応じて適切に位置付けることに留意する必要があります。
 - ① 日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力
→ 文末を「～について問題を見だして課題を設定している」
 - ② 課題解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を考える力
→ 文末を「～について（実践に向けた計画を）考え、工夫している」
 - ③ 課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力
→ 文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」
 - ④ 計画や実践について評価・改善する際に、考えたことを分かりやすく表現する力
→ 文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している」
- 「主体的に学習に取り組む態度」
 - ・各題材の学習過程において三つの側面から評価規準を設定し、評価することが考えられます。ただし、これらの評価規準は、各題材の構成に応じて適切に位置付けることに留意する必要があります。
 - ① 粘り強さ
→ 文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている」
 - ② 自らの学習の調整
→ 文末を「～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている」
 - ③ 実践しようとする態度
→ 文末を「～について工夫し、実践しようとしている」

3 指導と評価の計画を作成しよう

事例 題材名 おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁 (第5学年 10時間)

小 題 材	時 間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自 分 の 食 事 を 見 つ め よ う	1	<ul style="list-style-type: none"> ○食事の役割と日常の食事の大切さについて理解するとともに、米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解することができる。 ・日常の食事を振り返り、食事の役割について話し合う。 ・外国の食卓と日本の食卓の写真を比較し、米飯とみそ汁を日常的に食べている理由や米飯とみそ汁のよさについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。 ・学習カード *ペーパーテスト ②米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解している。 ・学習カード 		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見だし、おいしく食べるための課題を設定することができる。 ・DVDや家庭で調べてきたことをもとに、米飯とみそ汁の調理の仕方について、疑問に思ったことなどを発表する。 ・米飯(水加減が異なるもの)とみそ汁(だしの有無)を試食し、気付いたことを発表する。 ・おいしく食べるために、米飯とみそ汁の調理の仕方について追究する課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> おいしいごはんとみそ汁の作り方を探ろう </div>		<ul style="list-style-type: none"> ①おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見だしして課題を設定している。 ・行動観察 ・学習カード 	
	3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の伝統的な日常食である米飯の調理や配膳の仕方について理解し、適切に炊飯や配膳をすることができる。 ・グループで鍋を用いて炊飯し、米の変化を観察し、記録する。 ・みそ汁の絵カードとともに配膳し、試食する。 ・確認テストにより、米や水の分量、米飯の調理の仕方(炊飯の一連の手順)を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ③米飯の調理に必要な米や水の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ・学習カード ・行動観察 ④我が国の伝統的な配膳の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ・米飯とみそ汁の配膳の写真 		
	5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の伝統的な日常食であるみそ汁の調理について理解し、適切に調理することができる(ペア調理)。 ・大根、油揚げ、ねぎのみそ汁の味の切り方や入れ方について、実験を観察し、考えたことを発表する。 ・だしのとり方を示範により確認する。 ・ペアでみそ汁を調理する。 ・確認テストにより、みそ汁の調理の仕方を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 	<div style="border: 2px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 指導に生かす評価 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ①伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ・ポートフォリオ(例3) ・行動観察

p.78「Ⅲ 題材の評価規準を学習活動に即して具体化した評価規準」を、授業の適切な場位置付けて評価を行います。

指導に生かす評価

第2章 評価をしよう

おいしいごはんとみそ汁を作ろう

家族と食べるおいしいごはん	7	<p>○「家族と食べるおいしいごはんオリジナルみそ汁」の「オリジナルみそ汁（試し作り）」の調理計画を考え、工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルみそ汁の条件を確認し、材料の分量、実の取り合わせや切り方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>実の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ■加熱して柔らかくする必要があるもの（根菜類など） ■香りを大切にもの（ねぎ、三つ葉など） ■温めるだけでよいもの（豆腐、わかめなど） </div> <p>・調理台や加熱用調理器具の効率のよい使い方を確認し、各自が試し作りの調理計画を立てる。</p>	<p>※前時の行動観察や確認テストの結果を指導に生かす。</p>	<p>②おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画について考え、工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理計画・実践記録表【例2】 <p>③おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理計画・実践記録表【例2】 <p>※7、8、9時間目で適切な評価場面を設定する。</p>	
	8・9	<p>○オリジナルみそ汁の調理（試し作り）をすることができる（一人調理）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が調理計画に基づき、実習する（2人1組で実践交流し、相互評価する）。 ・気付いたことを実践記録表に記入する。 	<p>⑤みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・調理計画・実践記録表 	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>記録に残す評価</p> </div>	<p>②伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ ・調理計画・実践記録表 ・行動観察
	10	<p>○「家族と食べるおいしいごはんオリジナルみそ汁」の調理計画を考え、工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を振り返り、ペアで改善点を確認する。 ・家庭で米飯とオリジナルみそ汁を一人で調理することを想定し、できあがりの時間を考え、調理計画を立てる。 ・グループで交流し、調理計画を改善する。 		<p>④おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 <p>※7、8、9、10時間目で適切な評価場面を設定する。</p>	<p>③伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について工夫し、実践しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ ・調理計画・実践記録表 ・行動観察

※【例1】、【例2】、【例3】の具体例は、pp.82-83に記載。

Q6：指導と評価の計画作成のポイントは何ですか。

A：題材の評価規準を学習活動に即して具体化した評価規準を、授業の適切な場に位置付け、その時間のねらいや学習活動に照らして重点を置くとともに、細かすぎる評価とならないように意図して作成し、無理なく評価でき、その結果を次の指導に生かすことができるようにすることが大切です。

評価を行う場面や頻度の精選を踏まえるとともに、指導した結果としての資料を全ての児童から収集する場面（評価した結果を記録に残す場面）を設定することなども、効果的・効率的な評価のための工夫です。

- 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」について
 本事例では、5・6時間目と8・9時間目の二回、みそ汁の調理実習を行っています。
 一回目（5・6時間目）の基本のみそ汁は、ペアで調理を行い、みそ汁の調理の仕方について理解し、適切にできているかを評価する、「指導に生かす評価」をしています。ここでの評価は、「努力を要する」状況（C）と判断される児童への手立てを考えるための評価となります。
 二回目（8・9時間目）のオリジナルみそ汁は、一人で調理を行い、みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解し、適切にできているかを評価する、「記録に残す評価」となっています。

4 授業を実施し、評価しよう

Q7：観点別学習状況の評価は、どのように行ったらよいのですか。

A：評価規準に基づき、行動観察や学習活動内容、ノート、ワークシート（調理計画・実習記録表）、確認テスト、ペーパーテスト、作品、ポートフォリオ等を活用し、評価を行う場面に応じて評価方法を工夫して学習状況を見取っていきます。

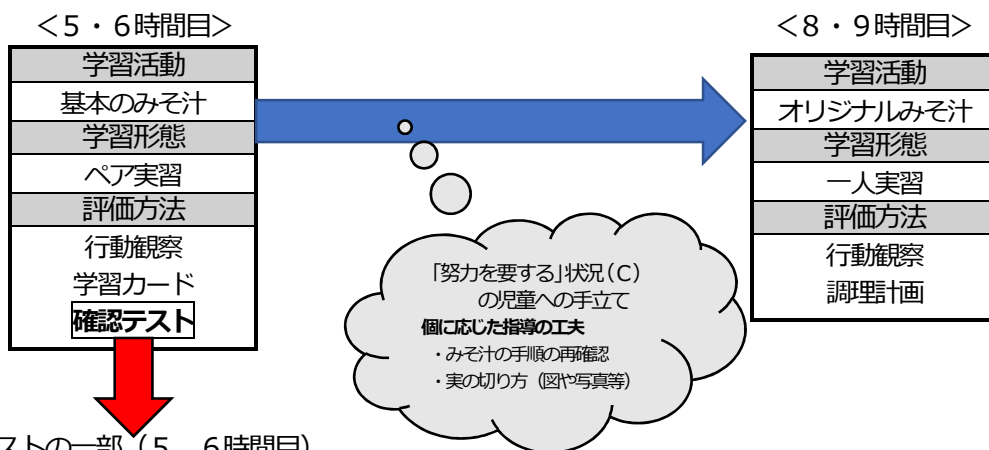
【観点別学習状況の評価の進め方の例】

事例 題材名 おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁（第5学年）

(1) 知識・技能

本題材では、米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることや、食事の役割と日常の食事の大切さ、米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解しているとともに、米飯とみそ汁の調理が適切にできているかなどについて評価します。

【評価規準⑤】みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解し、適切にできているか。



【例1】確認テストの一部（5、6時間目）

<p>問題 D子さんは、次のようにみそ汁を作りましたが、おいしくできあがらず、がっかりしています。どうしたらおいしくできるかについて、理由とともにD子さんに説明しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜実と切り方＞</p> <p>・ねぎ（厚さ2mmの小口切り） ・油あげ（はば1cmのたんざく切り） ・大根（厚さ5mmのいちょう切り）</p> <p>＜手順＞</p> <p>にぼしでだしをとった後、分量のみそをなべに入れて、さいばしで混ぜました。その後、ねぎ、油あげを入れて2分ほどにてから、大根を入れてさらに1分にて、火を止め、おわんにそそぎました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>D子さんへの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火が通りにくい大根、油あげの順に入れる。 ・実に火が通ったらみそを入れ、香りを損なわないように沸騰したら火を止める。 ・ねぎは最後に入れ、香りを損なわないようにする。 </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「十分満足できる」状況（A）</p> <p>＜「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の具体的な例＞</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>・・・みそを入れるときは、だし汁で溶かしてから、鍋に入れるといいよ。</p> </div> <p>実の入れ方やみその扱い方に加えて、みそを溶かして入れることについても具体的に記述していることから、Aと判断しています。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>「努力を要する」状況（C）の児童への手立て</p> <p>Cと判断される児童に対しては、7時間目の調理計画を立てる際に、みそ汁の調理の手順を再確認したり、実の切り方を図や写真を用いて提示したりするなど、個に応じた指導を工夫します。</p> </div>
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「おおむね満足できる」状況（B）</p> </div>	
<p>実の入れ方やみそ扱い方について、理由とともに改善策を記述しているため、Bと判断しています。みそ汁の調理に関する一連の調理操作だけでなく、なぜそのようにするのか、手順の根拠などを理解しているかを評価しています。</p>	

(2) 思考・判断・表現

本題材では、米飯及びみそ汁の調理における調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定しているか、様々な解決方法を考えているか、実践を評価・改善しているか、考えたことを表現しているかなど、課題を解決する力を身に付けているかについて評価します。

【例2】調理計画・実践記録表の一部

家族と食べるおいしいごはんオリジナルみそ汁を作ろう (調理計画・実践記録表)

わたしの 課題	○オリジナルみそ汁 ○ごはん	オリジナルみそ汁		ごはん	
		1人分	()人分	1人分	()人分
水		mL	mL	g	g
にぼし		g	g	mL	mL
みそ		g	g		
実1					
実2					
実3					

調理の手順 (オリジナルみそ汁)		ごはん
(試し作り)	(家庭実践)	
0分		
40分		

自己評価	友達から	家庭実践に向けて
★手順どおりに調理できた。(○)	★手順どおりに調理できた。(△)	★手順どおりに調理できた。(△)
<理由> 手順どおりにできただけ で、乾燥わかめの量が気 になった。	<理由> きぬさやの色が悪くなっ てしまったので、入れ方を 見直した方がいいよ。	<理由> 家庭実践では、じゃ がいもに早く火が通 るように、厚さ3ミリの 薄切りにします。
★材料の切り方はちょうどよかった。 (△)	★材料の切り方はちょうどよかった。 (△)	★材料の切り方はちょうどよかった。 (△)
<理由> じゃがいもに火が通るま で時間がかかった。	<理由> かたいじゃがいもがあっ たよ。	

【評価規準②】おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画について考え、工夫しているか。

「おおむね満足できる」状況 (B)
条件に合った実と分量を考えたり、でき上がり時間を想定して、調理台や加熱用調理器具の使い方を工夫したりしている場合をBと判断します。

「努力を要する」状況 (C) の児童への手立て
個に応じた指導の工夫
・実物見本で一人分の分量確認
・調理手順のシミュレーションで確認 など

【評価規準③】おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしているか。

「おおむね満足できる」状況 (B)
材料や分量、切り方などの調理方法、調理の手順について、適切に自己評価するとともに、家庭実践に向けて、具体的な改善策を記述していることから、Bと判断しています。

「十分満足できる」状況 (A)

<「十分満足できる」状況 (A) と判断した児童の具体的な例>

・・・じゃがいもに火が早く・・・きぬさやは、最後に入れます。乾燥わかめが給水するとどのくらい増えるのかを調べ、家族の好みを聞いて量を決めます。

自己評価だけでなく相互評価や家族の好みを踏まえて、材料の分量や切り方などの調理方法、調理の手順について具体的な改善策を記述していることから、Aと判断しています。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

本題材では、伝統的な日常食である米飯とみそ汁の調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けたり、調理計画を考え、工夫したりする際に粘り強く取り組んでいるか、調理に関する学習の進め方について振り返るなど、自らの学習を調整しようとしているかについて評価します。さらに、健康の視点から食事の役割を捉え、日常の食事を大切にしようとしているか、日本の伝統的な食文化の大切さに気付き、家庭でも実践しようとしているかなどについても評価します。

家庭

【評価規準①】粘り強さ

【例3】ポートフォリオ (学びの足あと) の一部 (3、4時間目)

学習した日	学んだことができるようになったこと	自己評価 (◎○△)		次の学習に向けてがんばること
		◎や△の理由		
◆月 ○日	おいしいごはんをたくためには、水加減や火加減の調節が大切。米と水の量の関係が分かったし、計量が一人でできるようになった。	自己評価 理由 米飯の調理では、火加減の調節がうまくいかず、こけてしまったから。	△	なべでごはんをたく時の火加減の調節の仕方をもう一度DVDで調べ、強火、中火、弱火の炎の大きさを確認しようと思います。

「おおむね満足できる」状況 (B)
米飯の硬さや焦げ付きの有無などについて確かめ、米飯をよりおいしく作るために、DVDを視聴したり、家族や友達に確認したりするなどして、自分なりに解決しようとしていることから、Bと判断しています。

・基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けようとする粘り強く追究する場面
・評価規準①(粘り強さ)と②(自己調整)の学びの姿は、相互に関わり合いながら立ち現れる

「十分満足できる」状況 (A)

<「十分満足できる」状況 (A) と判断した児童の具体的な例>

家族にも自分がたいごはんを食べてもらうために、家族の好みのたき方を聞いて、その火加減を調べたい。

家族がおいしく食べるために、家族の好みを踏まえ、米飯の調理の仕方を粘り強く追究しようとしていることから、Aと判断しています。

「努力を要する」状況 (C) の児童への手立て

Cと判断される児童に対しては、米飯をおいしく作るために、うまくいかなかった原因を一緒に考えたり、家族や友達の話を参考にしたりするよう促します。

【評価規準②】自らの学習の調整

ポートフォリオや調理計画・実践記録表（自己評価）の記述内容及び行動観察から評価します。本事例では、確認テストの結果を振り返ったり、調理計画について適切に自己評価したりして、次の学習に向けて取り組もうとしている場合を、Bと判断します。評価規準①と②の学びの姿は、相互に関わり合いながら立ち現れることに留意する必要があります。

【評価規準③】実践しようとする態度

ポートフォリオや調理計画・実践記録表の記述内容及び行動観察から評価します。本事例では、学習前と学習後の自分を比較し、米飯とみそ汁をおいしく調理できるようになったことを実感し、家庭で実践しようとしている場合や、日本の伝統的な食文化への気付きが深まっている場合をBと判断します。

Q8：観点別評価の総括は、どのように行ったらよいのですか。

A：集めた評価資料やそれに基づく評価結果などを補助簿等にまとめ、観点ごとの総括的评价（A、B、C）を行います。A、B、Cの数を基に総括する場合や、数値に置き換えて総括する場合など、様々な考え方や方法があるため、各学校で共通理解の上、工夫して行うことが必要です。

【本題材における観点別評価の総括の例（A、B、Cを数値に置き換えて総括した場合）】

(1) 題材の「学習活動における評価規準」に基づいて、行動観察や学習活動内容、調理計画・実習記録表、確認テスト、ペーパーテスト等により、A、B、Cで観点別の評価を行います。

＜補助簿の例＞

題材の 評価 規 準	知識・技能					観点 ごとの 総括	思考・判断・表現					観点 ごとの 総括	主体的に 学習に取り組む態度			観点 ごとの 総括	
	①	②	③	④	⑤		①	②	③	④	①		②	③			
学習活動 における 評価規準	①	②	③	④	⑤	観点 ごとの 総括	①	②	③	④	観点 ごとの 総括	①	②	③	観点 ごとの 総括	題材の 総 括	
指導項目	B(1) ア	B(2) ア(ホ)	B(2) ア(フ)	B(2) ア(ヘ)	B(2) ア(コ)	観点 ごとの 総括					観点 ごとの 総括				観点 ごとの 総括		
日付 氏名																	
Z	B	B	A	A	A	A	A	A	A	B	A	B	B	A	B		A
X	A	B	B	B	B	B	B	A	B	A	B	B	B	B	B		B
Y	C	C	B	B	C	C	C	B	C	C	C	B	C	B	B	C	

(2) 「観点ごとの総括」については、(1)で行ったA、B、Cを3、2、1で数値化し、評価の各観点の合計点について満点の85%以上であればA、84~50%であればB、それ未満であればCとする考え方に立って総括をします。

＜例：Z児の場合＞

	各観点の合計点	観点ごとの総括
知識・技能	BBAAA 13点	A (87%) (13/15点)
思考・判断・表現	AAAB 11点	A (92%) (11/12点)
主体的に学習に取り組む態度	BBA 7点	B (78%) (7/9点)

(3) 「題材の総括」については、(2)で行った「観点ごとの総括」のA、B、Cを3、2、1で数値化し、3観点の合計点について、満点の85%以上であればA、84~50%であればB、それ未満であればCという考え方に立って総括をします。

＜例：Z児の場合＞

	観点ごとの総括	題材の総括
知識・技能	A 3点	A (89%) (8/9点)
思考・判断・表現	A 3点	
主体的に学習に取り組む態度	B 2点	

体 育

1 まずは、ここを確認しよう

Q1：体育科では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A：小学校体育科では、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成を目指します。(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」が相互に密接な関連をもちつつ、目指す資質・能力を育成することが大切です。

【小学校体育科の目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

Q2：体育科の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：二つの学年を一つの単位として、運動領域については「A～F」、保健領域については「G」を「内容のまとめり」とします。

〔第1学年及び第2学年〕	〔第3学年及び第4学年〕	〔第5学年及び第6学年〕
A 体づくりの運動遊び	A 体づくり運動	A 体づくり運動
B 器械・器具を使つての運動遊び	B 器械運動	B 器械運動
C 走・跳の運動遊び	C 走・跳の運動	C 陸上運動
D 水遊び	D 水泳運動	D 水泳運動
E ゲーム	E ゲーム	E ボール運動
F 表現リズム遊び	F 表現運動	F 表現運動
	G 保健(1)健康な生活	G 保健(1)心の健康
	G 保健(2)体の発育・発達	G 保健(2)けがの防止
		G 保健(3)病気の予防

保健領域では、「内容のまとめり」をそのまま「単元」として捉える場合と、「内容のまとめり」をいくつかの「単元」に分けて単元設定する場合があります。

2 単元ごとの目標と評価規準を設定しよう〔運動領域〕

事例 単元名<高跳び（第4学年）>

単元の目標

- | |
|--|
| <p>(1) 高跳びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けることができるようにする。</p> <p>(2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 高跳びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。</p> |
|--|

学習指導要領の「2 内容」〔第3学年及び第4学年 C 走・跳の運動〕

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。</p> <p>ア かけっこ・リレーでは、調子よく走ったりバトンの受渡しをしたりすること。</p> <p>イ 小型ハードル走では、小型ハードルを調子よく走り越えること。</p> <p>ウ 幅跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと。</p> <p>エ 高跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと。</p>	<p>(2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。</p>	<p>(3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。</p>

第3学年及び第4学年の「C 走・跳の運動」には、「ア かけっこ・リレー」、「イ 小型ハードル走」、「ウ 幅跳び」、「エ 高跳び」の四つの単元があるため、内容のまとまりごとの評価規準の「知識・技能」にはア～エすべてが示すこととなります。

「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、より具体的な評価規準を「単元の評価規準」として作成します。

内容のまとまりごとの評価規準〔第3学年及び第4学年 C 走・跳の運動〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を知っていると<u>ともに、その動きを身に付けている。</u></p> <p>・高跳びでは、短い助走から踏み切って<u>跳んでいる。</u></p> <p>※ア、イ、ウに関する内容は省略</p>	<p>自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫していると<u>ともに、考えたことを友達に伝えている。</u></p>	<p>運動に進んで<u>取り組もうとし、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、場や用具の安全に気を付けていたりしている。</u></p>

単元の評価規準〔第4学年 高跳び〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①高跳びの行い方について、言ったり書いたり<u>している。</u></p> <p>②踏み切り足を決めて跳ぶことが<u>できる。</u></p> <p>③3～5歩の助走から強く踏み切って上方に高く跳ぶことが<u>できる。</u></p> <p>④膝を柔らかく曲げ、足から着地することが<u>できる。</u></p>	<p>①助走のリズムや踏み切りなど、自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。</p> <p>②友達との競争の仕方を考えたり、競争の規則や記録への挑戦の仕方を選んだりしている。</p> <p>③友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に<u>伝えている。</u></p>	<p>①高跳びに進んで<u>取り組もうとしている。</u></p> <p>②きまりを守り、誰とでも仲よく<u>励まし合おうとしている。</u></p> <p>③用具の準備や片付けを友達と一緒に<u>しようとしている。</u></p> <p>④友達の考えを<u>認めようとしている。</u></p> <p>⑤場や用具の安全を<u>確かめている。</u></p>

Q3：単元の目標はどのように作成するのですか。

A：単元の目標は、学習指導要領本文を参考に設定することができ、文末を「～することができるようにする」と表記し、作成します。

学習指導要領本文に示された内容は、各領域において育成を目指す資質・能力であるため、学習指導要領の趣旨等に基づく指導上の目標と捉えることができます。

Q4：「内容のまとめりごとの評価規準」は、どのように作成するのですか。

A：学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえ、各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認し、資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に該当する部分を「～している」、「～しようとしている」などと文末表現を変えて評価規準を作成します。

第4学年 高跳び 「思考・判断・表現」の作成例

(2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。

「表現」に該当する部分

「思考・判断」に該当する部分

自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。

Q5：「単元の評価規準」は、どのように作成するのですか。

A：単元の評価規準は、児童の実態を考慮しつつ、「内容のまとめりごとの評価規準」を踏まえて作成します。その際、学習指導要領解説の【例示】に記載された内容を参考にしながら、文末を変えることで評価規準を作成します。その際、「主体的に学習に取り組む態度」については、下記のⅠ～Ⅴに該当する内容に分けて作成することに留意が必要です。

Ⅰ：愛好的態度 Ⅱ：公正・協力 Ⅲ：責任・参画 Ⅳ：共生 Ⅴ：健康・安全

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 知識 「～している」	○ 思考・判断 「～している」	○ 安全に関する内容 「～している」
○ 技能 「～できる」	○ 表現 「～している」	○ 安全以外に関する内容 「～しようとしている」

「主体的に学習に取り組む態度」の例（第4学年 高跳び）

- | | |
|--------------------------------------|-----------|
| ① 高跳びに <u>進んで取り組もう</u> としている。 | ⇒ Ⅰ：愛好的態度 |
| ② <u>きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おう</u> としている。 | ⇒ Ⅱ：公正・協力 |
| ③ <u>用具の準備や片付けを友達と一緒に</u> しようとしている。 | ⇒ Ⅲ：責任・参画 |
| ④ <u>友達の考えを認めよう</u> としている。 | ⇒ Ⅳ：共生 |
| ⑤ <u>場や用具の安全を確かめ</u> ている。 | ⇒ Ⅴ：健康・安全 |

3 単元ごとの目標と評価規準を設定しよう〔保健領域〕

事例 単元名<心の健康 (第5学年)>

単元の目標

- (1) 心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処について、理解することができるようにするとともに、不安や悩みへの対処についての技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- (3) 心の健康について、健康や安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。

学習指導要領の「2 内容」〔第5学年 G 保健(1)心の健康〕

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。 (ア) 心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達すること。 (イ) 心と体には、密接な関係があること。 (ウ) 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。	イ 心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。	※ 内容には、学びに向かう力人間性等について示されていないことから、該当学年の目標(3)を参考にする。

内容のまとめりごとの評価規準〔第5学年 G 保健(1)心の健康〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達することを <u>理解している。</u> ・心と体には、密接な関係があることを <u>理解している。</u> ・不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があることを <u>理解している</u> とともに、 <u>技能を身に付けている。</u>	・心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを <u>表現している。</u>	・健康・安全の大切さに気付き、心の健康についての学習に進んで <u>取り組もうとしている。</u>
「内容のまとめりごとの評価規準」を基に、より具体的な評価規準を「単元の評価規準」として作成します。		

単元の評価規準〔第5学年 心の健康〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①心は、様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することについて、 <u>理解したことを言ったり書いたりしている。</u> ②心と体は、深く影響し合っていることについて、 <u>理解したことを言ったり書いたりしている。</u> ③不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて、 <u>理解したことを言ったり書いたりしている。</u> ④不安や悩みの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などについて、 <u>理解したことを言ったり書いたりしているとともに、それらの対処ができる。</u>	①心の発達に関する事柄から、心の健康に関わる課題を見付けている。 ②不安や悩みへの対処について、自分の経験と学習したことを関連付けて考えたり、選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由をあげて学習カードに書いたり、友達に <u>伝えたりしている。</u>	①心の健康について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や、教科書や資料を調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの <u>学習に進んで取り組もうとしている。</u>

Q6：運動領域と異なる部分はどのようなところですか。

A：保健領域においては、学習指導要領に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないため、「内容のまとまりごとの評価規準」の作成方法（Q8を参照）が異なるところです。

また、単元によっては、目指す資質・能力が「知識」と「知識及び技能」の場合があるため、単元の評価規準の作成の仕方（Q9を参照）に留意が必要です。

Q7：保健領域の単元の目標はどのように作成するのですか。

A：保健領域においては、単元の目標(1)が、「知識」である場合と、「知識及び技能」である場合があります。

その際、知識に該当する部分については、文末を「～理解することができるようにする」と作成し、技能に該当する部分については、「～技能を身に付けることができるようにする」と作成します。

Q8：保健領域の「内容のまとまりごとの評価規準」は、どのように作成するのですか。

A：保健領域においては、学習指導要領に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないため、該当学年の目標(3)を参考にして作成します。

その際、「主体的に学習に取り組む態度」については「～に進んで取り組む態度を養う」と示している部分を踏まえ、「～の学習に進んで取り組もうとしている」として作成します。

第5学年 G 保健(1)心の健康 「主体的に学習に取り組む態度」作成例

〔第5学年及び第6学年の目標〕

(3) 各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。



・ 健康・安全の大切さに気付き、心の健康についての学習に進んで取り組もうとしている。

Q9：保健領域の「単元の評価規準」は、どのように作成するのですか。

A：単元の評価規準は、児童の実態を考慮しつつ、「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえて作成します。

「知識・技能」、「思考・判断・表現」については、学習指導要領解説の内容を、「主体的に学習に取り組む態度」については「改善等通知」の「観点の趣旨」を踏まえ、文末を変えることで評価規準を作成します。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 知識	「～について、理解したことを言ったり書いたりしている」	○「～している」	○「～しようとしている」
○ 技能	「～について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、(～が) できる」		

- ・ 保健の技能は、その行い方（対処の仕方）についての知識の習得と併せて指導することが大切です。
- ・ 「思考・判断・表現」については、学習指導要領解説の【例示】を参考にしながら、実際の学習活動に合わせ、文末を変えることで評価規準を作成します。

4 単元の指導と評価の計画を作成しよう【運動領域】

事例 単元名<高跳び（第4学年）> （6時間）

時間	1	2	3	4	5	6
学習過程	1. 集合、整列、挨拶、健康観察 2. 準備運動（リズムスキップ、8の字ゴム跳びなど）					
	3. 単元の学習内容の確認	3. 感覚づくりの運動（目標物へのタッチ、ミニハードル連続ジャンプ、ケンパー跳び）				
	4. 本時のねらいの確認 ・学習過程と1時間の流れ ・準備や片付けの仕方 ・学習カードの記入の仕方	4. 本時のねらいの確認 ・安全な着地（膝の曲げ）	4. 本時のねらいの確認 ・跳びやすいまうの足を見付ける ・3歩での助走の仕方（スタート足の確認）	4. 本時のねらいの確認 ・3歩助走からの跳躍 ・リズムのよい（ピッチが上がる）助走→口伴奏「レッ・ツ・ゴー！」のリズム	4. 本時のねらいの確認 ・前時までの確認→自己の課題を確認し、解決に適した場を選ぶ ・5歩助走の仕方	4. 本時のねらいの確認 ・前時までの確認→自己の課題を見付け、それに適した練習を選ぶ
	5. 感覚づくりの運動それぞれの運動のポイントを一つずつ確認	5. いろいろな場で競争をしながら高く跳ぶ ・グループでの競争 ・段ボール跳び ・ゴム跳び	5. 自分の動きを確認しながら競争をする ・グループでの競争	5. ICTを使って自分の課題を見付け、解決のための場を選ぶ ・3歩助走コース ・5歩助走コース ・踏切り板コース	5. ICTを使って自分の課題を見付け、解決のための場を選ぶ ・3歩助走コース ・5歩助走コース ・踏切り板コース	5. 互いの動きを見合い、アドバイスをし合って跳ぶ
	6. 試しの運動・記録測定	6. 本時のまとめ（学習カードの記入、振り返り、成果及び次時の課題の確認）				6. 記録会&クラスチャレンジ
	7. 本時のまとめ（学習カードの記入、振り返り、次時の学習の確認）	7. 本時のまとめ（学習カードの記入、振り返り、成果の確認）				
	8. 整理運動、片付け、挨拶	7. 整理整頓、片付け、挨拶				8. 整理運動、片付け、挨拶
	評価の重点	知	④（観察）	②（カード）	③（観察・ICT）	①（カード）
思		①（カード）		③（観察）		②（カード）
態		③⑤（観察）	①（観察）		④（観察）	②（観察）

様々な評価方法の中で、何を見取るかによって方法が異なります。1時間に2つの評価項目がある場合には、同一の評価方法にならないよう工夫します。

→「知識・技能」の主な評価場面

Q10：単元の指導と評価の計画作成のポイントは何ですか？

A：単元計画を作成する上で、「いつ」、「どの場面で」、「何を」、「どのように」見取るのかを考え計画を立てます。1時間につき、1～2程度の評価の観点にするなど、評価をするに当たり、無理のない計画を立てることが大切です。また、複数の評価の観点を同一時間に設定する場合、観察や学習カードの利用など、複数の方法で評価を行うなどの工夫をする必要があります。

評価のための指導に陥ることのないよう留意することが大切です。評価が先になるのではなく、まず指導があって、児童の学習の過程や結果の状況と評価規準とを重ね合わせながら、適切に評価することが大切です。

Q11：「評価の重点」にある①～⑤の数字は何を示していますか？

A：「単元の評価規準」と関連付けて示しています。

例えば、評価の重点の「思」にある①（カード）は、「単元の評価規準」にある「思考・判断・表現」の①について、学習カードを活用して評価することを示しています。

評価方法の例としては、授業時の観察、学習カードの活用、ICT機器の活用などが考えられます。また、相互評価（見せ合いの後の発表等）、聞き取りなども考えられます。

Q12：評価の重点とはどのようなことですか？

A：毎時間の指導においては、単元の目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき、目標を設定しますが、全ての児童に対して、全てのことを指導し評価することは現実的ではありません。評価の重点とは、三つの柱に留意しながらも、本時において重点的に指導する内容を絞り、設定した評価方法に基づき適切に評価するということです。

技能や主体的に学習に取り組む態度は、習得や活用の状況を踏まえ一定期間置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられ、内容と本時の評価の観点が必ずしも一致するものではないことに留意する必要があります。

Q13：評価の重点における空欄の部分は、評価をしなくてもよいのですか？

A：指導と評価の一体化の観点から、全ての児童を対象とした記録に残す評価は行わなくても、児童の個々の学びの姿を随時評価し、指導の改善に生かす必要があります。

単元の前半に評価の機会を設定した項目において、BまたはCであったものを、単元の終盤までにAまたはBになるよう指導の充実を図ることが重要であり、単元の前半に評価したことをもって、その観点の評価を確定することには留意が必要です。

また、単元の配当時間に比較的ゆとりのある場合や、予め設定する評価項目が少ない場合等においては、指導と評価の計画で評価機会の設定のない時間が生じることが考えられます。その際、必要に応じて個別の評価については実施することが考えられるため、評価をしない時間と捉えることではありません。

5 単元の指導と評価の計画を作成しよう【保健領域】

事例 単元名<心の健康 (第5学年)> (4時間)

時間	ねらい	学習活動	知	思	態
1	<p>心は、様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することについて、理解することができるようにするとともに、心の発達に関する事柄から、心の健康に関わる課題を見付けることができるようにする。</p> <p>・「知識」に該当する部分 ・知識の習得状況等を見取る</p>	<ol style="list-style-type: none"> 心の発達について、幼い頃と現在の違いについて考える。 体の成長に栄養が必要なように、心の成長に必要なものは何か話し合う。 心は、様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することを理解する。 よりよく心を発達させる適切な方法について、自分の生活に関連付けて学習カードに記入する。 	①	①	
2	<p>心と体は、深く影響し合っていることについて、理解することができるようにする。</p> <p>・「思考・判断・表現」に該当する部分 ・実習を通して理解したことができているかを見取る</p>	<ol style="list-style-type: none"> 心と体がつながっていると感じたことについて考える。 各自の体験を基に心から体、体から心への影響に分類する。 心と体は密接に関係していることを理解する。 本時の学習を振り返り、今後の生活に生かせることを学習カードに記入する。 		②	
3	<p>不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて、理解することができるようにするとともに、自分の経験と学習したことを関連付けて考えたり、選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由をあげて学習カードに書いたり、友達に伝えたりすることができるようにする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 事前アンケートから、不安や悩みは多くの人が経験していることを知る。 不安や悩みがあるときの対処について、ブレインストーミングを行う。 出された意見を分類し、まとめる。 不安や悩みへの対処は様々であり、自分に合った適切な方法で対処できることを理解する。 今の自分に合った対処を選んで、その理由とともに学習カードに記入する。 	③	②	
4	<p>不安や悩みの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などについて、理解することができるようにするとともに、それらの対処ができるようにする。</p> <p>・「技能」に該当する部分 ・実習を通して理解したことができているかを見取る</p>	<ol style="list-style-type: none"> ある事例を基に「おすすめ対処法」を考え、班で伝え合い、全体で共有する。 体ほぐしの運動や深呼吸などは、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど不安や悩みへの対処になることを理解する。 「おすすめ対処法」の一つである簡単な対処(深呼吸・ストレッチ)を行う。 不安や悩みの対処について学んだことを振り返り、「深呼吸・ストレッチ」という言葉を使って学習カードに記入する。 	④		①

評価方法については、「観察」や「学習カード」で状況を捉えることが中心になりますが、「知識・技能」、「思考・判断・表現」については、各授業後や単元終了後に学習カードやノートの記載等からも評価することで評価の信頼性を高めることができます。

Q14 : 運動領域と異なる部分は、どのようなところですか。

A : 計画表の中で、「主体的に学習に取り組む態度」の時間の区切りが破線で示されている点 (Q15を参照) や、「主体的に学習に取り組む態度」の考え方の違い (Q16を参照) などが異なります。

Q15 : 計画表の中で「主体的に学習に取り組む態度」が破線で区切られているのはなぜですか。

A : 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、育成に時間がかかる点に留意し、単元を通して判断していくことが大切です。したがって、1時間ごとの画一的な評価ではなく、単元全体で評価をしていくため「破線」で示されています。

4時間扱いの単元において、第4時を単元の評価として設定した場合、第4時の評価を単元全体の総括的な評価とします。したがって、第1時から第4時の単元を通して評価の充実を図っていく必要があります。その際、「努力を要する」状況にある児童の支援を優先するなどの工夫が考えられます。

Q16 : 保健領域の「主体的に学習に取り組む態度」の考え方は、どのようなことですか。

A : 学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価することになります。その際、知識を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた「粘り強い取組を行おうとする側面」と、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりすることを通し「自らの学習を調整しようとしている側面」の、二つの側面を評価することが大切です。

「粘り強い取組を行おうとする側面」、「自らの学習を調整しようとしている側面」については、相互に関わり合って現れるものと考えられ、双方の側面を一体的に見取ることも想定されます。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行うための工夫 (例)

- ・ 学習に進んで取り組むことができる場面を設定する
- ・ 積極的に取り組むことのできる教材の活用場面を設定する
- ・ 友人と話し合う中で、自己の生活と比較したり振り返ったりする場面を設定する
- ・ 教科書や資料を活用して課題を解決していくような場面を設定する

Q17 : 児童の学習改善につなげる評価とは、どのようなことですか。

A : 学習評価を成績付け等の総括的な評価のみにとどまらせることなく、単元を通して、児童がどのように変容しつつあるのかを見取り、次なる課題を提示したり、指導の在り方の検討をしたりする中で、教師の指導改善、児童の学習改善につながるようにしていくことです。

評価の際の留意点 (例)

- ・ 本時のねらいを明確に示し、学習の見通しをもたせる
- ・ 観点毎の評価場面を意図的・計画的に設定する
- ・ 多様な評価方法を用いる
- ・ 評価の必要性・妥当性に配慮し学校全体で共有していく

6 授業を実施し、評価しよう

事例1 単元名<高跳び(第4学年)> 「知識・技能③」、「思考・判断・表現③」の評価事例(第4時)

(1) 評価規準

- ・ 3～5歩の助走から強く踏み切って、上方に高く跳ぶことができる。
- ・ 友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。

(2) 評価方法

授業の観察、ICT 機器の活用 等

(3) 主な学習活動

- ① 前時では、跳びやすい方の足を見付ける活動を行い、3歩助走での跳び方を身に付けている。その前時の活動を生かして、3歩助走からの跳躍のポイントを確認しながら運動に取り組む。
 - ② リズムのよい(ピッチが上がる)助走→口伴奏「レッ・ツ・ゴー!」のリズムを用いて運動に取り組む。
 - ③ ICT 機器を用いて動きの確認をしながら、互いに見合ったり、教え合ったりしながら運動に取り組む。
- (4) 指導と評価の一体化を図るための具体例

〔評価例〕

〔指導の工夫及び留意点〕

3～5歩の助走で踏み切ることができる。

- 3～5歩の助走で活動できる場を設定する。
- 3～5歩のリズムが分かりやすい場の設定をする。
 - ・ スタート位置や走るコースに目印を付ける。
 - ・ 3～5歩のリズムが分かるよう輪などで示す。
 - ・ 3歩のリズムを「レッ・ツ・ゴー」などの口伴奏を用いて伝える。

強く踏み切って上方に高く跳ぶことができる。

- 強い踏切を意識できるよう、踏み切る場所に踏み切り板を設置する。
- 最後の2歩を素早く踏み切ることが意識できるよう「レッ・ツ・ゴー」などの口伴奏を用いる。
- キーワード、図、写真、動画などを用いて、高く跳ぶためのポイントを示す。

課題の可視化やオノマトペ、音の合図などは、運動の苦手な児童への配慮としても重要である。

ICT 機器を用いて動きを確認することができる。

- 学習活動の中で、ICT 機器を用いて動きを確認する場面(時間)を設定する。
- ICT 機器を用いて動きを確認する場を設定する。
- 高く跳ぶためのポイントについて着目させ、目指す動きになっているか確認させる。
- 目指す動きと自分の動きを比較し、改善のポイントについて考えさせ、よりよい動きを目指して運動に取り組ませる。

友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。

- 互いの動きを見合い、伝え合う場面を設定する。
- 動きの中で、どの部分をどのような視点で見るかを示す
- 友達の動きについて、実践する前と後を比較し、変化した部分やよい動きになった部分を見付け伝えさせる。
- 友達の動きについて、目指す動きと友達の動きを比較し、変化した部分やよい動きになった部分を見付け伝えさせる。
- よりよい動きになるためのポイントについて伝えさせる。

〔児童の姿〕「知識・技能」

- 3～5歩の助走から強く踏み切り、高く跳ぶことを意識する姿が見られれば、「おおむね満足できる」状況と判断できる。
- 3～5歩の助走から最後の2歩をリズムよく強く踏み切ることができ、高く跳ぶための動作の工夫が見られれば「十分満足できる」状況と判断できる。
- 踏み切り足を決められず、3～5歩の短い助走から跳ぶことができなかつたり、「レッ・ツ・ゴー」のリズムがつかめずに動きを身に付けられなかつたりした場合は、「努力を要する」状況と判断する。

指導と評価の一体化を図るためのポイント

- ・ 習得を目指す知識や技能が、児童にとっても教師にとっても分かりやすくなるような指導の工夫をすることが大切であり、それらの指導の工夫を踏まえ、学習活動の中で知識や技能の習得状況を見取ることが必要です。
- ・ 児童が動きのポイントを捉えて意欲的に運動に取り組むことができるよう、挑戦する課題や動きのポイントなどを明確にし、どうなれば達成なのか分かりやすい場づくりをすることが大切です。
- ・ 「思考・判断・表現」では、児童のつぶやきや、ペア・チーム内での言葉を把握して、意図的に発問し、児童の思考等を引き出すことが大切です。

観点別学習状況の総括的評価の考え方

※ ①～⑤は、単元の評価規準

児童	観点	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	総括
児童A	知		④ B	② B	③ B	① A		B
	思		① B		③ A		② B	B
	態	③ B ⑤ B		① A		④ A	② B	B
児童B	知		④ A	② B	③ A	① B		A
	思		① B		③ A		② B	B
	態	③ A ⑤ B		① A		④ A	② B	A

- ・ 各観点における単元の評価規準の考え方や扱い方については、学年又は学校として統一しておくことが重要です。

総括がAの場合 → AA, AAA, AAB, AAAA, AAAB, AAAAA, AAAAB, AAABB

総括がA又はBの場合 → AB, AAB

総括がBの場合 → BB, ABB, BBB, ABBB, BBBB, AABBB, ABBBB, BBBBB

総括がB又はCの場合 → BC, BBCC

総括がCの場合 → CC, BCC, CCC, BCCC, CCCC, BBCCC, BCCCC, CCCCC

- ・ 同一の観点において、AとCが混在することは想定していません。例えば、「知識・技能」で知識はCだが、技能はAといった評価はどちらかの見取りが不確かであることが想定されるため、それぞれの観点の見取りが十分であるかどうか再考することが想定されます。しかし、身体的な理由などにより運動の技能はCと判断されるが、運動の行い方をよく理解しているなど、知識はA相当であると判断することができる児童がいることも想定されるため、原則論にとらわれることなく、様々な状況を踏まえ、児童の学習状況を見取ることが大切です。
- ・ 育成を目指す資質・能力の三つの柱は、目指す児童の姿とそのための指導の在り方が相互に関連しているため、総括的評価の際に全観点にAとCが混在することについても十分に留意することが求められます。

7 更に深めよう

Q18：「学習活動に即した評価規準」は作成しなくてもよいのですか。

A：運動領域・保健領域ともに、学習活動レベルに対応した「単元の評価規準」を作成します。これは、これまでの「学習活動に即した評価規準」と同じ性質をもつものといえます。そのため、「学習活動に即した評価規準」については作成しないことになります。

Q19：評価の精選とは、どのようなことですか。

A：観点別の学習状況についての評価を、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することです。

学習評価については、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、評価の回数を少なくすればいいという考え方ではありません。育成すべき資質能力を育むために評価があるという視点を重視し、指導を充実させるために評価の精選ということをつえていく必要があります。

Q20：運動領域の「知識・技能」の評価のポイントは何ですか。

A：知識と技能のそれぞれの見取り方について、低学年段階では、まずは運動の楽しさや体を動かす心地よさを味わうことが重要であることから、言葉や文章など、明確な形で表出する部分のみでの知識の見取りにならないよう留意する必要があります。つまり、課題となる動きが身に付いている児童は、その運動の行い方、特に動きのこつやポイントを理解しているものとして見取っていくことが大切です。

中学年段階からは、観察や学習カードの記述等にその気付きや理解が認められる場合は、知識に関する理解が得られているものと捉えることとします。また、技能については、観察やICT機器を用いて見取るとともに、運動の行い方については、話合いの場面や学習カードへの記入など、「言ったり書いたり」する活動を通して、その習得状況を見取っていくことが大切です。

Q21：複数の単元にまたがって評価をする際のポイントは何ですか。

A：カリキュラム・マネジメントの視点から、学年全体の「内容のまとまり」の指導内容を俯瞰しつつ、どの内容を重点化するか、配当時期をいつにするか検討することです。

特に運動領域では、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容が独自に示されているという特質があり、学年全体の「内容のまとまり」の指導内容を俯瞰しつつ、複数の単元にまたがって重点化して指導する内容を設定し評価するなど、無理のない指導と評価の計画を検討し、指導内容の定着を図るなどの工夫も有効です。

外国語

1 まずは、ここを確認しよう

Q1 : 小学校外国語科では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A : 小学校外国語科で育成を目指す資質・能力は、「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」です。目標ではこの資質・能力が、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理されています。

【小学校外国語科の目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、**コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

小学校外国語科においては、これらの資質・能力を「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して」育成することを目指します。なお、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」については、「解説 外国語活動・外国語編」(pp.67-69)を参照してください。

Q2 : 外国語科の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A : 学習指導要領第2章第10節 外国語「第2 各言語の目標及び内容等」の「英語 1目標」に示されている、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の「五つの領域」のことです。

「何ができるようになるか」を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り・発表]」、「書くこと」の五つの領域別の目標で示している点は、英語教育の特質です。

Q3 : 外国語科の学習評価は、どのようにして行うのですか。

A : 五つの領域 (内容のまとめり) それぞれについて、三つの観点別の「内容のまとめりごとの評価規準」及び「単元ごとの評価規準」を設定し、観点別学習状況の評価を行います。

上記の内容のまとめり (五つの領域) のそれぞれについて、三つの観点別の「内容のまとめりごとの評価規準」の例が、国の「参考資料 外国語・外国語活動」(pp.33-34)に示されています。「単元ごとの評価規準」は、「内容のまとめりごとの評価規準」と「単元の目標」を踏まえて設定します。

2 単元の目標と評価規準を設定しよう

事例 単元名〈We Can! 1 Unit 2 「When is your birthday?」(第5学年)〉

【単元の目標】

①自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、②相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、③誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、④アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

※①～④の数字について、詳しくは右ページ (p.99) Q4 参照

【内容のまとめりとごとの評価規準】

「話すこと [やり取り]」の評価規準の設定例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>【技能】 実際のコミュニケーションにおいて、指示、依頼をしたり、それらに応じたりする技能を身に付けている。日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合ったりする技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、指示、依頼をしたり、それらに応じたりしている。日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。</p>

「話すこと [やり取り]」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、指示、依頼をしたり、それらに応じたりしようとしている状況や、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている状況、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合おうとしている状況を評価します。

「単元の目標」と「内容のまとめりとごとの評価規準」を踏まえて、「単元の評価規準」を設定します

【単元の評価規準】

「話すこと [やり取り]」の評価規準の設定例

※評価規準の設定について、詳しくは右ページ (p.99) Q5 参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> 月日の言い方や、I like/want～. Do you like/want～? What do you like/want? When is your birthday?, その答え方について理解している。</p> <p>「…を理解している」学習状況を見取る。</p> <p><技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、I like/want～. Do you like/want～? What do you like/want～? When is your birthday?等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p> <p>「…を伝え合う技能を身に付けている」学習状況を見取る。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</p> <p>「…を伝え合っている」学習状況を見取る。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p> <p>「…を伝え合おうとしている」学習状況を見取る。</p>

Q4：単元の目標は、どのように設定するのですか。

A：各単元で取り扱う事柄や、言語材料、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定します。

下線部①では、本単元におけるコミュニケーションを行う目的を示しています。

下線部②では、本単元における「聞くこと」の言語活動を通して達成したい目標を、具体的に取り扱う話題などに即して設定しています。

下線部③では、本単元における「話すこと [やり取り]」の言語活動を通して達成したい目標を、具体的に取り扱う話題などに即して設定しています。

下線部④では、本単元における「書くこと」の言語活動を通して達成したい目標を、具体的に取り扱う言語材料に即して設定しています。

Q5：単元の評価規準は、どのように設定するのですか。

A：「単元の目標」に示された学習活動等を踏まえ、三つの観点で設定します。

【各観点における評価規準の基本的な形式】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 【言語材料】について <u>理解している</u> 。 <技能> 【話題】について【言語材料】等を用いて【内容】を…する技能を身に付けている。	【目的、場面、状況等】に応じて、【話題】について【内容】を…している。	【目的、場面、状況等】に応じて、【話題】について【内容】を…しようとしている。
	下線の部分には「聞き取る」、「読み取る」、「伝え合う」、「話す」、「書く」などの、育成を目指す資質・能力に関連した言葉が入る。	

(1) 知識・技能 …「知識」と「技能」の二つに分けて設定することが考えられます。

「知識」については、その単元で扱う【言語材料】について「理解している」という形が基本となります。「技能」については、その単元で取り扱う【話題】について、【言語材料】等を用いて、事実や情報、考えなどの【内容】を「…する技能を身に付けている」という形が基本となります。

(2) 思考・判断・表現

コミュニケーションを行う【目的や場面、状況等】に応じて、その単元で取り扱う【話題】について、事実や情報、考えなどの【内容】を「聞き取っている」、「読んで意味が分かっている」、「伝え合っている」、「話している」、「書いている」という形が基本となります。

なお、「読むこと」、「書くこと」に関しては、「音声で十分に慣れ親しんだ」ことについて読んだり書いたりしていることが前提となっている点も、重要なポイントです。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

基本的には、「思考・判断・表現」と一体的に見取り評価することが可能であるという考え方から、【目的や場面、状況等】に応じて、【話題】について、【内容】を「聞き取ろうとしている」、「伝え合おうとしている」、「話そうとしている」、「読んで意味を分かろうとしている」、「書こうとしている」という形が基本となります。

※ 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する上では、上記の「…しようとしている」態度と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価します。

3 単元の指導と評価の計画を作成しよう

事例 単元名〈We Can! 1 Unit 2 「When is your birthday?」(第5学年)〉

【「聞くこと」・「話すこと[やり取り]」に焦点をおいた単元の指導と評価の計画の例(7時間)】

	目標◆・活動○	評価		
		知 技	思 判 表	態 度
1	◆ 月の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。			
2	◆ 月名を聞いたり言ったりすることができるとともに、日付の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。			
3	◆ 誕生日や好きなものを聞き取ることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。			
4	◆ 誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取ったり、それらについて尋ねたり答えたりして伝え合ったりすることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○ 指導者の誕生日についての短い話を聞き、聞き取ったことをワークシートに記入する。	聞		
5	◆ 相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合ったりすることができる。また、活字体の大文字を書くことができる。 ○ デジタル教材を視聴して Laksh (登場人物) について分かったことを、テキストに書く。 「聞くこと」の領域の記録に残す評価の場面 「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の両面から評価を行う	聞		◎ 相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取っている。(観察・記述分析) ◎ 相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。(観察・記述分析)
6	◆ 自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○ バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。	や		◎ 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。(観察)
7	◆ 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。 ○ バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。 「話すこと [やりとり]」の領域の記録に残す評価の場面 「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の両面から評価を行う	や		◎ 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。(観察) ◎ 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。(観察)

※ 聞…「聞くこと」の記録に残す評価の場面

や…「話すこと[やり取り]」の記録に残す評価の場面

第2章
評価を
しよう

Q6：「単元の指導と評価の計画」作成のポイントは何か。

A：記録に残す評価の場面を精選し、評価時期や場面、方法を検討することです。

単元のまとまりの中で適切に評価を実施するためには、記録に残す評価の場面を精選し、単元の計画を立てる段階から、評価時期や場面、評価方法を考えておくことが重要です。

単元の前半から「指導」→「評価」→「指導の改善」のサイクルを重ねて、観点別学習状況の実現状況を把握できる段階で評価を行います。

左ページの事例では、表中の「評価」の欄に、観点別学習状況の評価につなげる「記録に残す評価」の場面について、「聞くこと」に関しては「聞」、話しこと[やり取り]に関しては「や」で示しています。

本単元では、「聞くこと」、「話しこと[やり取り]」の2つの領域において、第4時及び第6時では「知識・技能」の観点について、第5時及び第7時では「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の両面から記録に残す評価を行っています。

※ 本単元においては「書くこと」については目標に向けて指導は行いますが、本単元内で記録に残す評価は行いません。「聞くこと」、「話しこと [やりとり]」の二つの領域において記録に残す評価を行う計画としています。



Q7：記録に残さない場面では、評価はしなくてもよいのですか。

A：児童の学習状況を把握して指導に生かす評価は、全ての時間において行います。

日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要であるため、児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、目標に向けて指導を行い、教師が児童の学習状況を確認して指導の改善に生かす「指導に生かす評価」を行うことが重要です。

本単元でも、「評価」の欄に、「記録に残す評価」の場面として、「聞」や「や」が設定されていない活動や時間においても、常にその活動や時間の目標に対する児童の学習状況を把握し、児童の学習の改善、教師の指導の改善に生かすことが求められ、そのサイクルが指導と評価の一体化につながります。

また、ここで確認した学習状況は、単元末や学期末に、評価を総括する際の参考にすることもできます。

【本単元における「聞くこと」と「話しこと [やり取り]」の評価場面の例】

時	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1			
2			
3			
4	指導者の話を聞く活動		
5	(LW&T5)	LW&T5	
6	ACT2		
7	(ACT2)	ACT2	

児童の学習、教師の指導改善に生かす「指導に生かす評価」は単元を通して行う

主に単元の後半で「記録に残す評価」を行う

次ページでは、第7時の「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面を例として取り上げています。

4 授業を実施し、評価しよう

事例 単元名<We Can! 1 Unit2 「When is your birthday?」(第5学年) >

【「話すこと[やり取り]」(思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)の評価の例(第7時)】

活動…バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りをする。お祝いの気持ちを込めてバースデーカードを渡す。

評価方法…行動観察

対話① 児童4と児童6のやり取り

児6: Hello!	児4: Hello!
児6: When is your birthday?	児4: December ... 10th.
児6: Oh, your card.	
児6: (カードに記されたチョコレート、青い色の靴、バレーボールのイラストを見て)	
Do you like chocolate?	児4: Yes, I do. Chocolate, good!
児6: Me, too. I like chocolate.	児4: Me, too. Me, too.
児6: Do you like blue?	児4: Yes. Blue! You?
児6: I like yellow.	児4: ああ、Yellow.
児6: Yes. I like yellow.	
Do you like volleyball?	児4: Yes, volleyball, good.
児6: I like baseball. Do you like baseball?	児4: Baseball? No.
児6: OK. I like Ohtani Shohei.	児4: Oh, Ohtani. OK.
児6: Birthday present, what do you want?	児4: Birthday present, ... bag. Bag.
児6: Bag. What color?	児4: Color?
児6: Red, yellow, blue... あっ、Blue bag?	児4: Yes, blue bag.
児6: OK. Birthday card, here you are.	児4: OK, thank you.
児6: You're welcome.	

※1

※2

※3

対話② 児童5と児童6のやり取り

児5: Hello!	児6: Hello!
児5: When is your birthday?	児6: My birthday is February 2nd.
児5: (カードに記された野球のボールとバット、黄色、犬のイラストを見て)	
Baseball, do you like baseball?	児6: Yes, I do. I like baseball.
児5: Me, too.	児6: Nice. I like Ohtani Shohei.
	Do you like Ohtani Shohei?
児5: Yes, I do.	児6: Ohtani Shohei is great.
児5: Yes, yes. Do you like yellow?	児6: Yes, I do. How about you?
児5: No, I don't.	児6: What color do you like?
児5: I like blue. Do you like blue?	児6: Yes, I like blue, too.
児5: Birthday present, what do you want?	児6: Dog! I want dog.
児5: Oh, do you like dog?	児6: Yes, yes. I like dog. Do you like dog?
児5: No. I like cats.	児6: OK. Good.
児5: Birthday card, here you are.	児6: Thank you.
児5: You're welcome.	

※4

対話③ 児童4と児童5のやり取り

児4: Hello!	児5: Hello.
児4: …, なんて言うんだっかかな。(指導者に教えてもらって)	
When ... is birthday, your birthday?	児5: My birthday is July 24th.
児4: OK! えーっと、Do you like ... swim?	児5: Yes, I like swimming.
児4: (カードに記された水泳、猫、青い机のイラストを見て)	
OK, swimming.	
えーっと、Do you like cat?	児5: Yes, I do. Do you like cats?
児4: No.	児5: What animal do you like?
児4: …	児5: Do you like dog?
児4: Yes. Color, blue. Do you like blue?	児5: Yes, I like blue.
児4: えっと、present? Birthday present?	児5: I want a blue desk.
児4: OK. Blue desk! Birthday card.	
Here you are.	児5: Oh, thank you.
児4: OK.	

Q8：実際に、児童のどのような姿を評価するのですか。

A：児童が「何ができるようになったか」を、観点別の評価規準に照らして評価します。

【本単元における「話すこと[やり取り]」（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）の評価の総括】

評価の観点	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価場面	第7時	評価の総括	第7時	評価の総括
評価規準	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。		自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。	
児童4	C	C	B	B
児童5	B	B	B	B
児童6	A	A	A	A

単元の指導と評価の計画において、評価の場面を精選し、第7時を「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面として設定しているため、本時の評価を単元の評価として総括しています。

児童4について

- ・対話①、対話③ともに「主体的に学習に取り組む態度」の観点では「自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりしよう」という目的に向けて、コミュニケーションを図ろうとする意欲は見られるので、「おおむね満足できる」状況(B)と判断しています。
- ・「思考・判断・表現」の観点では、※2、3、4等の場面に見られるように、自ら既習語句や表現を用いて実際に自分のことを伝えたり、相手のことについて尋ねたりしていないことから、「努力を要する」状況(C)と判断しています。

児童5について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、「自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりしよう」という目的に向けて、既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしようとしているので、「おおむね満足できる」状況(B)と判断しています。
- ・「思考・判断・表現」の観点では、目標に向けて、実際に既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしているので、「おおむね満足できる」状況(B)と判断しています。

児童6について

- ・対話①、対話②どちらにおいても、「自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりしよう」という目的に向けて、既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしようとし、実際にしています。その上に、※1で、下線部のようにカードにない野球のことを尋ね、自分の好きなものをさらに伝えていることから、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」において「十分満足できる」状況(A)と判断しています。

5 更に深めよう

Q9 : 「記録に残す評価」とした場面の評価の結果だけで評価を総括するのですか。

A : 記録に残す評価を実施した後に、評価したことを基に指導に改善を加え、児童の学習状況に改善が見られた場合には、その見取りを評価に加えることは可能です。

【話すこと [やり取り]】の領域における「知識・技能」の評価の総括

評価の観点	知識・技能		
	第6時	第7時	評価の総括
評価場面			
評価規準	誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。	誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。	
児童4	B	—	B
児童5	C	(B)	B
児童6	A	—	A

児童5について、第6時の「知識・技能」の評価が「努力を要する」状況(C)でしたが、事後の指導と観察により、次時での改善が見られたため、その見取りを加味し、「おおむね満足できる」状況(B)と判断して「記録に残す評価」とし、本単元における「聞くこと」における「知識・技能」において評価の総括を「B」としています。

指導と評価の一体化を図るためには、教師が自らの指導のねらいに応じて、授業中での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切です。

例えば、「努力を要する」と記録に残す評価をした児童については、改善点について、振り返りシート等のコメントや、口頭で伝えたりすることで、児童が自分自身の学習状況を把握し、取り組むポイントを自覚して次時の授業に臨めるようにすることが重要です。

指導者は、記録に残す評価の後にも、児童が既習語句や表現を十分使う機会を与え、それらが定着するよう指導を継続することが重要です。

Q10 : 「読むこと」と「書くこと」は、どのような姿を評価するのですか。

A : 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵や写真などと一緒に読んだり、例文を参考に書き写したりすることができるようになってきているかを評価します。

学習指導要領解説では、小学校外国語科の「読むこと」、「書くこと」については、中学年の外国語活動では指導していないことを踏まえ、慣れ親しませることから指導することとしています。評価に当たっては、十分に音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について、絵や写真などの言語外情報を伴って示されたものを読んだり、例文を参考にして書き写したりしているかを見取り評価します。

なお、活字体の大文字と小文字については、文字を見て、その読み方を発音することができることと、四線上に正しく書くことができることが目標となっていることにも留意する必要があります。

外国語活動

1 ここを確認しよう

Q1：小学校外国語活動では、どのような資質・能力の育成を目指しますか。

A：小学校外国語活動で育成を目指す資質・能力は、「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」です。目標ではこの資質・能力が、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理されています。

【小学校外国語活動の目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、**コミュニケーションを図る素地となる資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

小学校外国語活動においては、小学校外国語科と同様にこれらの資質・能力を「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、聞くこと、話すことの「言語活動を通して」育成することを目指します。なお、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」については、「解説 外国語活動・外国語編」(pp.11-13)を参照してください。

Q2：外国語活動の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：学習指導要領第4章 外国語活動「第2 各言語の目標及び内容等」の「英語 1目標」に示されている、「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」の「三つの領域」のことです。

小学校学習指導要領第4章の第2「1 目標」には、「何ができるようになることを目指すか」が「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」の三つの領域別の目標で示されています。

Q3：外国語活動の学習評価は、どのようにして行うのですか。

A：三つの領域（内容のまとめり）それぞれについて、三つの観点別の「内容のまとめりごとの評価規準」及び「単元の評価規準」を設定し、観点別学習状況の評価を行います。

小学校外国語科と同様に、上記の内容のまとめり（三つの領域）のそれぞれについて、三つの観点別の「内容のまとめりごとの評価規準」の例が、国の「参考資料 外国語・外国語活動」に示されています。「単元の評価規準」は、「内容のまとめりごとの評価規準」と「単元の目標」を踏まえて設定します。

※ 評価規準のうち、「知識・技能」の設定については、小学校外国語と少し違う点がありますので、次ページで詳しく説明します。

Q4 : 「目標」や「評価規準」の設定、「指導と評価の手順」などは、外国語科と同じですか。

A : 基本的には同じとなりますが、「知識・技能」に関する「評価規準」については、知識と技能を一体的に見取るように設定することが考えられます。

初めて外国語に触れる小学校中学年の外国語活動では、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との違い等に気付くことで、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみが深まり、また、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、言語や文化についての体験的理解が深まり、日本語と外国語との違い等への気付きが促されます。したがって、ここでいう「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」ことは、外国語活動の目標に示している「言語や文化について体験的に理解を深め」ることや「日本語と外国語との違い等への気付き」と一体的なものであると考えます。

このことから、国の「参考資料」の「内容のまとまりごとの評価規準」では、知識・技能において、「どのような学習活動を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいるのか」という点を一体的に見取るような評価規準の例を設定しています。単元の評価規準も、内容のまとまりごとの評価規準の考え方に基づいて、単元の目標を踏まえて設定します。

【単元の目標】

①ではコミュニケーションを行う目的を示しています。

②では「聞くこと」の目標を、具体的に取り扱う話題などに即して設定しています。

①おすすめの文房具セットを作る参考にするために、②世界の子供達、学校の先生や友達の文房具など、学校で使う物や持ち物についての話を聞いたり、③おすすめの文房具セットについて相手に伝わるように工夫しながら、文房具などの学校で使う物や持ち物について話したりする。

③では「話すこと [やり取り]」の目標を、具体的に取り扱う話題などに即して設定しています。

【単元の評価規準】



「単元の目標」と「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえて、「単元の評価規準」を設定します

「聞くこと」の評価規準の設定例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文房具などの学校で使う物や持ち物の言い方、I have/don't have ~. Do you have ~? Yes, I do. / No, I don't. などの表現を聞くことに慣れ親しんでいる。	おすすめの文房具セットを作る参考にするために、世界の子供達の文房具など、学校で使う物や持ち物についての話を聞いて意味が分かっている。	おすすめの文房具セットを作る参考にするために、世界の子供達の文房具など、学校で使う物や持ち物についての話を聞こうとしている。

「話すこと [やり取り]」の評価規準の設定例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文房具などの学校で使う物や持ち物について、I have/don't have ~. Do you have ~? などを用いて、話すことに慣れ親しんでいる。	おすすめの文房具セットについて相手に伝わるように工夫しながら、文房具などの学校で使う物や持ち物について話している。	おすすめの文房具セットについて相手に伝わるように工夫しながら、文房具などの学校で使う物や持ち物について話そうとしている。

Q5 : 外国語活動の評価は、どのように記載するのですか。

A : 評価の観点に照らして、児童の学習状況の顕著な事項について、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述します。

単元の中で、「記録に残す評価」の場面を設定し、評価規準に沿って、児童名簿にチェックを入れたり、特徴的なことはメモを取ったりしておきます。このようにして蓄積した記録を基に、文章で簡潔に記載します。

総合的な学習の時間

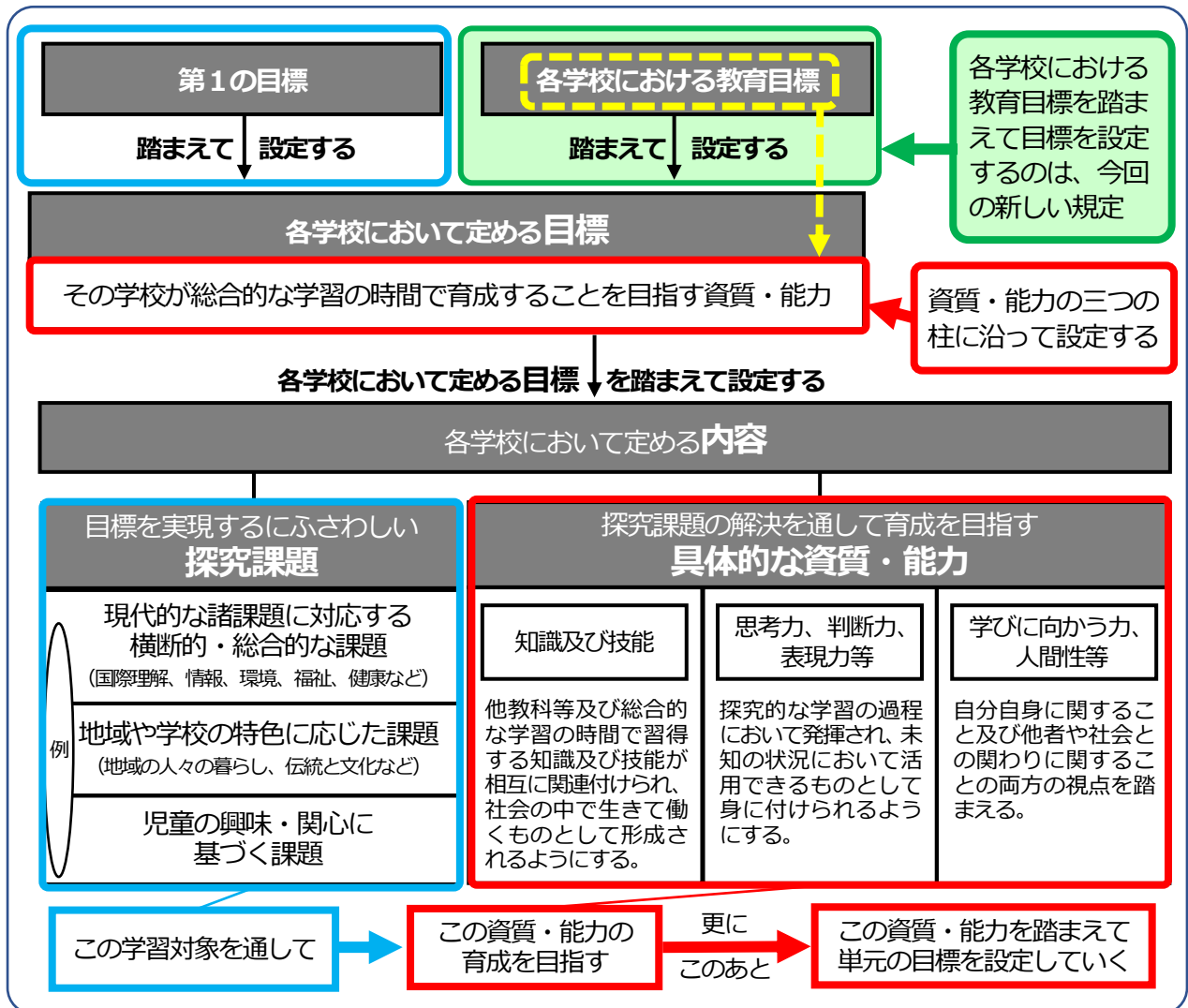
1 まずは、ここを確認しよう

Q1：「総合的な学習の時間」と「各教科等」で違うところは何ですか。

A：第1の目標を踏まえて、各学校が「目標」や「内容」を定める点です。

各学校において定める目標は、各学校が総合的な学習の時間での取組を通して、どのような児童を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育てようとするのか等を明確にしたものです。国が各学校において目標を定めることを求めているのは、各学校が創意工夫を生かした探究的な学習や横断的・総合的な学習を実施することが期待されているからです。目標を定める際には、学習指導要領に示された第1の目標を踏まえることが規定されています。

【「各学校において定める**目標**」及び「各学校において定める**内容**」】



総合的な学習の時間

各学校において定める目標については、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。(小学校学習指導要領 p.179 第5章 総合的な学習の時間)

Q2：なぜ「各学校の教育目標」を踏まえて「目標」を定めることになったのですか。

A：総合的な学習の時間が、横断的・総合的な学習を行うという特性をもつことから、各学校のカリキュラム・マネジメントの軸となることが期待されているからです。

各学校における教育目標には、地域や学校、児童の特性を踏まえ編成した教育課程によって実現を目指す児童の姿が描かれます。総合的な学習の時間の目標には、学校の教育目標と直接的につながるとい、他教科等にはない特徴があります。総合的な学習の時間の目標が学校の教育目標を具体化し、総合的な学習の時間と各教科等との学習を関連付けることにより、総合的な学習の時間を軸としながら、教育課程全体において、各学校の教育目標が達成されていくということになります。

今回の改訂で、総合的な学習の時間が各学校のカリキュラム・マネジメントの中核になることが今まで以上に明らかとなったことで、各学校において総合的な学習の時間の目標を定めるということには、主体的かつ創造的に指導計画を作成し、学習活動を展開するという意味があることを再確認する必要があります。

なお、総合的な学習の時間を充実させるために、中学校との接続を視野に入れ、連続的かつ発展的な学習活動が行えるよう目標を設定することも重要です。

Q3：「各学校において定める内容」とは、具体的にはどのようなものですか。

A：「各学校において定める**内容**」とは、各学校において設定する「目標を実現するにふさわしい**探究課題**」と「探究課題の解決を通して育成を目指す**具体的な資質・能力**」のことです。

学習指導要領には、各教科等のようにどの学年で何を指導するのかという内容が明示されていません。これは、各学校が、学習指導要領が定める目標の趣旨を踏まえて定めた目標の下で、地域や学校、児童の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが期待されているからです。

各学校においては、「各学校において定める目標」を踏まえて、「目標を実現するにふさわしい**探究課題**」と「探究課題の解決を通して育成を目指す**具体的な資質・能力**」を設定することになります。

【目標を実現するにふさわしい**探究課題**】とは…？

目標を実現するにふさわしい**探究課題**とは、目標の実現に向けて学校として設定した、児童が探究的な学習に取り組む課題であり、従来「学習対象」として説明されてきたものに相当します。つまり、**探究課題**とは、探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したものです。

【探究課題の解決を通して育成を目指す**具体的な資質・能力**】とは…？

探究課題の解決を通して育成を目指す**具体的な資質・能力**とは、各学校において定める目標に記された**資質・能力**を各探究課題に即して具体的に示したものであり、教師の適切な指導の下、児童が各探究課題の解決に取り組む中で、育成することを目指す**資質・能力**のことです。**資質・能力**の三つの柱に沿って明らかにしていくことが求められます。

Q4：総合的な学習の時間の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：「各学校において定める**内容**」です。具体的には「目標を実現するにふさわしい**探究課題**」と「探究課題の解決を通して育成を目指す**具体的な資質・能力**」と考えることができます。

2 単元ごとの目標を設定しよう

Q5：総合的な学習の時間における単元の目標作成のポイントは何ですか。

A：単元における「具体的な学習活動」を踏まえ、「育成を目指す資質・能力」を示すことです。

「単元の目標」は、「各学校が定める内容」を踏まえて作成します。

「内容のまとめり」を基に、単元全体を見通して総括的に目標を示すとともに、「①具体的な学習活動」、「②知識及び技能」、「③思考力、判断力、表現力等」、「④学びに向かう力、人間性等」の四つの要素を構造的に配列し、単元の目標を作成します。

【第6学年 福祉に関する「内容のまとめり」を基に作成した例】

内容のまとめり			
目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々	①少子高齢化などの地域課題の解決に向けた取組は、地域の理解や協力があって初めて持続可能なものとなることを理解する。 ①概念的な知識の獲得	①少子高齢化などの地域課題への関わりを通して感じたことを基に課題を設定し、解決への見通しをもつことができる。 ①「課題の設定」	①課題解決に向け、自他のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとする。 ①自己理解・他者理解
	②高齢者と関わりを通して、相手に応じた話題や話し方を選択するなど、適切な関わり方をすることができる。 ②自在に活用することが可能な技能の獲得	②課題解決に必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積することができる。 ②「情報の収集」	②自分と違う意見や考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとする。 ②主体性・協働性
	③少子高齢化などの地域課題への理解は、高齢者とその暮らしについて探究的に学んだことによる成果であると気付いている。 ③探究的な学習のよさの理解	③課題解決に向けて、必要な情報を整理して考えることができる。 ③「整理・分析」	③課題解決の状況を振り返り、自分にできることを見付け向けて取り組もうとする。 ③将来展望・社会参画
		④相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。 ④「まとめ・表現」	

【単元の目標】

- ①高齢者の孤独の解消に向けた「地域の茶の間」をつくる活動を通して、
 ②高齢者の暮らしを支える人々の取組や思いに気づき、
 ③「地域の人々が集い交流できる場」の在り方について考えとともに、
 ④世代を越えて交流していくことの大切さを感じながら生活していくことができるようにする。

①具体的な学習活動

②知識及び技能

③思考力、判断力、表現力等

④学びに向かう力、人間性等

総合的な学習の時間

単元の目標は、どのような学習を通して、児童にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に示したもので、各学校において定める目標や内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成します。

- ① 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や具体的な学習活動
- ② 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「知識及び技能」
- ③ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
- ④ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

※ ②～④は、①との関わりにおいて作成します。

3 単元ごとの評価規準を設定しよう

Q6：総合的な学習の時間における単元の評価規準作成のポイントは何ですか。

A：「内容のまとめりごとの評価規準」を基に、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての児童の姿を想定し、単元の評価規準を作成することです。

「単元の評価規準」を作成するに当たっては、実際の学習活動や学習場面をイメージし、資質・能力を発揮する児童の姿を想定することが大切です。その際、実際に行う学習活動や扱う学習対象と、発揮される資質・能力とを具体的に描くことが必要になります。下の各観点のポイントを踏まえ、次ページの例を見てみましょう。

(1) 知識・技能

「知識・技能」の観点については、「①概念的な知識の獲得」、「②自在に活用することが可能な技能の獲得」、「③探究的な学習のよさの理解」の三つに関する評価規準を作成することが考えられます。

<①概念的な知識の獲得>

知識については、概念的な知識を獲得している児童の姿を評価規準として設定することが考えられます。

<②自在に活用することが可能な技能の獲得>

技能については、身に付いた技能が、いつでも、滑らかに、安定して、素早く行われているなどの児童の姿を評価規準として設定することが考えられます。

<③探究的な学習のよさの理解>

総合的な学習の時間においては、①②とともに、探究的な学習のよさの理解として、資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながることなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解するなどの児童の姿を評価規準として設定することが考えられます。

(2) 思考・判断・表現

「思考・判断・表現」の観点については、「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の過程で育成される資質・能力を児童の姿として示して、評価規準を作成することが考えられます。

①「課題の設定」については、例えば、「複雑な問題状況の中から課題を発見し設定する」、「解決の方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てる」などの視点で評価規準を設定することが考えられます。

②「情報の収集」については、例えば、「情報を効率的に収集する手段を選択する」、「必要な情報を多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積する」などの視点で評価規準を設定することが考えられます。

③「整理・分析」については、例えば、「異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにする」、「事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠をもつ」などの視点で評価規準を設定することが考えられます。

④「まとめ・表現」については、例えば、「相手や目的に応じて効果的な表現をする」、「学習を振り返り自己の成長を自覚し、学習や生活に生かす」などの視点で評価規準を設定することが考えられます。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「自己調整」を重視することとしています。このことから、自他を尊重する「①自己理解・他者理解」、自ら取り組んだり力を合わせたりする「②主体性・協働性」、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「③将来展望・社会参画」などについて育成される資質・能力を児童の姿として示して、評価規準を作成することが考えられます。

①「自己理解・他者理解」については、例えば、「自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする」、「異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする」などの視点で評価規準を設定することが考えられます。

②「主体性・協働性」については、例えば、「自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組む」、「自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組む」などの視点で評価規準を設定することが考えられます。

③「将来展望・社会参画」については、例えば、「自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける」、「実社会や実生活の問題の解決に、自分のこととして取り組む」などの視点で評価規準を設定することが考えられます。

(例) 単元名「地域の絆を再生しよう」(第6学年「福祉」全50時間)

【内容のまとめりごとの評価規準】

探究課題	内容のまとめりごとの評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々	<p>① 少子高齢化などの地域課題の解決に向けた取組は、地域の理解や協力があって初めて持続可能なものとなることを理解している。</p> <p>② 高齢者と関わりを通して、相手に応じた話題や話し方を選択するなど、適切に関わっている。</p> <p>③ 少子高齢化などの地域課題への理解は、高齢者とその暮らしについて探究的に学んだことによる成果であると気付いている。</p>	<p>① 少子高齢化などの地域課題への関わりを通して感じたことをもとに課題を設定し、解決への見通しをもっている。</p> <p>② 課題解決に必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積している。</p> <p>③ 課題解決に向けて、必要な情報を整理して考えている。</p> <p>④ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。</p>	<p>① 課題解決に向け、自他のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 自分と違う意見や考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 課題解決の状況を振り返り、自分にできることを見付け、取り組もうとしている。</p>



「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、単元の評価規準を作成します。

【単元の評価規準】

探究課題	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の絆を再生しよう	<p>① 「地域の茶の間」は、地域の人と思いを共有し協働してつくることで、持続可能なものとなることを理解している。</p> <p>①概念的な知識の獲得</p> <p>② 日常的に気持ちのよい挨拶をしたり、分かりやすい話し方をしたりして、高齢者に適切に関わっている。</p> <p>②自在に活用することが可能な技能の獲得</p> <p>③ 高齢者への接し方など自分の行動の変容は、高齢者とその暮らしについて探究的に学んだことによる成果であると気付いている。</p> <p>③探究的な学習のよさの理解</p>	<p>① 地域の高齢者とその暮らしについて、理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。</p> <p>①「課題の設定」</p> <p>② 地域の高齢者を支援する仕組みなどの現状を捉えるために必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に合わせて蓄積したりしている。</p> <p>②「情報の収集」</p> <p>③ 持続可能な「地域の茶の間」をつくるために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>③「整理・分析」</p> <p>④ 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p> <p>④「まとめ・表現」</p>	<p>① 課題解決に向けた取組を通して、自己のよさに気付いたり、様々な考え方を受け入れ尊重しようとしたりしている。</p> <p>①自己理解・他者理解</p> <p>② 「地域の茶の間」の体験を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>②主体性・協働性</p> <p>③ 課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の解消に向けて取り組もうとしている。</p> <p>③将来展望・社会参画</p>

総合的な学習の時間

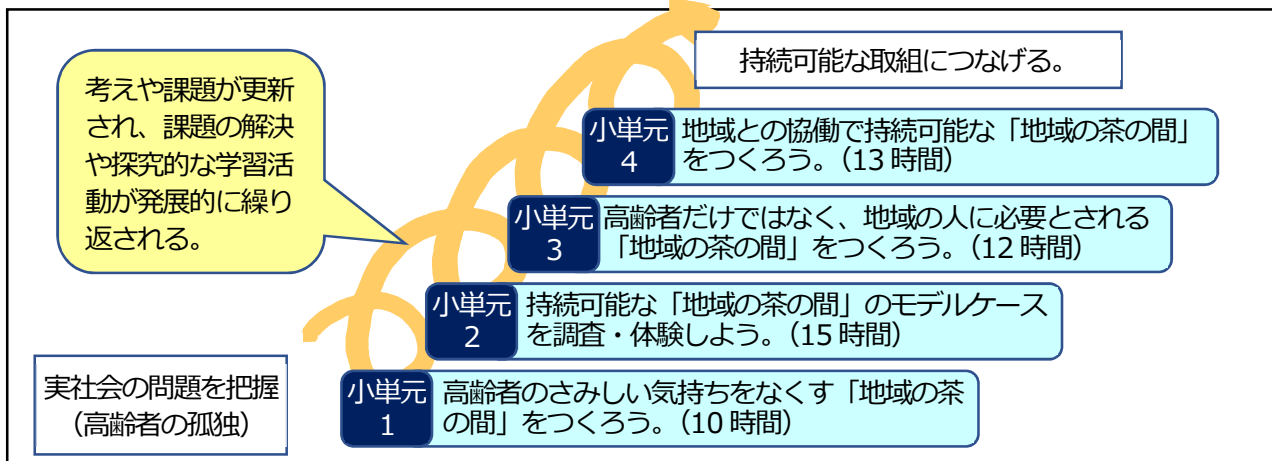
4 単元の指導と評価の計画を作成しよう

(例) 単元名「地域の絆を再生しよう」(第6学年「福祉」全50時間)

【単元の構想】

本単元は、探究課題「身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々」を踏まえて構想した単元です。地域住民の高齢化と核家族化により、孤独に暮らす高齢者が増加しているという背景があります。

本単元は、児童がこうした状況を問題だと捉え、高齢者の孤独の解消に向けて、地域の誰もが集い交流できる「地域の茶の間」を創設することを学習課題として設定し、その解決に向けて取り組んだものです。



【単元の目標】

高齢者の孤独の解消に向けた「地域の茶の間」をつくる活動を通して、高齢者の暮らしを支える人々の取組や思いに気づき、「地域の人々が集い交流できる場」の在り方について考えるとともに、世代を越えて交流していくことの大切さを感じながら生活していくことができるようにする。

【単元の評価規準】

探究課題	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の絆を再生しよう	①「地域の茶の間」は、地域の人と思いを共有し協働してつくることで、持続可能なものとなることを理解している。 ①概念的な知識の獲得	①地域の高齢者とその暮らしについて、理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。 ①「課題の設定」	①課題解決に向けた取組を通して、自己のよさに気付いたり、様々な考え方を受け入れ尊重しようとしていたりしている。 ①自己理解・他者理解
	②日常的に気持ちのよい挨拶をしたり、分かりやすい話し方をしたりして、高齢者に適切に関わっている。 ②自在に活用することが可能な技能の獲得	②地域の高齢者を支援する仕組みなどの現状を捉えるために必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に合わせて蓄積したりしている。 ②「情報の収集」	②「地域の茶の間」の体験を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ②主体性・協働性
	③高齢者への接し方など自分の行動の変容は、高齢者とその暮らしについて探究的に学んだことによる成果であると気付いている。 ③探究的な学習のよさの理解	③持続可能な「地域の茶の間」をつくるために必要な情報を取舍選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ③「整理・分析」	③課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の解消に向けて取り組もうとしている。 ③将来展望・社会参画
	④伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。 ④「まとめ・表現」		

Q7 : 「単元の指導と評価の計画」作成のポイントは何か。

A : 目指す資質・能力が育成されるように、児童が自ら課題を解決する過程を想定するとともに、課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返されるような学習活動のまとまりを計画することです。

本単元は、中心的な学習活動を、高齢者の孤独の解消に向けた「地域の茶の間」をつくる活動とした上で、四つの小単元で構成するとともに、評価場面については、小単元ごとの学習活動や学習場面において、単元で育成を目指す資質・能力を発揮する児童の姿を想定し設定しています。

【単元の指導と評価の計画】

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 高齢者のさみしい気持ちをなくす「地域の茶の間」をつくろう。(10)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢者とその暮らしについて調べ、高齢者の困りごとに気付き、理想と現実の隔たりから学級全員で取り組む課題を設定する。①「課題の設定」 必要な情報を調べながら、「地域の茶の間」の計画(場所や日時、プログラム等)を立てる。 		①		<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 ワークシート 作文 など
	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に照らし、「地域の茶の間」の計画を修正・改善しながら、複数回の「地域の茶の間」を開催する。①自己理解・他者理解 			①	<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 ワークシート 作文 など
2 持続可能な「地域の茶の間」のモデルケースを調査・体験しよう。(15)	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の茶の間」の活動を振り返り、活動の意味や価値を考えることで、課題を再設定する。②主体性・協働性 			②	<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 ワークシート 作文 など
	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の茶の間」を持続可能な形で運営しているモデルケースの調査・体験活動を行い、必要な情報を収集する。②「情報の収集」 		②		<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 ワークシート 作文 など
	<ul style="list-style-type: none"> モデルケースの特徴を整理し、その背景を分析することで、高齢者のくらしを支える人の工夫や思いについて考える。③「整理・分析」 		③		<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 作文シート
★ 評価場面の具体的事例として次ページで取り上げています	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが開催した「地域の茶の間」とモデルケースの調査・体験活動を基に、持続可能な「地域の茶の間」の在り方に気付く。①概念的な知識の獲得 	①			<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 ワークシート 作文 など
	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な「地域の茶の間」の実現に向け、必要な情報を集め、場所や日時、プログラム等の計画を立てる。 学習課題に照らし、持続可能な「地域の茶の間」の計画を修正・改善しながら複数回の「地域の茶の間」を開催する。②自在に活用することが可能な技能の獲得 		②		<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 行動観察 ワークシート 作文 など
3 高齢者だけではなく地域の人に必要とされる「地域の茶の間」をつくろう。(12)	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動で課題が解決されたかを振り返るとともに、地域の誰と協働すればよいかを考える。③将来展望・社会参画 			③	<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 ワークシート 作文 など
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人に、協働で持続可能な「地域の茶の間」を継続開催することを働きかける。④「まとめ・表現」 		④		<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 ワークシート 作文 など
	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動を通して、自分の変容を振り返り、作文にまとめる。③探究的な学習のよさの理解 	③			<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 作文 など

総合的な学習の時間

5 授業を実施し、評価しよう

Q8：実際に児童のどのような姿を評価するのですか。

A：児童が「何ができるようになったか」を、観点別の評価規準に照らして評価します。

★具体的事例（「小単元2 持続可能な「地域の茶の間」のモデルケースを調査・体験しよう。」より）

① 評価の場面

単元の導入で、高齢者の孤独を解消するため取り組まれている「地域の茶の間」の活動が、学校周辺地域では存在しないことを知った児童は、「高齢者のさみしい気持ちをなくすために、地域の茶の間をつくろう」という学習課題を設定しました。

そして、小単元1で、実際に「地域の茶の間」を企画し地域に呼びかけ、複数回の「地域の茶の間」を開催しました。参加した高齢者から喜ばれ、活動の意味や価値を実感した児童は、「自分たちが卒業してもずっと高齢者のさみしい気持ちをなくせる地域の茶の間をつくりたい」と願い、課題を更新しました。

しかし、持続可能な「地域の茶の間」の仕組みをつくる具体的な方法は思いつきませんでした。そこで、小単元2として、継続して運営されている他の二つの「地域の茶の間」の取組をモデルケースとして位置付け、調査・体験する活動に取り組み、この二つの「地域の茶の間」の取組の共通点と相違点を可視化し、収集した情報を整理・分析しました。

本評価場面は、授業者が、学習課題の解決のために大切なことは何かを問い、それについて話し合う言語活動を設定した場面です。

② 学習活動における児童の姿と評価の結果

【評価規準「知識・技能①」】

「地域の茶の間」は、地域の人と思いを共有し協働してつくることで、持続可能なものとなることを理解している。

教師：「一時的ではなく、ずっと高齢者のさみしい思いをなくせる『お茶の間』をつくるために大切なことは何だろう？」

児童A：私は、来てくれた人がどう思ってくれるかが大切だと思います。自分たちが「お茶の間」をした時に、「若い人がやってくれるから気持ちが若くなった」と言われたからです。

児童B：「寄りなせあいあい」の人が『お茶の間』は、来れば話せる相手がいて和める場所」と言っていました。だから、それを意識してどういうふうに和めるだろうかと考えながら行動することが大切だと思います。

児童C：「特技発表をやってください」と誘うと、高齢者はうれしくなって気持ちも和むと思います。

児童D：「寄りなせあいあい」の人が言っていたんですけど、「みんなが『寄りなせあいあい』のことを大事にしているから、必要としているから、なくならないようにお金とかで協力してくれる」って。だから、私は、地域の人に必要とされるように思ってもらわなくてはならないと思います。

児童E：Dさんに付け足して、AさんとBさんとCさんの考えがすべてつながって、「みんなが大事に思ってくれているから協力してくれる」というのは、地域の人には「こういうお茶の間があってほしいな」という願いがあるからだと思います。ぼくたちもそれと同じように、「お茶の間」を大事にして、必要だなんて思う…簡単に言えば、高齢者だけじゃなくて年齢関係なく、みんなが大切だなんて思える場所にすることが大切です。地域の人とぼくたちが、一緒にお茶の間をつくろうって思って、協力し合えることが大切だと思います。

【評価の結果】

児童A、児童B、児童Cについて

- 児童A、児童B、児童Cは、考えの拠り所としている体験や具体性という点においての違いはあるものの、いずれも「高齢者の立場に立って、気持ちを考えることが大切だ」と認識していると考えられます。しかし、この姿を評価規準に照らして判断すると、「地域との思いの共有や協働」という視点で「地域の茶の間」の在り方を考えているとは言えないと判断できます。

児童Dについて

- 児童Dは、前述の3人とは異なり、資料1のモデルケースで得た情報を整理することで、高齢者だけでなく、地域の理解や協力があって初めて持続可能な「地域の茶の間」が成り立つことを理解し、地域の人にとって必要な場とならなければならないと考えています。これは、「一人暮らしの高齢者に留まらず、地域の人々の立場に立って考えることも大切だ」と認識している姿であり、「地域との協働」という点において、考えが広がってきている姿です。

児童Eについて

- 最後に発言した児童Eは、これら二つの考え方を統合的に捉えることで、「『地域の茶の間』は、一人暮らしの高齢者のためだけでなく、年齢の枠を超えて地域の人々にとって大切だと思える場であり、地域との協働でつくることが大切だ」との認識に至ったと判断できます。この姿は、まさに、対話を通して事実に基づいた知識をつないで構造化し、持続可能な「地域の茶の間」の在り方についての概念的知識を創り出した姿です。

このことから、児童Eは、概念的知識として「高齢者の暮らしを支える人々の取組や思いを基に、『地域の茶の間』は、地域の人々の思いを共有し、協働でつくることが持続可能なものとなること」を形成したと評価できます。

③ 評価の結果を指導に生かす例

授業者はこの話し合いの後、一連のやり取りにおける相互作用を、児童E以外の児童の概念的知識の形成に機能させるため、「一時的ではなく、ずっと高齢者のさみしい思いをなくせるお茶の間」をつくるためには？」というテーマで自分の考えを作文シートに書く場面を設定しました。

＜児童Bの作文シートの記述＞

私は、今まで、高齢者がどういうふうに和めるかを考えることが大切だと思っていました。今日の話し合いで「地域の茶の間」を地域の人と私たちが協力してつくることが大切だと気付きました。「地域の茶の間」を地域の人と一緒にやるには、まず、地域の人に必要とされないといけないと思います。

そのために、地域の人が必要とする「茶の間」について取材をして、自分たちができることを考えたいです。

作文の記述から、当初は「(高齢者の立場に立って) どういうふうに和めるだろうかを考えることが大切だ」と考えていた児童Bも、話し合いを通して得た他の児童の考えや意見を聞いて、高齢者だけでなく地域の人との協働の必要性を理解し、「高齢者の暮らしを支える人々の取組や思いを基に、『地域の茶の間』は、地域の人々の思いを共有し、協働でつくることが持続可能なものとなる」といった概念的知識を形成していると評価できます。

6 更に深めよう

Q9 : 「探究的な見方・考え方」とは何ですか。

A : 「各教科等における『見方・考え方』を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の課題を探究し、自己の生き方と関連付けて問い続けること」と言えます。

「総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせること」とは、「特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えること」であり、また、「課題の探究を通して自己の生き方を問い続ける」という、総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方です。

探究課題は、一つの決まった正しい答えがあるわけではなく、様々な教科等で学んだ「見方・考え方」を総合的に活用しながら、様々な角度から捉え、考えることができるものであることが求められます。総合的な学習の時間では、探究的な学習を通して、課題の解決により、また新たな課題を見付けるということを繰り返していく中で、自分の生き方も問い続けていくこととなります。

児童が「探究的な見方・考え方」を働かせながら横断的・総合的な学習に取り組むことに、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつなげていくことが大切です。そして、この資質・能力は、学校教育のみならず、大人になった後に、実社会・実生活の中でも重要な役割を果たしていくこととなります。

Q10 : 指導要録への記載はどのように行うのですか。

A : 児童にどのような力が身に付いたのかを、文章で端的に記入します。

指導要録の記入に当たっては、総合的な学習の時間に行った学習活動及び各学校が定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童の学習状況の顕著な事項について、その特徴を記入します。

評価の観点については、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱を踏まえ、各学校が定めた目標と内容に基づいて、下記の国の通知で示された評価の観点及びその趣旨を参考に設定します。

<小学校 総合的な学習の時間> 評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

「改善等通知」(別紙4 各教科等・各学年の評価の観点及びその趣旨 p.30)

特別活動

1 まずは、ここを確認しよう

Q1：特別活動の学習評価の特徴は何ですか。

A：特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、**各学校が評価の観点を定める**という点です。

特別活動の記録については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入します。

特別活動は、各教科のように観点ごとの評価（A、B、C）や評定はなく、指導要録において、観点を踏まえて、各活動・学校行事ごとに児童の取組を総括的に評価するものです。

各学校が評価の観点を定める際、学習指導要領に示す特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば、以下のように、具体的に観点を示すことが考えられます。

【小学校児童指導要録（参考様式）様式2（第5学年）の記入例】

特別活動の記録		学年					
内容	観点	1	2	3	4	5	6
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能	○		○	○	○	
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○			○	
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○		
学校行事	余白	○	○				○

全学年で共通した、各学校で定めた評価の観点を記入する。

評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておく。

例えば、児童指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に「自然の教室」で、「めあてに向かって自分の役割を責任をもって行うとともに、友達と協力して野外活動に取り組んでいた。」と記入するなど、○を付けた根拠を示すようにする。

児童会活動は、第1学年から第6学年までの全児童で組織する児童会による異年齢集団活動であることから、低学年においても活動の状況を適切に評価する。

これは、クラブ活動を第4学年から実施している学校の例である。学校規模等により下学年から実施する場合は実施しない学年について斜線を引く。

なお、特別活動は、学級担任以外の教師が指導する活動が多いことから、**評価体制を確立し、共通理解を図って、児童のよさや可能性を多面的・総合的に評価する**とともに、確実に資質・能力が育成されるよう指導の改善に生かすことが求められます。

特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を基に、多くの教師による評価を反映させるなど、学校としての評価体制を確立することが大切です。

評価体制の確立

学級活動において

主として学級担任が事前から事後の振り返りまでの児童の活動の様子から、積極的によさや可能性を見取るようにする。

児童会活動、クラブ活動、学校行事において

※ 評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに、それらが学級担任の手元に届き、活用されるようにする。

学級担任

学級担任以外の教師

※ 個々の児童の活動状況について、学級担任と担当する教師との間で情報交換を密にする。

※ 必要に応じて評価した結果を全教師で共有し、指導に生かすことができるようにする。

Q2：特別活動は、なぜ「評価の観点」を各学校で定めるのですか。

A：特別活動では、児童や地域等の実態に応じて特色ある教育活動が展開されていることから、各学校においては、学校として育成を目指す資質・能力を明確にして評価の観点を定め、学校全体で共通理解を図り、組織を生かして指導に当たることが求められるからです。

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定め、指導要録にも記入します。

【特別活動の特質について】

特別活動は、課題を見だし、解決に向けて取り組むという実践的な学習であるということや、各教科等で学んだことを実際の生活において総合的に活用して実践すること、児童が自主的実践的に活動に取り組むことなどを特質としています。

さらに、特別活動の特質としては、次のようなことが挙げられます。

- ・ 目標や内容は示されているが、他の教科等に比べて、各学校において多岐にわたる活動に取り組んでいるという実態があること。
- ・ 学級活動以外は、標準授業時数の定めがなく、各学校で適切な授業時数を充てていること。

Q3：特別活動の「内容のまとめり」とは、どのようなものですか。

A：小学校特別活動における内容のまとめりは、以下のようになっています。

- 学級活動・・・(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

児童会活動

クラブ活動

- 学校行事・・・(1) 儀式的行事、(2) 文化的行事、(3) 健康安全・体育的行事、
(4) 遠足・集団宿泊的行事、(5) 勤労生産・奉仕的行事

2 各学校で「評価の観点」とその趣旨を作成しよう

Q4：「評価の観点」とその趣旨は、どのように作成するのですか。

A：小学校特別活動においては、次のような流れで作成していきます。

（Step 1） 学習指導要領の「特別活動の目標」と「改善等通知」を**確認**する。

（Step 2） 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を**設定**する。

特別活動は、それぞれ特質が異なる学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事によって構成されています。特別活動の目標はこの四つの内容の目標を総括したものであることから、指導要録に示す特別活動の評価の観点についても、特別活動全体に係る観点として示します。

Step 1

【特別活動の目標】を確認しよう。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

「改善等通知」別紙4 p.31

↓ 目標の(1)に対応

↓ 目標の(2)に対応

↓ 目標の(3)に対応

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

Step 2

各学校においては、小学校学習指導要領に示された特別活動の目標及び内容を踏まえ、**自校の実態に即し、上記の改善等通知の例示を参考に**観点を作成します。

その際、例えば次に示すように、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえて、具体的な観点を設定することが考えられます。

各学校において作成する際の例が、以下のとおり三つ示されているので、参考にして設定することも考えられます。

【特別活動における「評価の観点及びその趣旨」を基にした例】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をより よくしようとする態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【特別活動において育成を目指す資質・能力の三つの視点（「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」）を基に重点化を図った例】

集団や社会に参画するための 知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度
多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を向上する上で必要となることを理解している。 よりよい生活づくりのための話し合いの手順や合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働して、よりよい生活や人間関係を築くために、集団や個の生活上の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

【社会参画に重点化を図った例】

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
学級・学校生活の充実のために主体的に参画することの意義や、そのための話し合いの手順を理解している。 学級会等における合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	学級・学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を合意形成を図って決定したり、自分の実践目標を意思決定したりしている。	学級・学校の生活の改善・充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。 なりたい自分を目指し、これまでの自分を振り返り、これからの集団活動や生活に生かそうとしている。

※ 上記の三つの例の中で、どれが自校の実態にふさわしいか、協議して選ぶのも一つの方法です。いずれにしても、児童や地域の実態等に応じて、特別活動全体に係る観点を各学校で設定して学習評価が効果的に行われ、資質・能力を確実に育成することが求められます。

3 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成しよう

Q5 : 「内容のまとめりごとの評価規準」は、何を踏まえて作成するのですか。

A : 「内容のまとめりごとの評価規準」は、①特別活動の目標、②各活動・学校行事の目標、③各学校で設定した各活動・学校行事において育成を目指す資質・能力を踏まえて作成します。

その際、学級活動においては、次のことを踏まえて作成することが考えられます。

学級活動において

- ・ 各学年段階における配慮事項 「解説 特別活動編」(p.76)
- ・ 学級活動(1)の発達の段階に即した指導のめやす 「解説 特別活動編」(p.78)

Q6 : 「内容のまとめりごとの評価規準」の作成のポイントは何ですか。

A : 各学校で作成した評価の観点や目指す資質・能力を基に、学習指導要領で示された各活動・学校行事の「内容」に即して、評価規準を作成することです。

ポイントは以下のとおりです。

○○○○○○ 知識・技能	○○○○○ 思考・判断・表現	○○○○○○ 態度
<p>【「知識・技能」のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「知識・技能」は、話合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成する。 ・ 学習指導要領解説における資質・能力の例に示されている内容の意義を確認する。 ・ 文末を「～を理解している、～を身に付けている」とする。 	<p>【「思考・判断・表現」のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「思考・判断・表現」は、話合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、評価規準を作成する。 ・ 「表現」は、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとする。 ・ 文末を「～している」とする。 	<p>【「主体的に学習に取り組む態度」のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成する。 ・ 身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述する。 ・ 各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用いる。 ・ 文末を「～しようとしている」とする。

特別活動

(1) 学級活動について

学級活動については、発達の段階に即し、低・中・高学年ごとに評価規準を作成することが考えられます。その際、小学校学習指導要領解説特別活動編の以下のページを参考にすることができます。

- ・ 各学年段階における配慮事項 「解説 特別活動編」(p.76)
- ・ 学級活動(1)の発達の段階に即した指導のめやす 「解説 特別活動編」(p.78)

【例】

【手順】「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」を例にした手順

(ア) 学習指導要領の「**特別活動の目標**」と自校の実態を踏まえて改善等通知の例示を参考に作成した特別活動の評価の観点を確認します。



自校の評価の観点は何か？

(イ) 「**学級活動の目標**」及び学習指導要領解説で例示された「**学級活動(1)において育成することが考えられる資質・能力**」を確認し、自校として育成を目指す資質・能力を設定します。

【学級活動の目標】を確認しよう。

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

【学級活動(1)において育成することが考えられる資質・能力の例】

学級活動(1)においては、**次の例のように**資質・能力を育成することが考えられる。

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

上記の手順を踏んで次のような評価規準を設定することが考えられます。

【学級活動（１）〔第1学年及び第2学年の評価規準の例〕】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	<u>学級生活を楽しくするために</u> 問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、 <u>仲よく助け合って</u> 実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

例えば、「思考・判断・表現」では、低学年においては「学級生活を楽しくするために」、中学年では「楽しい学級生活をつくるために」、高学年では「楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために」とするなど、発達の段階に即して、より自発的、自主的な活動の充実が図られるようにします。

また、児童が問題を発見し、解決方法について話し合って合意形成を図ることは、全ての学年に共通していますが、低学年では「話し合いの進め方に沿って」、中学年では「理由などを比べ合いながら」、高学年では「多様な意見のよさを生かして」話し合い、合意形成を図ることができるようにすることが大切です。

さらに、実践においても、低学年では「仲よく助け合って」、中学年では「協力し合って」、高学年では「信頼し支え合って」というように、児童の発達の段階を踏まえるようにします。

※ 上記のことは、学級活動（２）、（３）においても同様であり、各学校においては、発達の段階に配慮して、学級活動の評価規準を作成することが求められます。

（２）児童会活動・クラブ活動について

児童会活動・クラブ活動についても、学級活動と同様の手順で、評価規準を作成します。

【クラブ活動の評価規準の例】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
同好の仲間で行う集団活動を通して興味・関心を追求することのよさや意義について理解するとともに、活動を計画する方法や創意工夫を生かした活動の進め方などを身に付けている。	クラブの一員として、よりよいクラブ活動にするために、諸問題を見いだしたり、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりしながら実践している。	<u>共通の興味・関心を追求するため</u> に、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働し、 <u>自分のよさを生かして</u> クラブの活動に積極的に取り組もうとしている。

例えば、「クラブ活動における評価規準例」では、「主体的に学習に取り組む態度」において、「共通の興味・関心を追求するため」とするなど、活動への目的意識を重視することが大切です。

また、クラブ活動の特質を踏まえた活動の状況を評価するために、「自分のよさを生かして」実践することが分かるようにして作成することが大切です。

特別活動

(3) 学校行事について

学校行事は、異なる意義をもつ五つの種類の行事の総体であるため、育成を目指す資質・能力やその過程も様々です。

したがって、評価規準についても、学習指導要領に規定された学校行事の目標や五種類の行事の内容を踏まえて作成することが求められます。

4 「指導と評価の計画」を作成しよう

Q7：「指導と評価の計画」を作成する上で大切なことは何ですか。

A：特別活動は、自主的、実践的な活動であり、活動を積み重ねる中で、育成を目指す資質・能力を育んでいくものです。各学校においては、各活動・学校行事それぞれの目標やねらいが十分達成できるように適切に授業時数を充てるようにし、各活動・学校行事ごとに指導と評価を適切に位置付けた計画を作成することが大切です。

① 各活動・学校行事ごとの評価規準の作成



② 「目指す児童の姿」の設定

○ 各学校で評価規準を設定する際には、学級活動(1)、(2)、(3)の低・中・高学年の発達の段階、児童会活動、クラブ活動、各学校行事について、観点ごとに設定することが考えられます。

○ 1単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を、具体的に設定することが考えられます。その際、評価場面の重点化を図ることも考えられます。

5 授業を実施し、評価しよう

【多面的・総合的な評価の工夫】

評価を進めるに当たっては、活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。

児童一人一人を評価する方法としては、**教師による観察が中心**となりますが、チェックリストや児童自身の各種記録の活用など、評価方法の特質を生かして評価するようにします。観察による教師の評価と併せて、児童自身による評価を参考にすることも考えられますが、**児童の評価をそのまま教師の評価とすることのないよう配慮**することが必要です。

【評価機会の工夫】

特別活動は、活動の積み重ねにより**年間を通して児童の資質・能力の育成を図る**ものです。全ての評価の観点について、**事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価**できるようにしたり、**各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録**したりしておき、一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき、**まとめて評価**するなど、効果的で効率的な評価となるよう配慮する必要があります。

Q8：特別活動の評価において最も大切なことは何ですか。

A：特別活動の評価において、最も大切なのは、児童一人一人の**よさや可能性を積極的に評価**することです。そして、集団活動を特質とする特別活動においては、**児童一人一人の変容だけでなく、集団の発達や変容についても見取り**、自己の指導の改善に生かすことが求められます。

特別の教科 道徳

1 まずは、ここを確認しよう

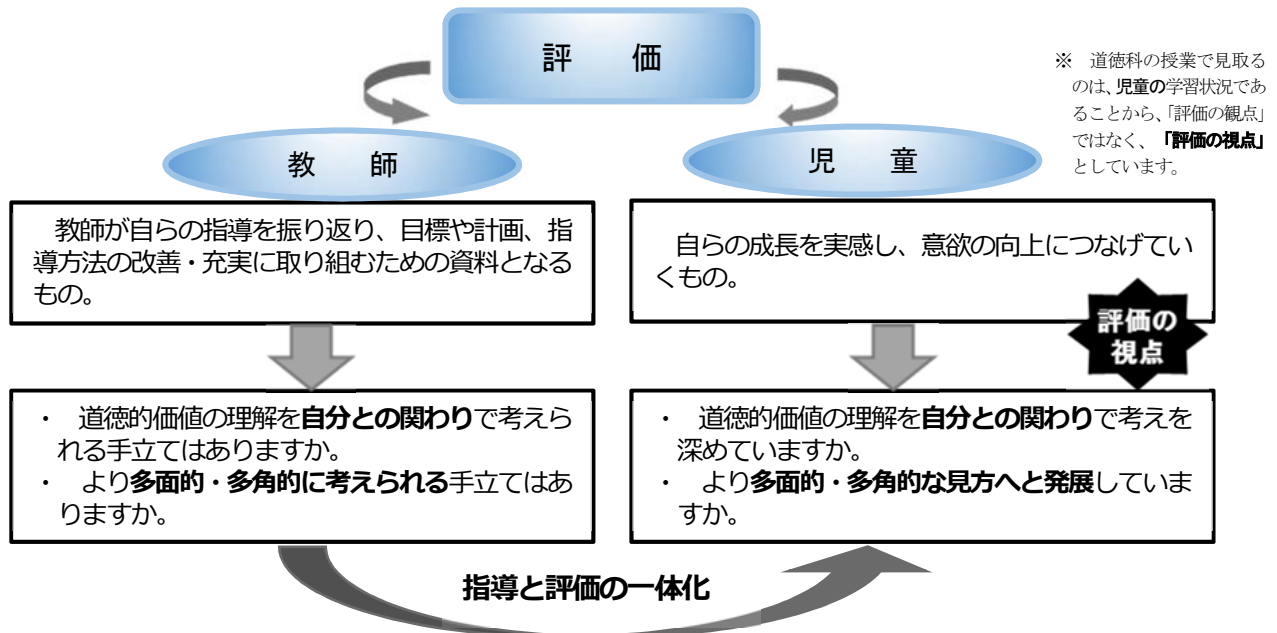
Q1：なぜ道徳科で評価を行うのですか。

A：児童が自らの成長を実感し、意欲の向上につなげられるよう、評価を行います。また、教師にとっては、評価の考え方を踏まえて授業改善を行うことで学習が充実し、道徳科の授業の実現に向かうことにつながります。

道徳科においても、**指導と評価の一体化を図り、児童の心の成長につなげていくことが大切です。**

【道徳科の目標】

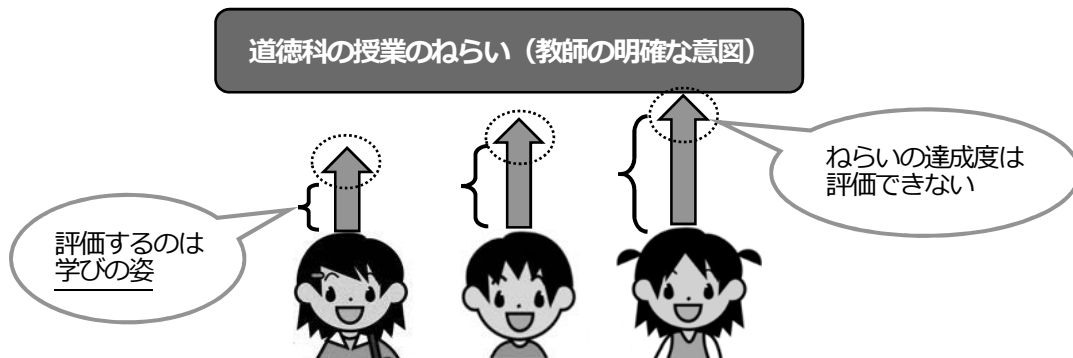
第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



Q2：どのようなことを評価するのですか。

A：児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子（学びの姿）を継続的に把握し、評価します。一人一人の成長を認め、励ます個人内評価を行います。

評価するのは一人一人の学びの姿であり、道徳的価値が理解できたか、道徳性がどれだけ育ったのかを評価するものではありません。



<参考> 道徳科の評価の在り方

- ・ 数値による評価ではなく、記述式とすること。
- ・ 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- ・ 他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- ・ 学習活動において児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- ・ 発達障害等のある児童が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。

2 評価をしよう

Q3：児童のどのような学びの姿を見取るのですか。

A：次のようなことを重視して、児童の学びの姿を見取ります。

- 道徳的諸価値の理解に基づく学習活動において、児童が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

例えば、以下のような具体的な姿が考えられます。

- ・ 道徳的価値のよさや大切さ、難しさについて考えようとしている。
- ・ 道徳的価値について、一つの見方だけではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・ 道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・ 授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。 など

Q4：児童の学びの姿を、どのようにして見取るのですか。

A：学習の過程を通して、いかに道徳的価値の理解を深めようとしていたか、自分との関わりで考えたかなど、成長の様子を見取るためのものであることに留意しながら、次のようにして見取ります。

- 児童の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積する。
- 児童が道徳性を養っていく過程での児童自身のエピソードを累計する。
- 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を記録する。
- 児童が行う自己評価や相互評価を通して児童のよい点や可能性に気付く。


評価は、たった1時間の授業でするものではありません。継続的に行うことが重要です。

また、個々の内容項目ごとに行うものでもありません。年間や学期などの、大きくくりのまとまりの中で児童の道徳性に係る成長の様子を見取ります。



「道徳科における評価」の詳しいことについては、「栃木県道徳教育ハンドブック」（令和2年3月栃木県教育委員会）のpp.34-40 ページを御覧ください。

また、このハンドブックには、道徳教育や道徳科の授業についての内容も含まれますので、ぜひ御活用ください。



第3章

評価を生かそう

1 学習評価の充実のために

Q1：評価を評定につなげるには、どのようにすればよいでしょうか。

A：これまで同様に、各観点の評価結果をA、B、Cの組合せ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基ついで総括します。なお、小学校においては、その結果を3段階で表します。

A、B、Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろう場合は、小学校については、「BBB」であれば2を基本としつつ、「AAA」であれば3、「CCC」であれば1とするのが適当であると考えられます。それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組合せから適切に評定することができるようあらかじめ各学校において決めておく必要があります。

なお、観点別学習状況の評価結果は、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように表されますが、そこで表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定を算出することは適当ではない場合も予想されます。

また、評定は、小学校については、小学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「十分満足できる」状況と判断されるものを3、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを2、「努力を要する」状況と判断されるものを1という数値で表されます。しかし、この数値を児童の学習状況について三つに分類したものと捉えるのではなく、常にこの結果の背景にある児童の具体的な学習の実現状況を思い描き、適切に捉えることが大切です。評定への総括に当たっては、このようなことも十分に検討する必要があります。

なお、各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、児童及び保護者に十分説明し、理解を得ることが大切です。

Q2：「十分満足できる」状況（A）は、どのように判断したらよいですか。

A：各教科において「十分満足できる」状況（A）と判断するのは、評価規準に照らして、児童が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合です。

「十分満足できる」状況（A）と判断できる児童の姿は多様に想定されるので、学年会や教科部会等で情報を共有することが重要です。

Q3：障害のある児童の学習評価について、どのようなことに配慮すべきですか。

A：学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童においても同様です。個々の児童の障害の状態等に応じて指導内容や指導方法の工夫を行い、観点別学習状況を踏まえた評価を適切に行うことが必要です。

学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童の学習評価についても変わるものではありません。このため、障害のある児童については、特別支援学校等の助言または援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を行い、その評価を適切に行うことが必要です。

また、個別の指導計画を作成している児童について、指導要録の指導に関する記録に記載すべき事項が当該指導計画に記載されている場合には、その写しをもって指導要録への記入に替えることも可能です。

2 指導と評価の一体化のために

Q4：指導と評価の一体化を図るためには、どのようなことが重要なのでしょうか。

A：指導したことをきちんと評価すること、評価したことを指導に生かすことが重要です。

学習評価を、教師の指導改善と、児童の学習改善につなげるためには、教師が指導したいことや実際に指導していることと、学習評価として児童にフィードバックされることのずれがないようにしていくことが必要です。例えば、児童が思考・判断し表現するような学習活動が行われているにも関わらず、評価場面が単純な知識の定着を問うような一問一答式のテストのみであったとすれば、これは指導したことで身に付けた資質・能力を測ることにはつながらず、評価したことをまた指導に生かすことは難しいと考えられます。

資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要です。

「評価に戸惑う児童生徒の声」

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ」(H30年8月7日)における、大学生や高校生の意見

私の通っていた高校では…授業中に寝たらマイナス1点、発言したらプラス1点といったように、学力とは直接関係のないことをポイント化して評価を付けているという現状が実際にありました。…これだと、能力がある子ではなくて、真面目に授業を聞く子、それから、積極的に発言する子というのが評価されてしまいますので、それらを意欲として評価し、それによって評定値を上下させるというのは、評価の正当性に欠けていると思います。

関心・意欲・態度という観点でポイントを付けたとしても、それは科目に対する意欲ではなくて、授業に真面目に取り組むという意欲なので、本来評価すべき点とすり替わってしまっていると、私は思っていました。



先生によって観点の重みが違うんです。授業態度をととても重視する先生もいるし、テストだけで判断するという先生もいます。そうすると、どう努力していけばよいのか本当に分かりにくいんです。

これらはあくまで一部の意見ですが、学習評価に対するこうした意見には、適切な評価を求める切実な思いが込められています。そのような声に応えるためにも、教師は、児童への学習状況のフィードバックや、授業改善に生かすという評価の機能を一層充実させる必要があります。

教師と児童が共に納得する学習評価を行うためには、評価規準を適切に設定し、評価の規準や方法について教師と児童及び保護者で共通理解を図るガイダンス的な機能と、児童の自己評価と教師の評価を結び付けていくカウンセリング的な機能を充実させていくことが重要です。

参考資料

この参考資料の作成に当たっては、以下の資料を参考にしました。

【文部科学省・国立教育政策研究所の資料】

- ・ 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」
中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会（平成 31 年 1 月 21 日）
- ・ 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」
文部科学省 初等中等教育局（平成 31 年 3 月 29 日）
- ・ 「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編）」
文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和元年 6 月）
- ・ 平成 29 年改定の小・中学校学習指導要領に関する Q & A
文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教育課程企画室（令和元年 11 月）
- ・ 平成 29・30 年改訂の学習指導要領下における学習評価に関する Q&A
文部科学省 初等中等教育局（令和元年 11 月 5 日）
- ・ 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」
文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和 2 年 3 月）
- ・ 初等教育資料
No.969（平成 30 年 1 月）、No.976（令和元年 1 月）、No.981（令和元年 6 月）、No.989（令和 2 年 1 月）、
No.990（令和 2 年 2 月）

栃木県教育委員会事務局義務教育課において、以下の者が本資料編集を担当しました。

課長	柳田 伸二
主幹	大高 栄男
課長補佐	安藤 育夫
副主幹	吉川 真弓
副主幹	水井ゆかり
副主幹	坂井 英史
副主幹	石川 佳広
副主幹	伊藤 昌夫
副主幹	吉田 元保
指導主事	小松 純子
指導主事	小堀美佐子
指導主事	砂川 裕美
指導主事	栗坪 辰徳
指導主事	関 敦巳

VERY 
GOOD
LOCAL

とちぎ

新学習指導要領に基づく
指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料

令和2（2020）年7月発行
編集発行 栃木県教育委員会
〒320-8501 栃木県宇都宮市埜田 1-1-20
栃木県教育委員会事務局義務教育課
TEL028-623-3392 FAX028-623-3399